

令和 6 年能登半島地震における DHEAT 活動の検証

研究分担者 富尾 淳（国立保健医療科学院健康危機管理研究部 部長）

研究要旨：令和 6 年能登半島地震（能登半島地震）における災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）活動の検証を目的として、DHEAT の派遣元自治体の担当者、DHEAT 各班の班長および構成員を対象とした質問紙調査を実施した。派遣元自治体の多くは、平時から本庁の調整窓口や派遣調整の担当者を定めており、今回の派遣に関する業務も概ね円滑に実施できたと回答していた。一方で、職種を考慮した派遣対象者の確保や都道府県内での保健所設置市等との調整などが課題として認識された。班長および構成員の調査からは、DHEAT が、状況の分析・評価、渉外（リエゾン）活動、対策の企画立案、会議資料の作成、会議運営などの本部支援活動に主に従事していたことが確認できた。その一方で、DHEAT としての活動目標や活動内容の明確化、班長と構成員との間の認識の共有、支援対象となる自治体や多様な支援チームとの連携構築、情報システムの利活用、安全・健康管理の充実、研修受講者の割合の向上などが課題であると考えられた。今後、本調査の詳細な分析を行うとともに、受援側の担当者や他の支援チームの担当者を対象としたインタビューを実施し活動の検証を進める。

A. 研究目的

災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）は、大規模災害時に、被災していない都道府県等の専門的な研修を受講した職員が、被災都道府県の本庁や保健所等に派遣され、災害時の保健医療福祉活動のマネジメントを支援する組織として 2018 年に制度化された。一方、これまで豪雨災害等での派遣実績はあったものの、規模や活動期間は限られており、実際の派遣活動を通じた体制強化の機会は限られていた。令和 6 年元日に発生した令和 6 年能登半島地震（以下、能登半島地震）では、37 の都道府県・指定都市等から、105 班（金沢市からの県内 DHEAT1 班を含む）の DHEAT が派遣され、石川県庁や石川県内の保健所、市町、大規模避難所で保健医療福祉に関する支援活動に 2 か月以上にわたって従事した。DHEAT の支援活動については、有用であったという意見もある中で、個別の振り返りなどを通じ

て、十分な活動ができなかったという意見や、班による活動内容のばらつきなどの課題も指摘されており、今回の活動実態を多角的に把握し、今後の活動や研修等の人材育成の改善に繋げることは急務となっている。本研究では、能登半島地震における DHEAT 活動の検証を目的として、DHEAT として派遣された自治体職員および派遣元自治体の担当者を対象として質問紙調査を実施した。

B. 研究方法

本研究は、DHEAT の派遣元自治体の担当者、各班の班長および構成員を対象とした 3 つの質問紙調査を実施した（以下、「派遣元調査」、「班長調査」、「構成員調査」とする）。

1. 調査対象

1) 派遣元調査：DHEAT を派遣した都道府県および市の全数（厚生労働省の派遣調整により DHEAT を派遣した 29 都道府県、7 指定都市

（うち仙台市、名古屋市は宮城県、愛知県との合同派遣））、および石川県内で派遣のあった金沢市の合計37自治体のDHEAT派遣担当者

2) 班長調査：DHEATとして派遣された各班の班長（延べ105人/105班（金沢市からの県内DHEAT1班を含む））

3) 構成員調査：DHEATとして派遣された班長以外の構成員（標準的には1班5名とされるため、延べ416名（4名×104班（県内DHEATは除く））となるが、実際の構成員数は自治体や班により異なるため実数は不明）

2. 調査実施期間

2025年2月20日～3月14日

3. 調査方法

1) 派遣元調査：郵送自記式質問紙調査またはウェブ入力回答の併用とした。自治体のDHEAT担当者部局あてに調査依頼文書および調査票を郵送し、調査票に回答を記入し返送、またはウェブフォームへの入力により回答を得た。

2) 班長調査：ウェブ入力回答とした。派遣元自治体担当者経由で、当該自治体のDHEATとして派遣された職員に調査説明資料を配布してもらい、専用ウェブサイトからウェブフォームへの入力により回答を得た。

3) 構成員調査：ウェブ入力回答とした。詳細は「2) 班長調査」と同様。なお、班長、構成員いずれの調査も2回以上派遣された職員は、派遣ごとに回答を依頼した。

なお、各調査の調査票は資料1を参照のこと（班長調査および構成員調査は、ウェブフォームを用いたため実際の形式とは異なる）。

4. 調査内容

DHEATの派遣に関する以下の項目について調査した。

1) 派遣元調査：自治体名、過去の派遣実績、派遣概要（派遣班数、構成員数、活動場所等）、組織体制、構成員の決定過程、派遣調整業務、派遣活動支援、派遣後の職員支援、活動の評

価、研修・訓練について、その他（DHEATへの要望等）

2) 班長調査：自治体名、派遣概要、派遣の経緯・準備、活動目的、指揮命令系統・活動体制、活動内容、チームワーク、関係機関との連携、DHEAT連絡会議、安全管理・健康管理、情報システムの活用、ロジスティクス、派遣元の支援、活動日報、引き継ぎ、活動の評価、研修・訓練、その他、個人情報（年齢階級（10歳刻み）、性別、職種、職位、研修受講歴、災害支援経験、災害受援経験）

3) 構成員調査：自治体名、派遣概要、派遣の経緯・準備、活動目的、指揮命令系統・活動体制、活動内容、チームワーク、関係機関との連携、安全管理・健康管理、情報システムの活用、活動日報、活動の評価、研修・訓練、その他、個人情報（年齢階級（10歳刻み）、性別、職種、職位、研修受講歴、災害支援経験、災害受援経験）

5. 解析

カテゴリ変数については項目ごとの割合を算出し、連続変数については平均（標準偏差）、中央値（四分位範囲）を算出した。

（倫理的配慮）

本研究および調査の実施にあたっては、国立保健医療科学院研究倫理審査委員会による審査を受け承認を得て実施した（承認番号：NIPH-IBRA#24034）。

C. 研究結果

各調査の主な結果について以下に示す。結果の詳細は資料2を参照のこと（なお、結果は暫定値であり、今後の解析により修正される場合がある）。なお、結果の記載にあたり、「とてもそう思う」、「そう思う」の回答をまとめて表記する際などは、「（とても）そう思う」のように（）を用いて表記した。

1. 派遣元調査

対象とした37自治体のうち33自治体（89%）から回答が得られた。派遣職員数派遣班数、構成員数、派遣期間、活動期間の概要を表1

表 1 DHEAT 派遣の概要（派遣元調査 n=33）

	平均 (標準偏差)	中央値 (四分位範囲)
派遣職員数（人）	14.0 (9.9)	10.0 (6.0-21.0)
派遣班数（班）	2.9 (1.9)	2.0 (1.0-4.0)
班の構成員数（人）	5.0 (1.0)	5.0 (5.0-5.0)
派遣期間（移動日含む）（日）	8.5 (5.1)	8.0 (7.0-9.0)
現地活動期間（日）	6.9 (1.5)	7.0 (6.0-8.0)

に示す。なお、回答が得られた 96 班分の情報に基づく、職種別では 1 班あたり保健師が 1.8 人と最多で、次いで医師 1.1 人、事務職員 0.7 人、薬剤師 0.6 人、管理栄養士 0.2 人、その他は 0.1 人以下であった。

活動場所は、情報が得られた 93 班のうち、石川県庁と能登北部保健所が各 24 班（26%）と最多であった。

大部分の自治体（94%）が平時から DHEAT に関する自治体本庁の調整窓口を定め、派遣調整の担当者を決めていた。また、平時から DHEAT および保健師等チームの編成・運用に関するマニュアル等を作成していたのは各 52%、61% であったが、両方を作成していた 12 自治体のうち、DHEAT と保健師等チームの同時派遣を想定したマニュアル等を有していたのは 1 自治体のみであった。

DHEAT の派遣の決定には、多くの自治体で本庁 DHEAT 担当課長、同担当職員、本庁統括保健師が関与しており、73% で統括 DHEAT に相当する職員が関与していた。派遣の決定にあたって重視した事項として、すべての自治体が派遣可能な職員の確保状況を挙げ、39% が災害支援経験を通じた自治体の体制強化を挙げていた。

DHEAT 候補者の名簿管理を行っていたのは 79% であり、その多くが名簿が役に立ったと回答した。派遣職員の選定にあたって考慮した項目のうち回答が多かったものは、職種（97%）、本人の意思・希望（97%）、本人の能力・適正（94%）、DHEAT 研修受講歴（88%）、職位（85%）であった。

派遣元自治体の体制としては、DHEAT の派遣調整・活動支援に従事した職員は平均 6.7 人（標準偏差 5.7 人）、中央値 4.5 人（四分位範囲 2.8-8.3 人）であった。また、今回の派遣にあたっての業務期間は平均 78.8 日（標準偏差 65.6 日）、中央値 58.0 日（四分位範囲 41.0-90.0 日）であった。DHEAT に加えて保健師派遣も担当していた自治体は 27%、部分的に担当していたのは 36% であった。DHEAT 派遣に関する業務のうち、石川県までの移動手段の手配（97%）、活動に必要な備品・物資の確保（94%）、石川県内の移動手段の手配（94%）は、ほとんどの自治体で実施されていた。都道府県内の指定都市・保健所設置市・特別区との調整については、46% が（概ね）円滑に実施できたと回答した一方で、39% が（あまり）できなかったと回答した。選定が困難だった職種として、医師（49%）、業務調整員（49%）、保健師（46%）が多く挙げられた。なお、ほとんどの自治体（97%）が保健師等チームの派遣を行っていたが、このうち 81% は DHEAT 構成員として保健師を派遣する場合の調整についても円滑に実施できたと回答した。DHEAT の派遣について、76% が必要な期間を通じて派遣できたと回答した。派遣できなかった理由としては、職員の確保ができなかったことが最多であった。

DHEAT 活動の振り返りは 88% の自治体で行われていたが、振り返りを通じて改善に向けた計画などを作成していたのは、このうち 17% であった。

DHEAT 研修・訓練が今回の支援活動に有用であったかについては、とてもそう思う・ややそう思うが 79% であった。

2. 班長調査

57 件（延べ 57 人）の回答が得られた。DHEAT 派遣班数（105 班）を分母とした場合の回答割合は 54% であった。所属自治体は 29 自治体であり、8 人（14%）は複数回派遣されていた。年齢は 50 歳代が最多（42%）で男性が 68%、

全員が医師であった。研修受講歴は、DHEAT 基礎編研修が 93%、標準編（高度編）研修が 56%、統括 DHEAT 研修が 44%であった。能登半島地震より前に DHEAT として災害支援経験があったのは 16%で、53%は支援経験がなかった。また、受援経験があったのは 19%であった。活動場所については、情報が得られた 57 人のうち石川県庁が 21%で最多であった。活動期間および活動時間の概要を表 2 に示す（活動時間は最も長時間となる傾向がみられた 4 日目の値を示す）。

表 2 DHEAT 活動の概要（班長調査 n=57）

	平均 (標準偏差)	中央値 (四分位範囲)
派遣期間（移動日含む）（日）	9.1 (6.3)	8.0 (7.0-9.0)
現地活動期間（日）	8.0 (6.5)	7.0 (7.0-8.0)
4 日目の活動時間 （合計平均）（時間）	14.3	—
支援先での活動時間（時間）	10.9 (2.3)	11.0 (9.0-12.0)
移動時間（時間）	2.1 (2.0)	1.0 (0.5-3.0)
宿泊先等での活動時間（時間）	1.3 (2.8)	0.5 (0.0-1.0)

県庁や保健所、市町等の支援対象組織での保健医療福祉活動の目的、DHEAT の活動全体の目的が明確に示されていたと回答したのは、共に 61%であった。また、77%が当該派遣期間の DHEAT の活動目標を構成員に対して具体的に説明したと回答した。

活動形態は、班単位が 18%、班単位を基本としつつ個別に活動が 49%、個別に活動（溶け込み型）が 19%であった。また、構成員の活動内容については、79%が（概ね）決めたてたと回答し、93%が構成員の活動内容を（概ね）把握できていたと回答した。班のチームワークについては、91%が（とても）よかったと回答した。

従事した活動として回答が多かったものは、状況の分析・評価（93%）、渉外（リエゾン）

活動（89%）、対策の企画立案（86%）、会議資料の作成（82%）、会議運営（81%）であった。

県庁や保健所などの対象支援組織との情報共有は、7 割程度が（概ね）できたと回答したが、2 割程度は（あまり）できなかったと回答した。支援チームとの情報共有は、チームにより関与の程度に差がみられたが、多くの班が関わった DMAT、保健師等チームとの間では、9 割以上が（概ね）できたと回答した。県庁や保健所などの対象支援組織との状況認識・活動方針の共有は、7-8 割は（概ね）できたと回答したが、2 割程度は（あまり）できなかったと回答した。支援チームとの状況認識・活動方針の共有についても、DMAT、保健師等チームとの間では、9 割以上が（概ね）できたと回答した。

今回の支援で初めて開催された「DHEAT 連絡会議」が有効に機能していたかについては、63%が（とても）そう思うと回答した一方で、14%が（全く）そう思わないと回答した。構成員の安全・健康の管理については、多くの項目で（概ね）できたと回答していたが、睡眠・休息の確保については、16%が（あまり）できなかったと回答した。

情報システムの使用状況については、約半数が災害時保健医療福祉活動支援システム

（D24H）、支援者健康管理版 J-SPEED（注：災害時診療概況報告システム（J-SPEED）を支援者の健康管理用のシステムとして開発したもの）を使用したと回答したが、それ以外のシステムについては、使用していないという回答が多い傾向がみられた。D24H については、使用した人のうち 61%が（概ね）使いこなせたと回答していた。また、DHEAT 活動における情報システムの有用性については、広域災害救急医療情報システム（EMIS）、D24H は半数以上が（とても）そう思うと回答したが、いずれのシステムについても、わからないと回答した割合が 2-4 割程度と多い傾向がみられた。

活動に関する移動手段や必要な物資等については、大部分が問題なく・概ね確保できたと回答したが、宿泊先については、25%が確保が（きわめて）困難であったと回答した。派遣元からの支援では、物資支援が74%と最多であった。また、健康管理、安全管理、情報分析等の技術的支援、記録作成等の事務作業については、10-15%が支援の必要があったが、派遣元からの支援を受けなかったと回答した。DHEAT 活動記録については、大部分が活動日報を作成しており、派遣元自治体、支援先自治体に報告していた。また、40%は活動日報以外に活動記録を作成していた。

今回の活動について、活動期間、班の人数については、ちょうどよかったとする回答が各67%、75%で最多であった。構成員の職種等の構成については、86%が適切だったと回答した一方、11%が問題があったと回答した。活動目標を達成できたかどうかについては、84%が（とても）そう思うと回答した。班の支援活動が防ぎえた死と二次健康被害の最小化に貢献したかについては、68%が（とても）そう思うと回答したが、14%がどちらでもない、12%がわからないと回答した。また、被災地の保健医療福祉の復旧に貢献したかについては、70%が（とても）そう思うと回答したが、19%がどちらでもない、9%がわからないと回答した。班としての業務遂行状況は、情報収集・分析は9割以上が（概ね）できたと回答したが、対策の企画立案については、（概ね）できたが75%であった。また、今回の派遣が自身の健康危機管理能力の向上、自治体の健康危機体制の強化に寄与したかについて、（とても）そう思うと回答したのは各88%、82%であった。

活動を踏まえた研修の有用性については、受講歴のある人のうち、有用性について（とても）そう思うと回答したのは、DHEAT 基礎編研修が81%、標準編（高度編）研修が74%、統括 DHEAT 研修が92%、自治体主催の研修・訓練が80%であった。また、研修・訓練で特に

重視すべき項目として、回答が多かったものは、状況の分析・評価、調整本部等の設置・運営、指揮調整体制の構築、であった。

3. 構成員調査

160 件（延べ160 人）の回答が得られた。構成員を416 人（平均4 人×104 班）とすると、回答割合は38%程度と推定された。所属自治体は33 自治体であり、4 人(3%)が複数回派遣されていた。年齢は50 歳代が最多（43%）で女性が53%であった。職種は保健師が44%で最多であり、次いで事務職員18%、薬剤師16%であった。研修受講歴はDHEAT 基礎編研修が58%、標準編（高度編）研修が10%であった。能登半島地震より前にDHEAT として災害支援経験があったのは6%だったが、34%は保健師等チームでの支援経験があった。受援経験があったのは22%であった。

今回の主な派遣先としては、石川県庁(17%)、能登北部保健所(18%)、珠洲市(18%)、輪島市(15%)が多かった。活動期間および活動時間の概要を表3に示す（活動時間は最も長時間となる傾向がみられた4日目の値を示す）。

表3 DHEAT 活動の概要（構成員調査 n=160）

	平均 (標準偏差)	中央値 (四分位範囲)
派遣期間（移動日含む）（日）	7.8 (1.9)	8.0 (6.8-9.0)
現地活動期間（日）	6.5 (1.5)	6.0 (5.0-7.0)
4日目の活動時間（合計平均）（時間）	13.4	—
支援先での活動時間（時間）	10.7 (2.5)	11.0 (9.0-12.0)
移動時間（時間）	1.8 (1.8)	1.0 (0.5-2.9)
宿泊先等での活動時間（時間）	0.9 (2.2)	0.5 (0.0-1.0)

DHEAT の活動全体の目的が明確に示されていた、当該派遣期間のDHEAT の活動目標が具体的に示されていたと回答したのは、各73%、62%であった。

活動形態は、班単位が 34%、班単位を基本としつつ個別に活動が 54%、個別に活動（溶け込み型）が 6%であった。また、活動内容については、74%が（概ね）明確に決まっていたと回答し、89%が他の構成員の活動内容を（概ね）把握できていたと回答した。

従事した支援活動として回答が多かったものは、状況の分析・評価（81%）、会議資料の作成（81%）、被災情報等の収集・集計（78%）、会議運営（72%）であった。

県庁や保健所などの対象支援組織との情報共有については、7割程度は（概ね）できたと回答したが、2割程度は（あまり）できなかったと回答した。支援チームとの情報共有は、チームによって関与の程度に差がみられたが、多くの班が関わった DMAT、保健師等チームとの間では、9割以上が（概ね）できたと回答した。

安全・健康の管理については、多くの項目で（概ね）できたと回答したが、睡眠・休息の確保、清潔の確保については、各 27%、23%が（あまり）できなかったと回答した。また、活動期間中の身体面、精神面の健康状態について、大多数は（概ね）良好だったと回答していたが、各約 1割はやや悪かった・とても悪かったと回答した。

活動期間中の心身の健康状態等の相談体制が整っていたかについては、52%がとても思う・やや思うと回答した一方、16%が（全く）そう思わないと回答した。

情報システムについては、D24H を使用した構成員は 38%、支援者健康管理版 J-SPEED は 25%であり、使用していない割合が過半数であった。D24H については、使用した人のうち 54%が（概ね）使いこなせたと回答していた。今回の活動について、活動期間、班の人数については、ちょうどよかったとする回答が各 65%、83%で最多であった。構成員の職種等の構成については、80%が適切だったと回答した一方、10%が問題があったと回答した。

活動目標を達成できたかどうかについては、82%が（とても）そう思うと回答した。また、DHEAT の構成員として支援活動に貢献できたかについては、68%が（とても）そう思うと回答したが、19%がどちらでもない、7%が（全く）そう思わないと回答した。

業務遂行状況については、情報収集・分析は、79%が（概ね）できたと回答したが、対策の企画立案、支援対象組織における指揮調整体制の構築については、（概ね）できたが各 58%、52%であった。また、今回の派遣が自身の健康危機管理能力の向上、自治体の健康危機体制の強化に寄与したかについては、各 86%、81%が（とても）そう思うと回答した。

活動を踏まえた研修の有用性については、受講歴のある人のうち、有用性について（とても）そう思うと回答したのは、DHEAT 基礎編研修が 76%、標準編（高度編）研修が 68%、統括 DHEAT 研修が 70%、自治体主催の研修・訓練が 78%であった。

D. 考察

能登半島地震の DHEAT 活動について、派遣元担当者、DHEAT の班長と構成員を対象として質問紙調査を実施し結果の概要を示した。

DHEAT については、平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）や令和 2 年 7 月豪雨などでの派遣実績があるが、今般の能登半島地震では、DHEAT の制度化以来最大規模の支援活動が行われた。本調査は、この活動の実態を把握し、今後の DHEAT 活動や関連する研修等の改善に向けた教訓を得ることを目的として実施したものである。なお、自由記載による回答の分析や自治体や派遣時期、派遣先等を考慮した詳細な分析は今後実施する予定であり、本報告では各調査の単純集計結果に基づいて考察する。

1. 派遣元調査

DHEAT 1 班あたりの構成や派遣日数は自治体間で大きな差はみられなかったが、DHEAT の派遣班数、派遣職員数は自治体により大きく異なっていた。地方ブロックや過去の派遣実

績などが影響している可能性があるが、必要とされる期間を通じて DHEAT を派遣することができなかったと回答した自治体も 2 割程度あり、特に医師、業務調整員、保健師の確保・選定が困難であった自治体が多かったことから、事務職員も含めて多職種で、派遣可能な職員を育成・維持することが今後の課題であると考えられる。一方で、今回宮城県、山形県、福島県のように複数の県で合同チームを編成した事例もあり、都道府県独自で継続した派遣が難しい場合の選択肢の 1 つになるものと考えられる。

DHEAT 派遣体制としては、ほとんどの自治体で本庁の調整窓口や派遣調整の担当者を定めており、また、DHEAT 派遣に関する業務についても円滑に実施できたと回答した自治体が多かったことから、体制整備が進んでいることが伺える。一方で、都道府県内の指定都市・保健所設置市・特別区との調整が円滑にできなかった都道府県も 4 割程度あり、都道府県内の連携体制の構築が課題と考えられた。

2. 班長調査・構成員調査

班長は全て医師であり、大部分が基礎編研修を受講していたが、標準編（高度編）研修の受講者は半数程度にとどまっており、半数以上は災害支援の経験がない状況での派遣となっていた。一方、構成員は保健師が半数近くを占めており、研修の受講歴は班長に比べてさらに低く、基礎編でも約半数にとどまっていた。一方で、保健師等チームなどを通じた災害支援経験がある職員が班長に比べて多く含まれていた。DHEAT を派遣した自治体では、今回の派遣を通じて経験を有する職員が一定程度増えたものと思われるが、活動の形態としては、純粋な班単位や溶け込み型は比較的少なく、班単位を基本としつつ個別に活動していた班が多かった。一方で、DHEAT の活動目標や構成員の活動内容については、明確に示していなかった班もあり、また、班長に比べて構成員で、活動目標や役割が明確であったとする回答割合が低い傾向がみられた。班

のメンバー間での認識の共有のあり方も含めて改善が求められる。

実施した支援活動では、状況の分析・評価、渉外（リエゾン）活動（連絡窓口）、対策の企画立案、会議資料の作成、会議運営が多く実施されていた。いずれも、「DHEAT 活動ハンドブック（第 2 版）」で DHEAT が担う活動として挙げられ、過去の災害でも実施されてきた活動だが、令和 2 年 7 月豪雨における活動の記録と比較すると、いずれの活動も実施割合が高く、「渉外（リエゾン）活動（連絡窓口）」は特に班長で高い割合となっていた。過去の災害時に比べて DHEAT の活動内容が明確になってきたこと、大規模で多くの自治体で多くの支援チーム等が関わったことで、渉外（リエゾン）活動のニーズが高かったことなどが理由として考えられる。

県庁や保健所との連携については、情報や状況認識、活動方針の共有は概ね良好にできていた一方で、共有できなかったという回答も 2 割程度あり、その要因等について今後分析する必要がある。支援チームについては、DMAT や保健師等チームなど以前の災害等を通じて活動上の接点が多いチームについては良好な連携関係が構築できていたようだが、比較的新しい組織については、関わりがなかったという回答も多かった。平時からの訓練等を通じて多様な関係機関との連携を構築していくことが必要だろう。

今回の災害では、D24H が初めて本格的に稼働し、情報システムの利活用が注目されたが、実際に使用した割合は班長で約半数、構成員では 3 割程度であった。使用した場合でも、使いこなせなかったという回答も少なくなく、システム自体の整備とともに、研修等を通じた個人のスキルの向上を併せて行うことが求められる。

安全・健康管理について、概ね良好に実施できていたと考えられるが、睡眠・休息の確保や清潔の確保については十分でなかった班もあったようである。また、班長に比べて構成

員で十分でなかったとする回答が多い傾向がみられた。今回の派遣では移動時間が長時間となった班も多く、移動も含む1日の活動時間が平均で14時間程度となっていた。必要な活動内容の整理とともに、職員の適切な活動時間や安全・健康管理のあり方についても検討していく必要があるだろう。

今回の活動の評価や、活動を踏まえた研修の有用性については、概ね良好な回答が多かったが、そうでない回答も散見されたため、これに関する自由記載の回答の内容や職員の属性等も踏まえて今後精査する必要がある。また、業務の遂行に関する評価では、情報収集・分析、対策の企画立案など、班長に比べて構成員ではそれぞれ10-20ポイント程度低い評価であった。これについても要因を検討するとともに、業務内容の標準化などについて検討する必要があると考えられた。

本調査の限界として主に以下の点が挙げられる。派遣元調査については、今回 DHEAT を派遣した都道府県・指定都市のみを対象としたため、DHEAT の体制整備の状況などは、全国の都道府県・指定都市の実態とは一致しない可能性があることに注意が必要である。班長調査と構成員調査は回答割合が低く、本調査の結果が必ずしも実態を反映していない可能性がある。また、調査期間が派遣から約1年後と時間が経過したことで、回答内容の精度に影響を与えた可能性がある。また、班長調査と構成員調査の対象者は必ずしも同じ班で活動しているわけではないため、両者の結果の比較には注意を要する。

E. 結論

能登半島地震の DHEAT 活動について、派遣元担当者、DHEAT の班長と構成員を対象として質問紙調査を実施した。派遣元自治体の多くは本庁の調整窓口や派遣調整の担当者を定めており、派遣に関する業務についても概ね円滑に実施できていたが、職種も考慮した派遣対象者の確保や都道府県内の保健所設置市等

との調整は今後の課題であると考えられた。班長・構成員の調査からは、DHEAT の活動として、状況の分析・評価、渉外（リエゾン）活動、対策の企画立案、会議資料の作成、会議運営などが主に実施されていたことが明らかになった。その一方で、研修受講者の割合の向上や活動目標や活動内容の明確化と班内での認識の共有、支援対象となる自治体や多様な支援チームとの連携の構築、情報システムの利活用、安全・健康管理の充実、などが課題であると考えられた。今後、本調査の詳細な分析を行うとともに、DHEAT の支援を受けた受援側の担当者や、他の支援チームの担当者を対象としたインタビューを実施し、多角的な視点で DHEAT 活動の検証を進める。

謝辞

本研究および各調査にご協力をいただいた全国の自治体の皆様、調査票の作成および調査の実施にあたりご助言・ご協力をいただいた本研究班の関係者の皆様、DHEAT 事務局（一般社団法人日本公衆衛生協会）の皆様にご心より感謝申し上げます。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
 - 西田敏秀，富尾淳，近藤久禎，高岡誠子．DHEAT の現在地、そして未来—令和6年能登半島地震の活動から見えてきたもの．第83回日本公衆衛生学会総会；2024.10.29-31；札幌．

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし

令和6年能登半島地震における 災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)活動の実態調査

本調査への協力に同意いただける場合は、下記に☑をお願いいたします。
本調査へのご参加は任意であり、強制ではありません。以下の「本調査への協力に同意する」のチェックボックスに☑することで、研究への参加を承諾いただいたものといたします。

☐ 本調査への協力に同意する

Q1 貴所の自治体名をご記入ください。

Q2 平成26年(2014年)～令和5年(2023年)の災害時の保健医療福祉活動支援に関する自治体職員派遣実績についてご回答ください。【複数回答可】

- DHEATの派遣あり →

災害名	
-----	--
- 保健師等チームの派遣あり →

災害名	
-----	--
- その他の派遣あり →

災害名 派遣内容	
-------------	--
- 派遣実績なし

Q3A 能登半島地震に関する貴自治体のDHEAT派遣概要についてご回答ください。

① 派遣調整の担当課・係の名称をご記入ください

② 派遣職員数(派遣された職員の実人数)

 名 ※1人で複数回派遣された職員がいる場合は1名とカウント

③ 派遣班数(貴自治体から派遣した班の数の合計)

 班 → 下記のQ3Bの設問に派遣した班数分の派遣概要をご記入ください。

Q3B 派遣した各班について、以下の①～⑤の派遣概要をご回答ください。 (すべての班についてご回答ください)

① 班の派遣期間(移動日を含む)

 月 日 ～ 月 日

② 班の現地活動期間

 月 日 ～ 月 日

③ 班の構成員数

 人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	10.その他の内容
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他	
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	

⑤ 班の活動場所【複数回答可】

- 石川県庁
- 能登中部保健所
- 能登北部保健所
- 南加賀保健所
- 輪島市
- 門前支所
- 珠洲市
- 能登町
- 穴水町
- 1.5次避難所

2班目以降は次ページにご記入ください

① 班の派遣期間(移動日を含む)

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

② 班の現地活動期間

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

③ 班の構成員数

人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

10.その他の内容

--

⑤ 班の活動場所【複数回答可】

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

① 班の派遣期間(移動日を含む)

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

② 班の現地活動期間

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

③ 班の構成員数

人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

10.その他の内容

--

⑤ 班の活動場所【複数回答可】

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

① 班の派遣期間(移動日を含む)

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

② 班の現地活動期間

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

③ 班の構成員数

人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

10.その他の内容

--

⑤ 班の活動場所【複数回答可】

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

① 班の派遣期間(移動日を含む)

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

② 班の現地活動期間

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

③ 班の構成員数

人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

10.その他の内容

--

⑤ 班の活動場所【複数回答可】

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

次ページに続きます

① 班の派遣期間(移動日を含む)

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

② 班の現地活動期間

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

③ 班の構成員数

人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

10.その他の内容

--

⑤ 班の活動場所〔複数回答可〕

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

① 班の派遣期間(移動日を含む)

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

② 班の現地活動期間

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

③ 班の構成員数

人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

10.その他の内容

--

⑤ 班の活動場所〔複数回答可〕

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

① 班の派遣期間(移動日を含む)

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

② 班の現地活動期間

月	日	～	月	日
---	---	---	---	---

③ 班の構成員数

人

④ 班の構成員の職種別人数(該当のない職種には「0」を記入してください)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
医師	歯科医師	薬剤師	獣医師	保健師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	事務職員	その他
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

10.その他の内容

--

⑤ 班の活動場所〔複数回答可〕

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

Q4 DHEATに係る組織体制について、お聞きます。〔各1つに○〕

	はい	いいえ	わからない
① 平時からDHEATに係る貴自治体本庁の調整窓口を定めていましたか	1	2	3
② 平時からDHEATの派遣調整の担当者を指定していましたか	1	2	3

Q5 DHEAT等に係る事前準備について、お聞きます。〔各1つに○〕

	はい	いいえ	わからない
① 平時からDHEATの編成・運用に関するマニュアル等を作成していましたか	1	2	3
② 平時から保健師等チームの編成・運用に関するマニュアル等を作成していましたか	1	2	3
③ 〔上記①と②の両方で、「1. はい」と回答された方にお聞きます〕 マニュアル等は、DHEATと保健師等チームを同時に編成・運用することを想定した内容となっていましたか	1	2	3
④ 平時からDHEAT派遣チームの班を編成し、派遣計画（ローテーション表）などを作成していましたか	1	2	3
⑤ 平時からDHEATの派遣に備え、必要な物品の確保をしていましたか	1	2	3

Q6 貴自治体のDHEAT派遣の決定に関わった職員を教えてください。〔複数回答可〕

1. 本庁衛生部長 2. 本庁DHEAT担当課長 3. 本庁DHEAT担当職員 4. 保健所長
5. 本庁統括保健師 6. その他

内容を具体的に

Q7 上記Q6で選択した職員に、貴自治体の「統括DHEAT」に相当する方（派遣決定当時）は含まれていましたか。〔1つに○〕

1. 含まれていた 2. 含まれていない 3. わからない

Q8 DHEAT派遣の決定にあたり、どのような事項が重視されましたか。〔複数回答可〕

1. 被災地との距離の近さ（同一地域ブロックなど） 2. 防災部局など他部局も含めた自治体の方針
3. 派遣可能な職員の確保状況 4. 過去の被災時におけるDHEAT等の受援経験
5. 災害支援経験を通じた自治体の体制強化の必要性

6. その他

内容を具体的に

Q9 DHEAT派遣に際して、必要な情報をどのように（どこから）収集しましたか。〔複数回答可〕

1. 被災自治体との連絡 2. DHEAT事務局との連絡 3. 被災自治体の災害対策本部会議資料
4. ISUT（災害時情報集約支援チーム）のウェブサイト 5. D24H

6. その他

内容を具体的に

Q10 DHEATとして派遣される候補者の名簿管理を行っていましたか。〔1つに○〕

1. 行っていた 2. 行っていない 3. わからない

Q11 今回の派遣職員の選定にあたって、事前に作成していた名簿は役に立ちましたか。〔1つに○〕

1. とても役に立った 2. やや役に立った 3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった 5. 全く役に立たなかった 6. わからない

Q12 派遣職員の選定にあたって考慮した点について、お聞きます。〔各1つに○〕

	考慮した	やや考慮した	あまり考慮しなかった	考慮しなかった
① 災害派遣実績	1	2	3	4
② DHEAT研修受講実績（基礎編、標準編、統括など）	1	2	3	4
③ DHEAT以外の災害研修受講実績	1	2	3	4
④ 所属部局（課・係等）	1	2	3	4
⑤ 職 位	1	2	3	4
⑥ 職 種	1	2	3	4
⑦ 年 齢	1	2	3	4
⑧ 性 別	1	2	3	4
⑨ 支援活動に関する本人の能力・適性	1	2	3	4
⑩ 派遣にあたっての本人の意思・希望	1	2	3	4
⑪ 班の構成員間の人間関係	1	2	3	4

上記①～⑪以外に派遣職員の選定にあたって考慮した事項があれば自由にご記入ください。

Q13 派遣元自治体として、DHEATの派遣調整・活動支援に従事した職員についてご回答ください。**① 職員の人数(実人数)**

人

② DHEAT関連の業務の実施期間

月 日 ～
月 日

③ 所属部局(課・係等) ※複数部局の場合は全て記入してください。**④ 保健師等チームなど他のチームの派遣調整・活動支援について〔1つに○〕**

1. あわせて担当した 2. 部分的に担当した 3. 担当していない 4. わからない

Q14 DHEAT派遣に関する以下の業務の実施状況についてお聞きます。〔各1つに○〕

	円滑に実施できた	概ね円滑に実施できた	できなかつた	できなかった	わからない
① DHEAT構成員の選定	1	2	3	4	5
② (都道府県の場合)都道府県内の指定都市・保健所設置市・特別区との調整	1	2	3	4	5
③ (指定都市の場合)都道府県との調整	1	2	3	4	5
④ 活動に必要な備品・物資の確保	1	2	3	4	5
⑤ 派遣先(活動場所)の確定	1	2	3	4	5
⑥ DHEAT事務局との連絡調整	1	2	3	4	5
⑦ 派遣先自治体(石川県)との連絡調整	1	2	3	4	5
⑧ 石川県までの移動手段の手配	1	2	3	4	5
⑨ 石川県内の移動手段(車両・燃料・ドライバーなど)の手配	1	2	3	4	5
⑩ 宿泊先の手配	1	2	3	4	5

Q15 DHEAT構成員の選定において、選定が困難だった職種があれば教えてください。〔複数回答可〕

1. 医師
2. 保健師
3. 医師・保健師以外の専門職
4. 業務調整員(ロジスティクス担当)
5. 特になし

Q16 貴自治体では保健師等チームを派遣しましたか。〔1つに○〕

1. 派遣した
2. 派遣していない
3. わからない

Q16で「1. 派遣した」と回答された方にお聞きます

Q17 DHEATの構成員として保健師を派遣する場合の調整は円滑に実施できましたか。〔1つに○〕

1. できた
2. 概ねできた
3. ややできなかった
4. できなかった
5. わからない

Q18 貴自治体では、必要とされる期間を通じてDHEATを派遣できましたか。〔1つに○〕

1. 派遣できた
2. 派遣できなかった
3. わからない

Q18で「2. 派遣できなかった」と回答された方にお聞きます

Q19 DHEATを派遣できなかった理由を教えてください。〔複数回答可〕

1. 派遣調整・活動支援の体制が十分でなかった
2. 派遣可能な職員を確保できなかった
3. 移動手段・宿泊先の確保ができなかった
4. その他

内容を具体的に

Q20 派遣活動支援および派遣活動後の支援についてお聞きます。【各1つに○】

	はい	いいえ	わからない
① 活動中のDHEAT構成員の心身の健康管理を支援する体制を整備していましたか	1	2	3
② 活動中のDHEATから、安全管理・心身の健康管理等に関する情報について定期的に報告がありましたか	1	2	3
③ 活動中のDHEATから、業務に必要な資器材の確保の依頼がありましたか	1	2	3
④ 活動中のDHEATが実施する情報収集・分析の支援を行いましたか	1	2	3
⑤ DHEAT構成員の所属部署に対して、派遣中の業務支援(欠員補充等)を行いましたか	1	2	3
⑥ DHEAT構成員に対して、派遣終了後に心身の健康管理のフォローアップを行いましたか	1	2	3

Q21 派遣元自治体として、DHEAT活動の振り返りを行いましたか。【1つに○】

1. はい 2. いいえ 3. わからない

Q21で「1. はい」と回答された方にお聞きます

Q22 DHEAT活動の振り返りを通じて、今後の都道府県または指定都市のDHEAT活動の改善計画などを作成しましたか。【1つに○】

1. はい 2. いいえ 3. わからない

Q22で「1. はい」と回答された方にお聞きます

Q23 DHEAT活動の振り返りの資料・改善計画等を研究班にご提供いただくことは可能でしょうか。【1つに○】

連絡先のメールアドレスをご教示ください

1. はい 2. いいえ

Q24 貴自治体職員が参加したDHEATに関する研修・訓練は、今回の支援活動において有用でしたか。【1つに○】

1. とても思う 2. やや思う 3. どちらでもない
4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q25 DHEATに関する研修・訓練への要望があればご自由にお書きください。

Q26 DHEAT派遣調整に関して、DHEAT事務局への要望があればご自由にお書きください。

Q27 今後のDHEAT活動の課題やお気づきの点などがありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上で終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。

令和6年能登半島地震における 災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)活動の実態調査

DHEAT
班長

本調査への協力に同意いただける場合は、下記に☑をお願いいたします。
本調査へのご参加は任意であり、強制ではありません。以下の「本調査への協力に同意する」のチェックボックスに☑することで、研究への参加を承諾いただいたものといたします。

☐ 本調査への協力に同意する

Q1 所属の自治体名をご記入ください。

Q2 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要についてご回答ください。

① DHEATとしての派遣回数についてご回答ください。

今回あなたは何回派遣されましたか。
(2回以上派遣された場合)
この調査票は何回目の派遣に関するものですか。

 回 回目

② 派遣期間(移動日を含む)

 月 日 ~ 月 日

③ 現地活動期間

 月 日 ~ 月 日

④ 派遣先(主な活動場所)【複数回答可】

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

⑤ 宿泊先【文字記入／1つに○】

自治体名	(例)金沢市
------	--------

施設種別	1. ホテル・旅館	2. 庁舎等
	3. その他	内容を具体的に

※活動期間中に移動した場合や構成員によって異なる場合は「その他」に詳細を記載してください

⑥ 支援先での実質活動時間／移動時間／宿泊先等での活動時間

②の「派遣期間(移動日を含む)」の期間についてご回答ください。8日以上活動した場合は「その他」に概要を記入してください。
時間はおおよそで結構です(0.5時間(30分)単位で、切り上げてご記入ください。例: 10分→0.5時間、1時間45分→2時間)

(単位:時間)

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	その他
1 支援先での実質活動時間(移動時間除く)								
2 移動時間								
3 宿泊先等での活動時間(移動時間を除く)※								

※例: 宿泊先での記録作成、ミーティング等

Q3 あなたが派遣された経緯についてご回答ください。【1つに○】

- 派遣候補者として登録されており要請前(今回の発災前)から派遣されることが決まっていた
- 登録はされていなかったが要請前(今回の発災前)から派遣されることが決まっていた
- 要請後に上長等からの指示により派遣された
- その他

内容を具体的に

Q4 今回の派遣についてのあなたの意思についてご回答ください。〔1つに○〕

1. 派遣されたかった 2. どちらかといえば派遣されたかった 3. どちらでもなかった
4. どちらかといえば派遣されたくない 5. 派遣されたくない 6. 答えたくない

Q5 派遣決定から出発までの日数をご回答ください。〔数値記入〕

日 ※派遣決定日を0日とします(例:1月11日に派遣決定、1月16日に出発の場合は「5日」)

Q6 Q5の日数は派遣の準備をする上で十分でしたか。〔1つに○〕

1. 十分だった 2. やや短かった 3. 短かった

Q7 派遣にあたって職場は協力的でしたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない

Q8 派遣にあたって同居のご家族は協力的でしたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. 同居の家族がいない

Q9 班の構成員は派遣前から互いに面識がありましたか。〔1つに○〕

1. 全員面識があった 2. 面識がない人もいた 3. 全員面識がなかった

Q10 派遣前に班のミーティング(簡単な顔合わせなども含む)を行いましたか。〔1つに○〕

1. 対面で行った 2. オンラインで行った(一部対面のハイブリッド形式を含む)
3. メール・SNSで行った 4. 行わなかった

Q11 DHEATの活動目的について、お聞きます。〔各1つに○〕

	はい	いいえ	わからない
① 支援対象組織(県・市町・保健所・1.5次避難所等)では、保健医療福祉活動の目的が明確に示されていましたか	1	2	3
② DHEATとしての支援活動の目的(当該派遣期間だけでなくDHEAT活動全体を通じて目指すべき目的)は明確に示されていましたか	1	2	3
③ 当該活動期間におけるDHEATとしての支援活動の目標を構成員に対して具体的に示しましたか	1	2	3

Q12 支援対象組織(県・市町・保健所・1.5次避難所等)の保健医療福祉活動に関する指揮命令系統はわかりやすかったですか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない

Q13 DHEATとしてどのような形態で活動しましたか。〔1つに○〕

1. 班単位で活動した 2. 班単位を基本としつつ個別に活動することもあった
3. 個別に活動した(溶け込み型) 4. その他

内容を具体的に

Q14 DHEATとして班の構成員の活動内容を明確に決めていましたか。〔1つに○〕

1. 決めていた 2. 概ね決めていた 3. あまり決めていなかった 4. 決めていなかった

Q15 班の構成員の活動内容を把握できていましたか。〔1つに○〕

1. 把握できていた 2. 概ね把握できていた
3. あまり把握できていなかった 4. 把握できていなかった

Q16 あなたの班は、下記の支援活動に従事しましたか。それぞれについてご回答ください。〔各1つに○〕

	支援した	（支援しなかった 必要性はあった）	（支援しなかった 必要性はなかった）	（支援しなかった 必要性は不明）
① 調整本部等の設置・運営	1	2	3	4
② 指揮調整体制の構築	1	2	3	4
③ 被災情報等の収集・集計	1	2	3	4
④ 状況の分析・評価	1	2	3	4
⑤ 対策の企画立案	1	2	3	4
⑥ 会議運営（会議スケジュールの設定を含む）	1	2	3	4
⑦ 会議資料の作成	1	2	3	4
⑧ 会議議事録の作成	1	2	3	4
⑨ 広報・コミュニケーション活動	1	2	3	4
⑩ 渉外（リエゾン）活動（関係機関との連絡窓口）	1	2	3	4
⑪ ロードマップの作成	1	2	3	4
⑫ 対応従事者の健康管理	1	2	3	4
⑬ 保健師等チームの受援調整	1	2	3	4
⑭ その他支援チームの受援調整	1	2	3	4
⑮ 物資調達	1	2	3	4
⑯ 情報システムへの入力	1	2	3	4
⑰ 求償等費用に関する業務	1	2	3	4
⑱ 大規模広域避難所（1.5次避難所等）の運営	1	2	3	4
⑲ その他避難所の運営	1	2	3	4
⑳ 感染症対策（避難所等の防疫など）	1	2	3	4

上記①～⑳以外で支援した活動があればお答えください。

Q17 班の構成員間の情報共有はどのような方法で行いましたか。【複数回答可】

1. 対面のミーティング 2. オンライン会議 3. メール
4. LoGoチャット 5. LINE（グループライン含む）などのSNS

6. その他

内容を具体的に

Q18 日々の活動の開始・終了時に班としてミーティングを行いましたか。【1つに○】

1. 開始・終了時とも実施した 2. 開始時のみ実施した 3. 終了時のみ実施した 4. 実施しなかった

5. その他

内容を具体的に

Q19 班のチームワークはいかがでしたか。【1つに○】

1. とてもよかった 2. よかった 3. どちらともいえない
4. よくなかった 5. 全くよくなかった

Q20 班のチームワークの向上のために実施した取り組みや工夫があればご自由にお書きください。

Q21 下記の支援対象組織や支援チームとは情報共有ができましたか。【各1つに○】

	できた	概ねできた	あまりできなかった	できなかった	関わる機会がなかった
① 県庁（保健医療福祉調整本部）	1	2	3	4	5
② 保健所	1	2	3	4	5
③ 市・町	1	2	3	4	5
④ DMAT（災害派遣医療チーム）	1	2	3	4	5
⑤ DPAT（災害派遣精神医療チーム）	1	2	3	4	5
⑥ 日赤救護班	1	2	3	4	5
⑦ 国立病院機構（NH0）	1	2	3	4	5
⑧ JMAT（日本医師会災害医療チーム）	1	2	3	4	5
⑨ AMAT（全日本病院医療支援班）	1	2	3	4	5
⑩ 災害支援ナース	1	2	3	4	5
⑪ JRAT（日本災害リハビリテーション支援）	1	2	3	4	5
⑫ 他自治体DHEAT	1	2	3	4	5
⑬ 保健師等チーム	1	2	3	4	5
⑭ DICT（災害時感染制御支援チーム）	1	2	3	4	5
⑮ JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）	1	2	3	4	5
⑯ DWAT（災害派遣福祉チーム）	1	2	3	4	5
⑰ ピースウィンズ・ジャパン	1	2	3	4	5
⑱ TMAP	1	2	3	4	5
⑲ 国境なき医師団	1	2	3	4	5

Q22 下記の支援対象組織や支援チームとの間で状況認識や活動方針の共有はできていましたか。
【各1つに○】

	できた	概ねできた	あまりできなかった	できなかった	関わる機会がなかった
① 県庁（保健医療福祉調整本部）	1	2	3	4	5
② 保健所	1	2	3	4	5
③ 市・町	1	2	3	4	5
④ DMAT（災害派遣医療チーム）	1	2	3	4	5
⑤ DPAT（災害派遣精神医療チーム）	1	2	3	4	5
⑥ 日赤救護班	1	2	3	4	5
⑦ 国立病院機構（NH0）	1	2	3	4	5
⑧ JMAT（日本医師会災害医療チーム）	1	2	3	4	5
⑨ AMAT（全日本病院医療支援班）	1	2	3	4	5
⑩ 災害支援ナース	1	2	3	4	5
⑪ JRAT（日本災害リハビリテーション支援）	1	2	3	4	5
⑫ 他自治体DHEAT	1	2	3	4	5
⑬ 保健師等チーム	1	2	3	4	5
⑭ DICT（災害時感染制御支援チーム）	1	2	3	4	5
⑮ JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）	1	2	3	4	5
⑯ DWAT（災害派遣福祉チーム）	1	2	3	4	5
⑰ ピースウィンズ・ジャパン	1	2	3	4	5
⑱ TMAP	1	2	3	4	5
⑲ 国境なき医師団	1	2	3	4	5

Q23 他の支援チームと資料など情報共有するためにファイル共有システム（GoogleDriveなど）を使用しましたか。【1つに○】

1. 使用した

システム名を記入

2. 使用しなかった

Q24 DHEAT連絡会議は有効に機能していましたか。【1つに○】

1. とても思う

2. そう思う

3. どちらでもない

4. そう思わない

5. 全く思わない

6. 派遣期間中の会議開催はなかった

Q25 班のリーダーとして、下記の安全・健康に関する管理は問題なく実施できましたか。【各1つに○】

	できた	概ねできた	あまりできなかった	できなかった
① 活動環境の安全性の確保	1	2	3	4
② 移動の安全性の確保	1	2	3	4
③ 活動装備の確保	1	2	3	4
④ 寒さ対策	1	2	3	4
⑤ 睡眠・休息の確保	1	2	3	4
⑥ 清潔の確保	1	2	3	4

Q26 活動期間中の身体面および精神面の健康状態についてお聞きます。【各1つに○】

	良好だった	概ね良好だった	やや悪かった	とても悪かった	答えたくない
① 身体面の健康状態	1	2	3	4	5
② 精神面の健康状態	1	2	3	4	5

Q27 活動期間中にけが、または心身の不調が生じた構成員はいましたか。【各1つに○】

	いた	いなかった	わからない
① けがをした構成員	1	2	3
② けが以外の心身の不調が生じた構成員	1	2	3

Q28 活動期間中に心身の健康状態等を相談できる体制は整っていましたか。【1つに○】

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q29 班の安全管理・健康管理のために実施した取り組みや工夫があればご自由にお書きください。

Q30 下記の情報システムの使用状況および使用感等についてお聞きます。

	使用の有無		使用感				不具合や要改善点がありましたらご記入ください
	使用した	使用していない	使いこなせた	概ね使いこなせた	あまり使いこなせなかった	使いこなせなかった	
① EMIS(広域災害救急医療情報システム)	1	2	1	2	3	4	
② D24H	1	2	1	2	3	4	
③ 保健所現状報告システム	1	2	1	2	3	4	
④ J-SPEED(災害時診療概況報告システム)	1	2	1	2	3	4	
⑤ 支援者健康管理版 J-SPEED	1	2	1	2	3	4	

Q31 DHEATの活動において下記の情報システムは有用でしたか。[各1つに○]

	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全くそう思わない	わからない
① EMIS(広域災害救急医療情報システム)	1	2	3	4	5	6
② D24H	1	2	3	4	5	6
③ 保健所現状報告システム	1	2	3	4	5	6
④ J-SPEED(災害時診療概況報告システム)	1	2	3	4	5	6
⑤ 支援者健康管理版 J-SPEED	1	2	3	4	5	6

Q32 活動に必要な下記の事項について問題なく確保できましたか。[各1つに○]

	問題なく確保できた	概ね確保できた	確保が困難であった	確保が極めて困難であった
① 石川県までの移動手段	1	2	3	4
② 石川県内での移動手段	1	2	3	4
③ 宿泊先	1	2	3	4
④ 活動期間中の通信手段	1	2	3	4
⑤ 活動期間中の資機材 (PC・事務用品等)	1	2	3	4
⑥ 活動期間中の電源	1	2	3	4
⑦ 服装等の装備	1	2	3	4
⑧ 活動期間中の食事	1	2	3	4

Q33 活動期間中に派遣元自治体から下記の支援を受けましたか。【各1つに○】

	受けた	受けなかった (必要があった)	受けなかった (必要がなかった)
① 支援活動に関する技術的助言	1	2	3
② 情報分析等の技術的支援	1	2	3
③ 記録作成等の事務作業	1	2	3
④ 物資調達	1	2	3
⑤ 安全管理	1	2	3
⑥ 健康管理	1	2	3

Q34 その他、派遣元からの支援で有用であったものがありましたら、ご自由にお書きください。

Q35 活動期間中の派遣元自治体からの支援について、ご意見などありましたらご自由にお書きください。

Q36 DHEAT活動日報を作成しましたか。【1つに○】

1. 作成した 2. 作成しなかった

Q37 DHEAT活動日報の報告先についてご回答ください。【複数回答可】

1. 派遣元自治体 2. 支援先自治体

3. その他

内容を具体的に

Q38 DHEAT活動日報について、ご要望(追加した方がよい項目など)などがありましたらご自由にお書きください。

Q39 DHEAT活動日報以外の活動記録(情報分析、課題、方針などを記録したもの)を作成しましたか。[1つに○]

1. 作成した 2. 作成しなかった

▼ Q39で「1. 作成した」と回答された方にお聞きます

Q40 記録様式を研究班にご提供いただくことは可能でしょうか。[1つに○]

1. 可 2. 不可

連絡先のメールアドレスをご教示ください

Q41 今回の活動開始にあたり先発の班等から引き継ぎを受けましたか。[1つに○]

1. 同じ自治体の班から引き継ぎを受けた 2. 異なる自治体の班から引き継ぎを受けた
3. 先発班がいたが引き継ぎは受けていない 4. 対象外（第1班）

▼ Q41で「1. 同じ自治体の班から引き継ぎを受けた」「2. 異なる自治体の班から引き継ぎを受けた」と回答された方にお聞きます

Q42 引き継ぎ内容は有用でしたか。[1つに○]

1. とても思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q43 今回の活動終了にあたり後発の班等に引き継ぎを行いましたか。[1つに○]

1. 同じ自治体の班に引き継いだ 2. 異なる自治体の班に引き継いだ
3. 後発班に引き継ぎは行っていない 4. 対象外（最終班）

Q44 活動期間は適切でしたか。[1つに○]

1. 長かった 2. ちょうどよかった 3. 短かった 4. わからない

Q45 班の構成員の人数は適切でしたか。[1つに○]

1. 多かった 2. ちょうどよかった 3. 少なかった 4. わからない

Q46 班の構成員の職種等の構成は適切でしたか。[1つに○]

1. 適切だった
2. 問題があった
3. わからない

内容を具体的に

Q47 班として活動目標を達成できましたか。(活動目標が設定されていない場合:被災地の保健医療福祉活動に貢献できましたか) [1つに○]

1. とても思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q48 班としての支援活動は、防ぎえた死と二次健康被害の最小化に貢献したと思いますか。【1つに○】

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q49 班としての支援活動は、被災地の保健医療福祉の復旧に貢献したと思いますか。【1つに○】

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q50 班として、下記の業務を遂行することができましたか。【各1つに○】

	できた	概ねできた	かあつまりできなかった	できなかった	担当しなかった
① 支援対象組織における指揮調整体制の構築	1	2	3	4	5
② 情報収集・分析	1	2	3	4	5
③ 対策の企画立案	1	2	3	4	5
④ 支援チームの派遣調整	1	2	3	4	5

Q51 今回のDHEATの派遣は、あなた自身の健康危機管理に関する能力の向上に寄与しましたか。【1つに○】

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q52 今回のDHEATの派遣は、あなたの自治体の健康危機管理体制の強化に寄与しましたか。【1つに○】

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q53 班として活動の振り返りを行いましたか。【1つに○】

1. 行った 2. 行う予定 3. 行っていない

Q54 今回の活動を通じてあなたの自治体のDHEAT活動の見直しが行われましたか。【1つに○】

1. 行われた 2. 行われる予定 3. 行われていない 4. わからない

Q55 今回のDHEAT派遣でうまくいったことや困ったことなどありましたら、ご自由にお書きください。

Q56 今回のDHEATの派遣をふりかえて、DHEATに関する下記の研修等是有用でしたか。【各1つに○】

	とても そう思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わない	全く そう 思わない	わ か ら な い	受 講 （ 参 加 ） し て い な い
① DHEAT基礎編研修	1	2	3	4	5	6	7
② DHEAT標準編研修(令和4年度以前の「高度編」研修)	1	2	3	4	5	6	7
③ 統括DHEAT研修	1	2	3	4	5	6	7
④ 自治体主催の災害研修・訓練	1	2	3	4	5	6	7

Q57 今回の活動を踏まえて、今後DHEATの研修・訓練で特に重視すべき項目を選択してください。【5つまで○】

- 調整本部等の設置・運営
- 指揮調整体制の構築
- 被災情報等の収集・集計
- 状況の分析・評価
- 対策の企画立案
- 会議運営
- 会議資料の作成
- 会議議事録の作成
- 広報・コミュニケーション活動
- 渉外（リエゾン）活動（関係機関との連絡窓口）
- ロードマップの作成
- 対応従事者の健康管理
- 保健師等チームの受援調整
- その他支援チームの受援調整
- 物資調達
- 情報システムへの入力
- 求償等費用に関する業務
- 大規模広域避難所（1.5次避難所等）の運営
- その他避難所の運営
- 感染症対策（避難所等の防疫など）

Q58 DHEATの強化に向けて、今後どのような研修・訓練が必要と考えますか。ご自由にお書きください。

Q59 今後DHEATの派遣要請があった場合に、派遣されることを希望しますか。【1つに○】

- 希望する
- できれば希望する
- どちらでもない
- できれば希望しない
- 希望しない
- わからない

Q60 今後のDHEAT活動のあり方について、お気づきの点などがありましたらご自由にお書きください。

派遣時点のあなたの状況について

Q61 年齢層(今回の派遣の出発日時点)【1つに○】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60歳以上 | 6. 答えたくない |

Q62 性別【1つに○】

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

Q63 職種【1つに○】

- | | | | | |
|------------|-----------|----------|---------|--------|
| 1. 医師 | 2. 歯科医師 | 3. 薬剤師 | 4. 獣医師 | 5. 保健師 |
| 6. 診療放射線技師 | 7. 臨床検査技師 | 8. 管理栄養士 | 9. 事務職員 | |

10. その他

内容を具体的に

Q64 職位【1つに○】

- | | | |
|----------|--------|--------|
| 1. 係長級以下 | 2. 課長級 | 3. 部長級 |
|----------|--------|--------|

4. その他

内容を具体的に

Q65 研修受講歴(受講したことがある研修を選択してください)【複数回答可】

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. DHEAT基礎編研修 | 2. DHEAT標準編研修(高度編研修) |
| 3. 統括DHEAT研修 | 4. その他の研修 |

Q66 災害支援経験(令和6年能登半島地震より前の支援経験についてご回答ください)【複数回答可】

- | | | | |
|--------------|----------------|------------|-------|
| 1. あり(DHEAT) | 2. あり(保健師等チーム) | 3. あり(その他) | 4. なし |
|--------------|----------------|------------|-------|

Q67 災害受援経験【1つに○】

- | | |
|-------|-------|
| 1. あり | 2. なし |
|-------|-------|

質問は以上で終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。

令和6年能登半島地震における 災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)活動の実態調査

DHEAT
構成員

本調査への協力に同意いただける場合は、下記に☑をお願いいたします。
本調査へのご参加は任意であり、強制ではありません。以下の「本調査への協力に同意する」のチェックボックスに☑することで、研究への参加を承諾いただいたものといたします。

☐ 本調査への協力に同意する

Q1 所属の自治体名をご記入ください。

Q2 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要についてご回答ください。

① DHEATとしての派遣回数についてご回答ください。

今回あなたは何回派遣されましたか。
(2回以上派遣された場合にお聞きます)
この調査票は何回目の派遣に関するものですか。

 回 回目

② 派遣期間(移動日を含む)

 月 日 ~ 月 日

③ 現地活動期間

 月 日 ~ 月 日

④ 派遣先(主な活動場所)【複数回答可】

- | | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 石川県庁 | 2. 能登中部保健所 | 3. 能登北部保健所 | 4. 南加賀保健所 | 5. 輪島市 |
| 6. 門前支所 | 7. 珠洲市 | 8. 能登町 | 9. 穴水町 | 10. 1.5次避難所 |

⑤ 宿泊先【文字記入／1つに○】

自治体名	(例)金沢市
------	--------

施設種別	1. ホテル・旅館	2. 庁舎等
------	-----------	--------

3. その他

内容を具体的に

※活動期間中に移動した場合や構成員によって異なる場合は「その他」に詳細を記載してください

⑥ 支援先での実質活動時間／移動時間／宿泊先等での活動時間

②の「派遣期間(移動日を含む)」の期間についてご回答ください。8日以上活動した場合は「その他」に概要を記入してください。
時間はおおよそで結構です(0.5時間(30分)単位で、切り上げてご記入ください。例:10分→0.5時間、1時間45分→2時間)

(単位:時間)

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	その他
1 支援先での実質活動時間(移動時間除く)								
2 移動時間								
3 宿泊先等での活動時間(移動時間を除く)※								

※例:宿泊先での記録作成、ミーティング等

Q3 あなたが派遣された経緯についてご回答ください。【1つに○】

- 派遣候補者として登録されており要請前(今回の発災前)から派遣されることが決まっていた
- 登録はされていなかったが要請前(今回の発災前)から派遣されることが決まっていた
- 要請後に上長等からの指示により派遣された
- その他

内容を具体的に

Q4 今回の派遣についてのあなたの意思についてご回答ください。〔1つに○〕

1. 派遣されたかった 2. どちらかといえば派遣されたかった 3. どちらでもなかった
4. どちらかといえば派遣されたくなかった 5. 派遣されたくなかった 6. 答えたくない

Q5 派遣決定から出発までの日数をご回答ください。〔数値記入〕

日 ※派遣決定日を0日とします(例:1月11日に派遣決定、1月16日に出発の場合は「5日」)

Q6 Q5の日数は派遣の準備をする上で十分でしたか。〔1つに○〕

1. 十分だった 2. やや短かった 3. 短かった

Q7 派遣にあたって職場は協力的でしたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない

Q8 派遣にあたって同居のご家族は協力的でしたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. 同居の家族がいない

Q9 班の構成員は派遣前から互いに面識がありましたか。〔1つに○〕

1. 全員面識があった 2. 面識がない人もいた 3. 全員面識がなかった

Q10 派遣前に班のミーティング(簡単な顔合わせなども含む)を行いましたか。〔1つに○〕

1. 対面で行った 2. オンラインで行った(一部対面のハイブリッド形式を含む)
3. メール・SNSで行った 4. 行わなかった

Q11 DHEATの活動目的について、お聞きます。〔各1つに○〕

	はい	いいえ	わからない
① DHEATとしての支援活動の目的(当該派遣期間だけでなくDHEAT活動全体を通じて目指すべき目的)は明確に示されていましたか	1	2	3
② 当該活動期間におけるDHEATとしての支援活動の目標は具体的に示されていましたか	1	2	3

Q12 支援対象組織(県・市町・保健所・1.5次避難所等)の保健医療福祉活動に関する指揮命令系統はわかりやすかったですか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない

Q13 DHEATとしてどのような形態で活動しましたか。〔1つに○〕

1. 班単位で活動した 2. 班単位を基本としつつ個別に活動することもあった
3. 個別に活動した(溶け込み型) 4. その他

内容を具体的に

Q14 DHEATとしてのあなたの活動内容は明確に決まっていたか。〔1つに○〕

1. 決まっていた 2. 概ね決まっていた 3. あまり決まっていなかった 4. 決まっていなかった

Q15 班の他の構成員の活動内容を把握できていましたか。〔1つに○〕

1. 把握できていた
2. 概ね把握できていた
3. あまり把握できていなかった
4. 把握できていなかった

Q16 あなたの班は、下記の支援活動に従事しましたか。それぞれについてご回答ください。〔各1つに○〕

	支援した	支援しなかった (必要性はあった)	支援しなかった (必要性はなかった)	支援しなかった (必要性は不明)
① 調整本部等の設置・運営	1	2	3	4
② 指揮調整体制の構築	1	2	3	4
③ 被災情報等の収集・集計	1	2	3	4
④ 状況の分析・評価	1	2	3	4
⑤ 対策の企画立案	1	2	3	4
⑥ 会議運営（会議スケジュールの設定を含む）	1	2	3	4
⑦ 会議資料の作成	1	2	3	4
⑧ 会議議事録の作成	1	2	3	4
⑨ 広報・コミュニケーション活動	1	2	3	4
⑩ 渉外（リエゾン）活動（関係機関との連絡窓口）	1	2	3	4
⑪ ロードマップの作成	1	2	3	4
⑫ 対応従事者の健康管理	1	2	3	4
⑬ 保健師等チームの受援調整	1	2	3	4
⑭ その他支援チームの受援調整	1	2	3	4
⑮ 物資調達	1	2	3	4
⑯ 情報システムへの入力	1	2	3	4
⑰ 求償等費用に関する業務	1	2	3	4
⑱ 大規模広域避難所（1.5次避難所等）の運営	1	2	3	4
⑲ その他避難所の運営	1	2	3	4
⑳ 感染症対策（避難所等の防疫など）	1	2	3	4

上記①～⑳以外で支援した活動があればお答えください。

Q17 班のチームワークはいかがでしたか。〔1つに○〕

1. とてもよかった 2. よかった 3. どちらともいえない
4. よくなかった 5. 全くよくなかった

Q18 下記の支援対象組織や支援チームとは情報共有ができましたか。〔各1つに○〕

	できた	概ねできた	できなかつた	できなかつた	関係がなかった
① 県庁（保健医療福祉調整本部）	1	2	3	4	5
② 保健所	1	2	3	4	5
③ 市・町	1	2	3	4	5
④ DMAT（災害派遣医療チーム）	1	2	3	4	5
⑤ DPAT（災害派遣精神医療チーム）	1	2	3	4	5
⑥ 日赤救護班	1	2	3	4	5
⑦ 国立病院機構（NH0）	1	2	3	4	5
⑧ JMAT（日本医師会災害医療チーム）	1	2	3	4	5
⑨ AMAT（全日本病院医療支援班）	1	2	3	4	5
⑩ 災害支援ナース	1	2	3	4	5
⑪ JRAT（日本災害リハビリテーション支援）	1	2	3	4	5
⑫ 他自治体DHEAT	1	2	3	4	5
⑬ 保健師等チーム	1	2	3	4	5
⑭ DICT（災害時感染制御支援チーム）	1	2	3	4	5
⑮ JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）	1	2	3	4	5
⑯ DWAT（災害派遣福祉チーム）	1	2	3	4	5
⑰ ピースウィンズ・ジャパン	1	2	3	4	5
⑱ TMAP	1	2	3	4	5
⑲ 国境なき医師団	1	2	3	4	5

Q19 活動期間中、下記について十分に実施できていましたか。〔各1つに○〕

	できていた	概ねできていた	できていなかった	できていなかった
① 活動環境の安全性の確保	1	2	3	4
② 移動の安全性の確保	1	2	3	4
③ 活動装備の確保	1	2	3	4
④ 寒さ対策	1	2	3	4
⑤ 睡眠・休息の確保	1	2	3	4
⑥ 清潔の確保	1	2	3	4

Q20 活動期間中の身体面および精神面の健康状態についてお聞きます。〔各1つに○〕

	良好だった	概ね良好だった	やや悪かった	とても悪かった	答えたくない
① 身体面の健康状態	1	2	3	4	5
② 精神面の健康状態	1	2	3	4	5

Q21 活動期間中に心身の健康状態等を相談できる体制は整っていましたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q22 下記の情報システムの使用状況および使用感等についてお聞きます。

	使用の有無		使用感				不具合や要改善点がありましたらご記入ください
	使用した	使用していない	使いこなせた	概ね使いこなせた	あまり使いこなせなかった	使いこなせなかった	
① EMIS(広域災害救急医療情報システム)	1	2	1	2	3	4	
② D24H	1	2	1	2	3	4	
③ 保健所現状報告システム	1	2	1	2	3	4	
④ J-SPEED(災害時診療概況報告システム)	1	2	1	2	3	4	
⑤ 支援者健康管理版 J-SPEED	1	2	1	2	3	4	

Q23 DHEAT活動日報を作成しましたか。〔1つに○〕

1. 作成した 2. 作成しなかった

Q24 DHEAT活動日報の報告先についてご回答ください。〔複数回答可〕

1. 派遣元自治体 2. 支援先自治体

3. その他

内容を具体的に

Q25 DHEAT活動日報について、ご要望(追加した方がよい項目など)などがありましたらご自由にお書きください。

Q26 活動期間は適切でしたか。〔1つに○〕

1. 長かった 2. ちょうどよかった 3. 短かった 4. わからない

Q27 班の構成員の人数は適切でしたか。〔1つに○〕

1. 多かった 2. ちょうどよかった 3. 少なかった 4. わからない

Q28 班の構成員の職種等の構成は適切でしたか。〔1つに○〕

1. 適切だった
2. 問題があった
3. わからない

内容を具体的に

Q29 班として活動目標を達成できましたか。(活動目標が設定されていない場合:被災地の保健医療福祉活動に貢献できましたか)〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q30 あなた自身はDHEAT構成員として支援活動に貢献できましたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q31 あなた自身は、下記の業務を遂行することができましたか。〔各1つに○〕

	できた	概ねできた	かあつまりできなかった	できなかった	担当しなかった
① 支援対象組織における指揮調整体制の構築	1	2	3	4	5
② 情報収集・分析	1	2	3	4	5
③ 対策の企画立案	1	2	3	4	5
④ 支援チームの派遣調整	1	2	3	4	5

Q32 今回のDHEATの派遣は、あなた自身の健康危機管理に関する能力の向上に寄与しましたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q33 今回のDHEATの派遣は、あなたの自治体の健康危機管理体制の強化に寄与しましたか。〔1つに○〕

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない
4. そう思わない 5. 全くそう思わない 6. わからない

Q34 今回のDHEAT派遣でうまくいったことや困ったことなどありましたら、ご自由にお書きください。

Q35 今回のDHEATの派遣をふりかえて、DHEATに関する下記の研修等是有用でしたか。
【各1つに○】

	とても 思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わ ない	全 く 思 わ ない	わ か ら な い	受 講 （ 参 加 ） し て い な い
① DHEAT基礎編研修	1	2	3	4	5	6	7
② DHEAT標準編研修(令和4年度以前の「高度編」研修)	1	2	3	4	5	6	7
③ 統括DHEAT研修	1	2	3	4	5	6	7
④ 自治体主催の災害研修・訓練	1	2	3	4	5	6	7

Q36 DHEATの強化に向けて、今後どのような研修・訓練が必要と考えますか。ご自由にお書きください。

Q37 今後DHEATの派遣要請があった場合に、派遣されることを希望しますか。【1つに○】

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1. 希望する | 2. できれば希望する | 3. どちらでもない |
| 4. できれば希望しない | 5. 希望しない | 6. わからない |

Q38 今後のDHEAT活動のあり方について、お気づきの点などがありましたらご自由にお書きください。

派遣時点のあなたの状況について

Q39 年齢層(今回の派遣の出発日時点)【1つに○】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60歳以上 | 6. 答えたくない |

Q40 性別【1つに○】

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

Q41 職種【1つに○】

- | | | | | |
|------------|-----------|----------|---------|--------|
| 1. 医師 | 2. 歯科医師 | 3. 薬剤師 | 4. 獣医師 | 5. 保健師 |
| 6. 診療放射線技師 | 7. 臨床検査技師 | 8. 管理栄養士 | 9. 事務職員 | |

10. その他

内容を具体的に

Q42 職位【1つに○】

- | | | |
|----------|--------|--------|
| 1. 係長級以下 | 2. 課長級 | 3. 部長級 |
|----------|--------|--------|

4. その他

内容を具体的に

Q43 研修受講歴(受講したことがある研修を選択してください)【複数回答可】

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. DHEAT基礎編研修 | 2. DHEAT標準編研修(高度編研修) |
| 3. 統括DHEAT研修 | 4. その他の研修 |

Q44 災害支援経験(令和6年能登半島地震より前の支援経験についてご回答ください)【複数回答可】

- | | | | |
|--------------|----------------|------------|-------|
| 1. あり(DHEAT) | 2. あり(保健師等チーム) | 3. あり(その他) | 4. なし |
|--------------|----------------|------------|-------|

Q45 災害受援経験【1つに○】

- | | |
|-------|-------|
| 1. あり | 2. なし |
|-------|-------|

質問は以上で終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。

令和6年能登半島地震における
災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)活動の実態調査

集計結果報告書

厚生労働科学研究補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業
「健康危機発生時における保健所設置自治体や保健所の組織体制並びに
人材育成等の強化、及びブロックごとのDHEAT体制強化のための研究」班

目次

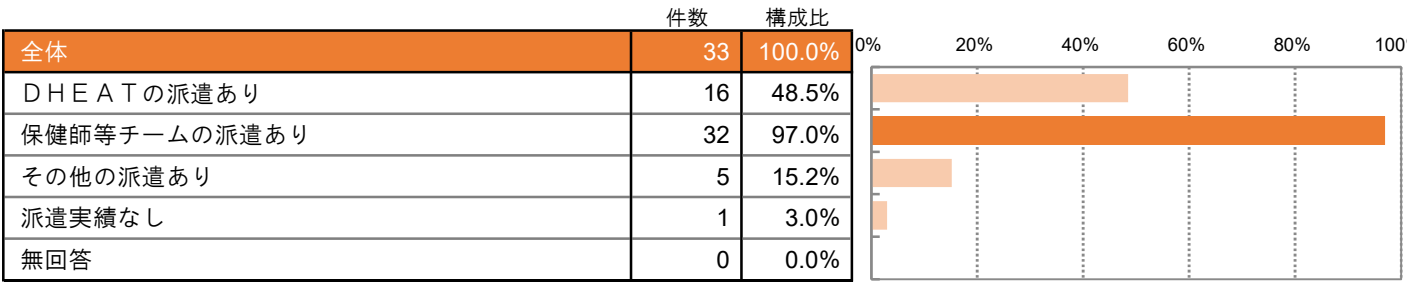
Q1	回答自治体	1
Q2	平成26年～令和5年の災害時の保健医療福祉活動支援に関する自治体職員派遣実績について	1
Q3A	能登半島地震に関する貴自治体のDHEAT派遣概要	2
	②派遣職員数（派遣された職員の実人数）	
	③派遣班数（貴自治体から派遣した班の数の合計）	
Q3B	派遣した各班についての派遣概要	3
	①班の派遣期間（移動日を含む）	
	②班の現地活動期間	
	③班の構成員数	
	④班の構成員の職種別人数	
	⑤班の活動場所	
Q4	DHEATに係る組織体制について	5
Q5	DHEATに係る事前準備について	5
Q6	貴自治体のDHEAT派遣の決定に関わった職員を教えてください	5
Q7	DHEAT派遣の決定に関わった職員に、 貴自治体の「統括DHEAT」に相当する方は含まれていましたか	6
Q8	DHEAT派遣の決定にあたり、どのような事項が重視されましたか	6
Q9	DHEAT派遣に際して、必要な情報をどのように（どこから）収集しましたか	6
Q10	DHEATとして派遣される候補者の名簿管理を行っていましたか	6
Q11	今回の派遣職員の選定にあたって、事前に作成していた名簿は役に立ちましたか	7
Q12	派遣職員の選定にあたって考慮した点について	7
Q13	派遣元自治体として、DHEATの派遣調整・活動支援に従事した職員	8
	①職員の人数（実人数）	
	②DHEAT関連の業務の実施期間	
	④保健師等チームなど他のチームの派遣調整・活動支援について	
Q14	DHEAT派遣に関する業務の実施状況について	9
Q15	DHEAT構成員の選定において、選定が困難だった職種があれば教えてください	9
Q16	貴自治体では保健師等チームを派遣しましたか	10
Q17	DHEATの構成員として保健師を派遣する場合の調整は円滑に実施できましたか	10
Q18	貴自治体では、必要とされる期間を通じてDHEATを派遣できましたか	10
Q19	DHEATを派遣できなかった理由を教えてください	10
Q20	派遣活動支援および派遣活動後の支援について	11
Q21	派遣元自治体として、DHEAT活動の振り返りを行いましたか	11
Q22	DHEAT活動の振り返りを通じて、 今後の都道府県または指定都市のDHEAT活動の改善計画などを作成しましたか	11
Q24	貴自治体職員が参加したDHEATに関する研修・訓練は、今回の支援活動において有用でしたか	12

Q1. 回答自治体

対象自治体	37 自治体
回答自治体	33 自治体(89.2%)

37自治体中、33自治体から回答を得られた。回答率は89.2%となっている。

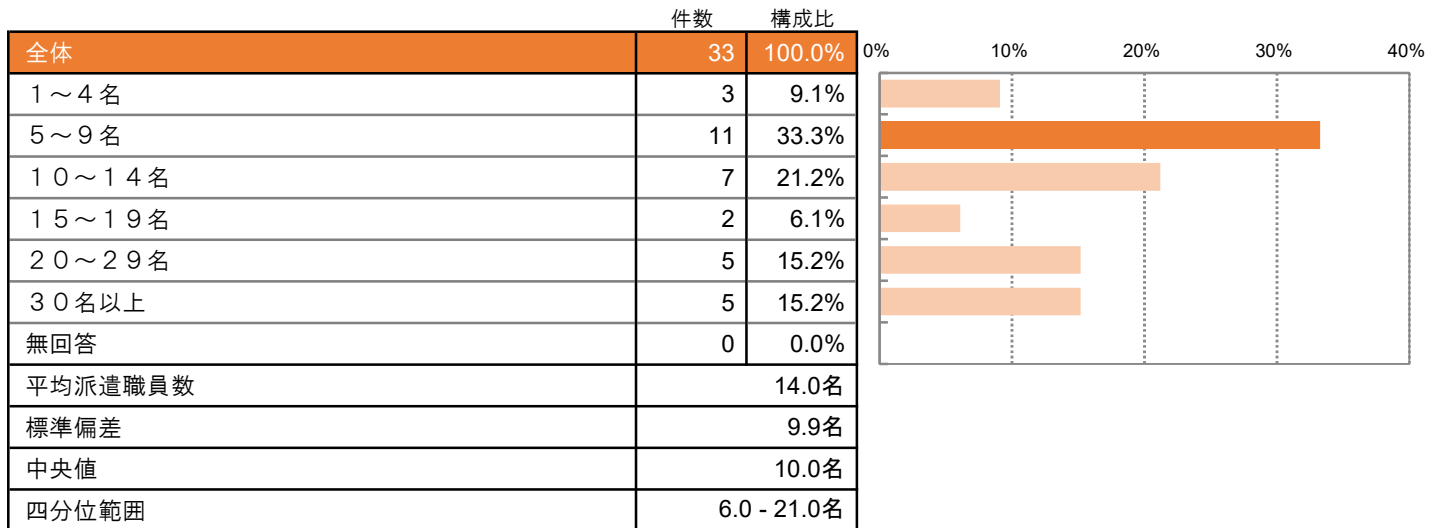
Q2. 平成26年～令和5年の災害時の保健医療福祉活動支援に関する自治体職員派遣実績について〔複数回答〕



「保健師等チームの派遣あり」32件(97.0%)が最も多く、続いて「DHEATの派遣あり」16件(48.5%)、「その他の派遣あり」5件(15.2%)の順となっている。

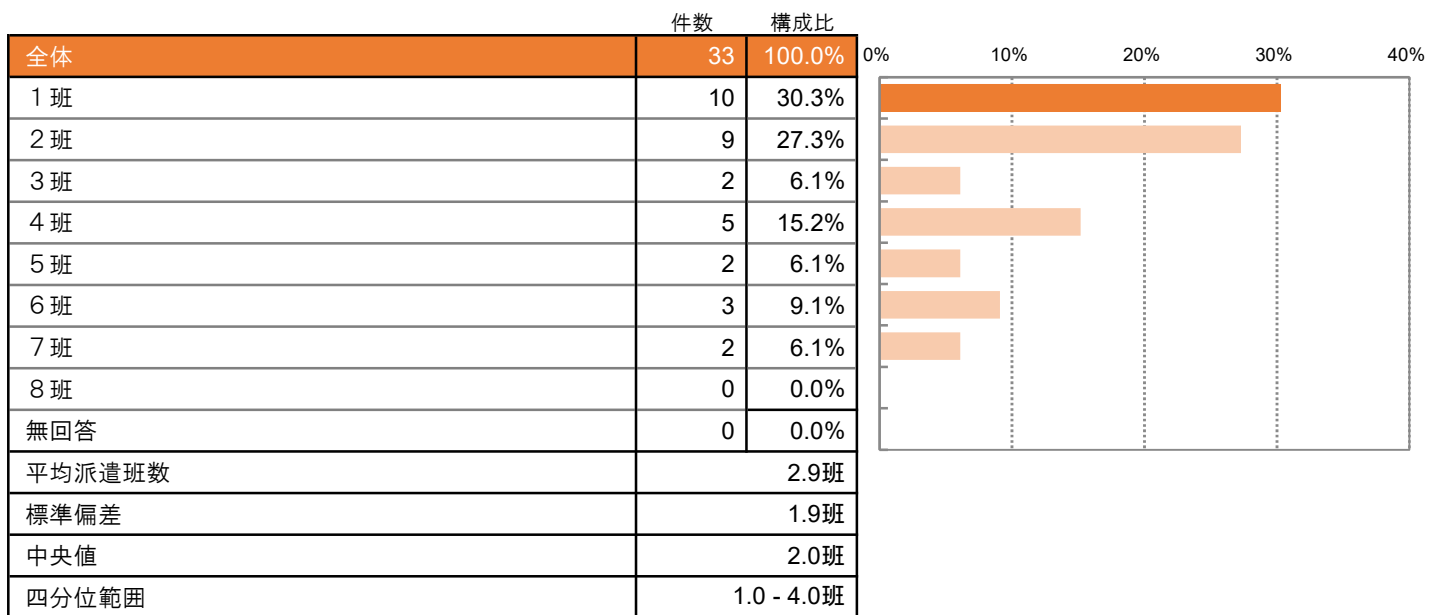
Q3A. 能登半島地震に関する貴自治体のDHEAT派遣概要

②派遣職員数(派遣された職員の実人数)



「5～9名」11件(33.3%)が最も多く、続いて「10～14名」7件(21.2%)、「20～29名」と「30名以上」が同数の5件(15.2%)の順となっている。また平均派遣職員数は(14.0名)、標準偏差は(9.9名)となっている。

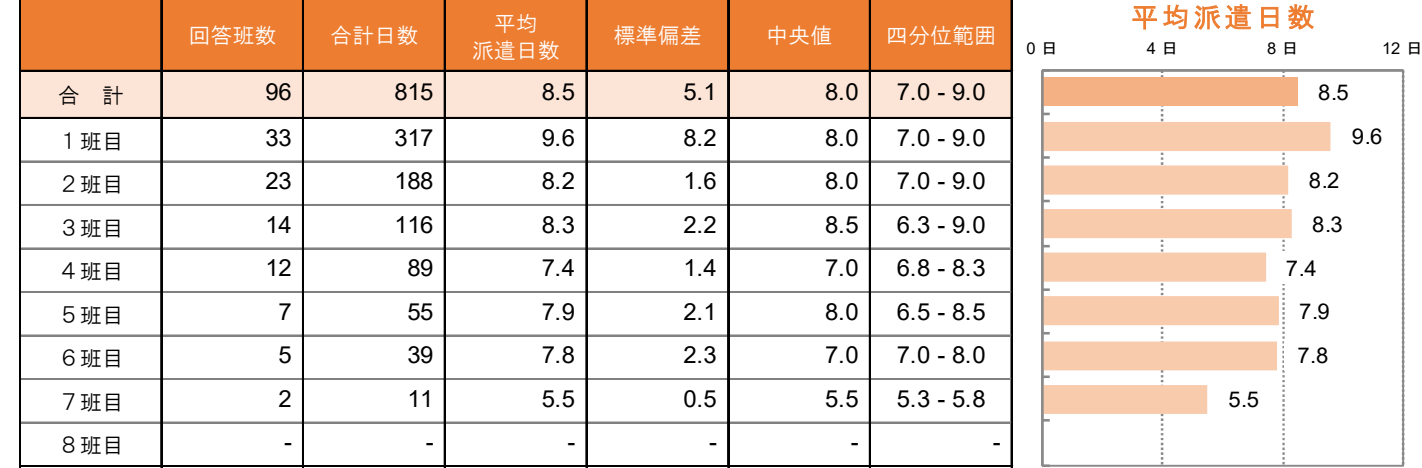
③派遣班数(貴自治体から派遣した班の数の合計)



「1班」10件(30.3%)が最も多く、続いて「2班」9件(27.3%)、「4班」5件(15.2%)の順となっている。また平均派遣班数は(2.9班)、標準偏差は(1.9班)となっている。

Q3B. 派遣した各班についての派遣概要

①班の派遣期間(移動日を含む)



1 班目から8 班目に回答された派遣期間を日数に換算し、平均派遣日数を求めたところ(8.5 日)、標準偏差は(5.1 日)となった。

②班の現地活動期間



1 班目から8 班目に回答された現地活動期間を日数に換算し、平均活動日数を求めたところ(6.9 日)、標準偏差は(1.5 日)となった。

③班の構成員数



1 班目から8 班目に回答された構成員数を合算し、平均構成員数を求めたところ(5.0 人)、標準偏差は(1.0 人)となった。

Q3B. 派遣した各班についての派遣概要

④班の構成員の職種別人数

	人数 (合計)	1 班あたりの 人数 (平均)
医 師	110	1.1
歯科医師	8	0.1
薬剤師	53	0.6
獣医師	11	0.1
保健師	174	1.8
診療放射線技師	8	0.1
臨床検査技師	9	0.1
管理栄養士	19	0.2
事務職員	68	0.7
その他	14	0.1

※回答を得た96班分の内容を表示している

1 班目から8 班目に回答された職種別人数を合算し、人数(合計)と1 班あたりの人数(平均)を記載している。特に保健師 174 人(平均1.8 人)と医師 110 人(平均1.1 人)に多くの回答を得た。

⑤班の活動場所〔複数回答〕

	班の活動場所 (合計)	班の活動場所 (平均)
石川県庁	24	25.8
能登中部保健所	9	9.7
能登北部保健所	24	25.8
南加賀保健所	6	6.5
輪島市	6	6.5
門前支所	6	6.5
珠洲市	10	10.8
能登町	-	-
穴水町	8	8.6
1. 5 次避難所	10	10.8

※回答を得た93班分の内容を表示している

1 班目から8 班目に回答された活動場所を合算し、回答数と構成比(括弧内)を記載している。特に石川県庁と能登北部保健所が同数の 24 件(25.8%)と多くの回答を得た。

Q4. DHEATに係る組織体制について



DHEATに係る組織体系を「はい」と選択した割合でみると、「① 平時からDHEATに係る貴自治体本庁の調整窓口を定めていましたか」、「② 平時からDHEATの派遣調整の担当者を指定していましたか」ともに同率の31件(93.9%)と高い割合で回答されており、多くの自治体がDHEATに係る組織体系について事前に取り決めていたことがわかった。

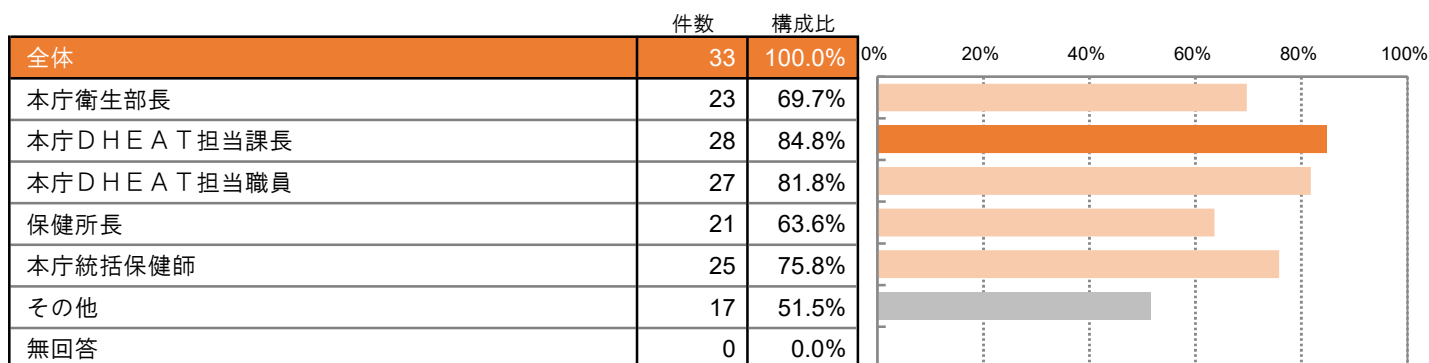
Q5. DHEATに係る事前準備について



※【集計条件:③】①と②の両方で「はい」と回答した[12件]を対象に集計

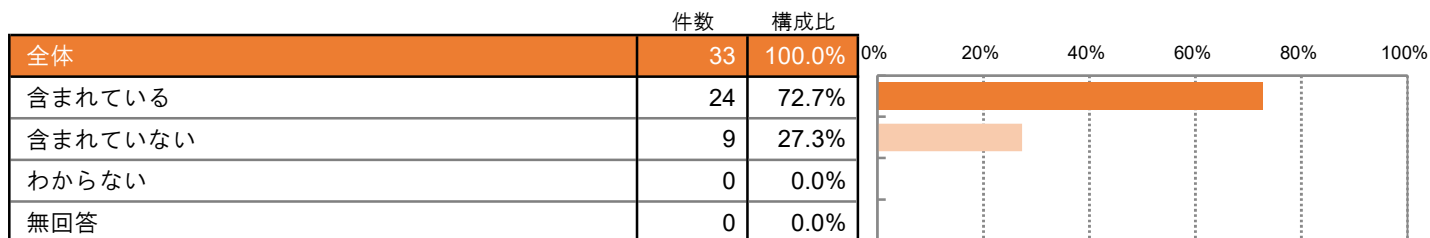
DHEATに係る事前準備を「はい」と選択した割合でみると、「② 平時から保健師等チームの編成・運用に関するマニュアル等を作成していましたか」20件(60.6%)が最も多く、続いて「⑤ 平時からDHEATの派遣に備え、必要な物品の確保をしていましたか」18件(54.5%)、「① 平時からDHEATの編成・運用に関するマニュアル等を作成していましたか」17件(51.5%)となっており、他の項目より事前準備を行っている自治体が多いことがわかった。

Q6. 貴自治体のDHEAT派遣の決定に関わった職員を教えてください〔複数回答〕



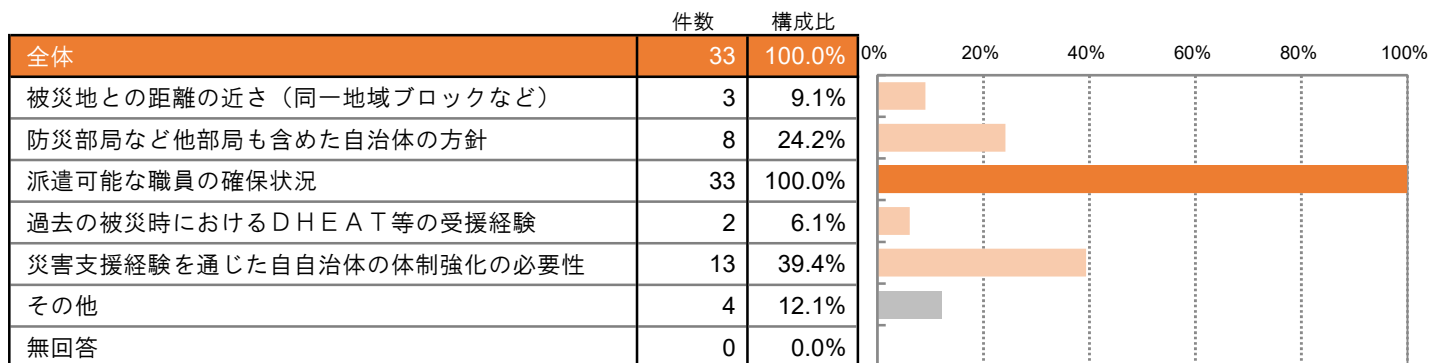
「本庁DHEAT担当課長」28件(84.8%)が最も多く、続いて「本庁DHEAT担当職員」27件(81.8%)、「本庁統括保健師」25件(75.8%)の順となっている。

Q7. DHEAT派遣の決定に関わった職員に、貴自治体の「統括DHEAT」に相当する方は含まれていましたか



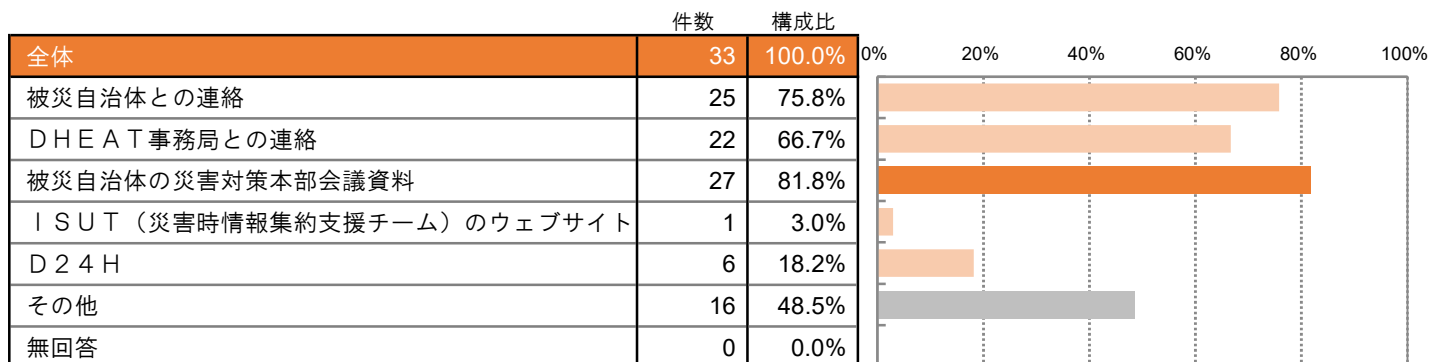
「含まれている」24件(72.7%)が最も多く、続いて「含まれていない」9件(27.3%)の順となっている。

Q8. DHEAT派遣の決定にあたり、どのような事項が重視されましたか〔複数回答〕



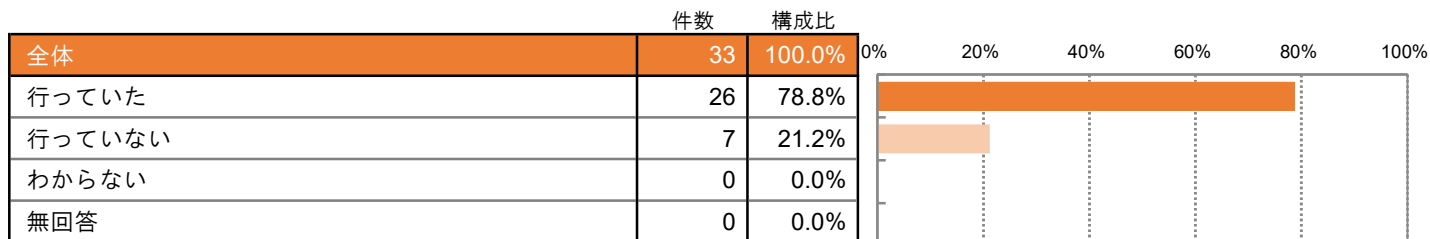
「派遣可能な職員の確保状況」33件(100.0%)が最も多く、続いて「災害支援経験を通じた自自治体の体制強化の必要性」13件(39.4%)、「防災部局など他部局も含めた自治体の方針」8件(24.2%)の順となっている。

Q9. DHEAT派遣に際して、必要な情報をどのように(どこから)収集しましたか〔複数回答〕



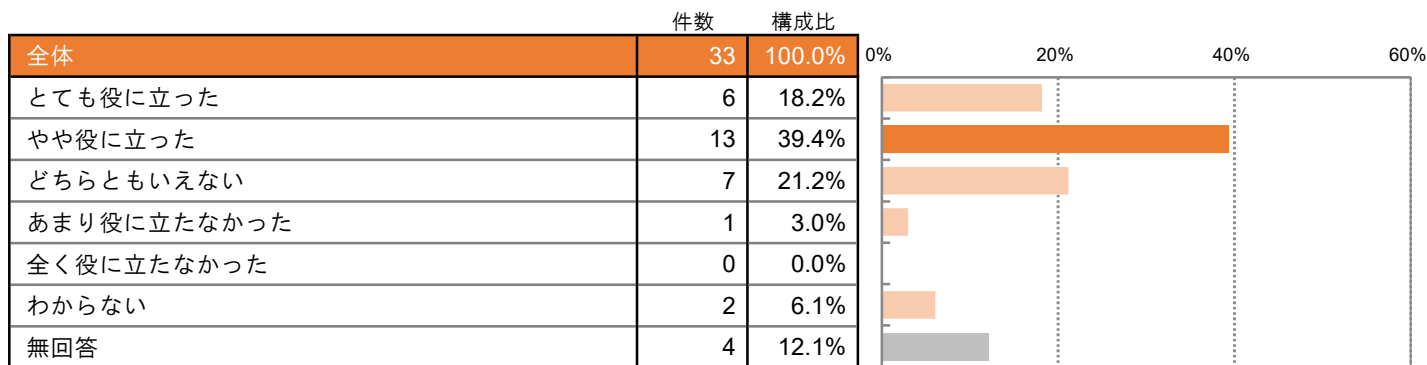
「被災自治体の災害対策本部会議資料」27件(81.8%)が最も多く、続いて「被災自治体との連絡」25件(75.8%)、「DHEAT事務局との連絡」22件(66.7%)の順となっている。

Q10. DHEATとして派遣される候補者の名簿管理を行っていましたか



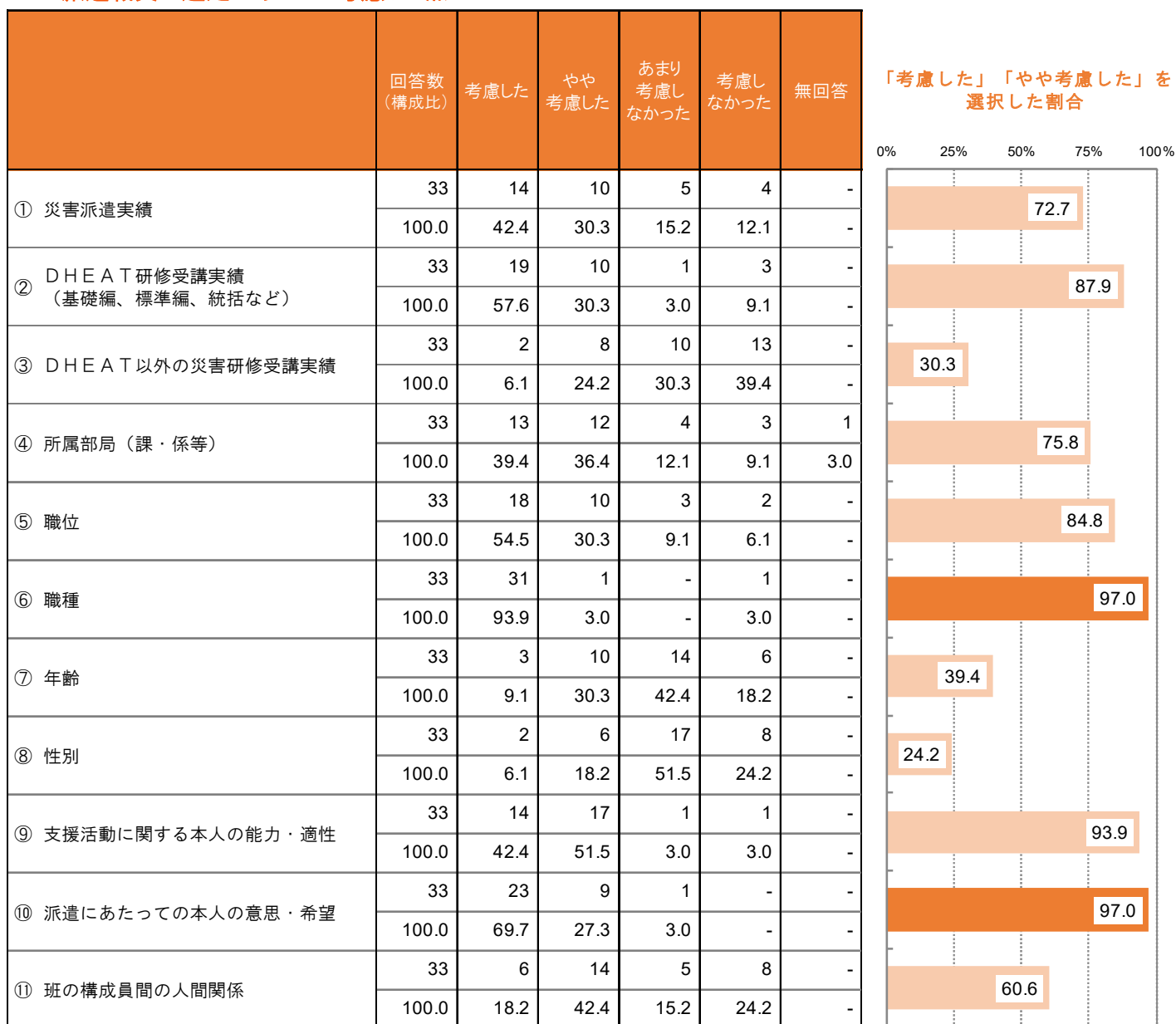
「行っていた」26件(78.8%)が最も多く、続いて「行っていない」7件(21.2%)の順となっている。

Q11. 今回の派遣職員の選定にあたって、事前に作成していた名簿は役に立ちましたか



「やや役に立った」13件(39.4%)が最も多く、続いて「どちらともいえない」7件(21.2%)、「とても役に立った」6件(18.2%)の順となっている。

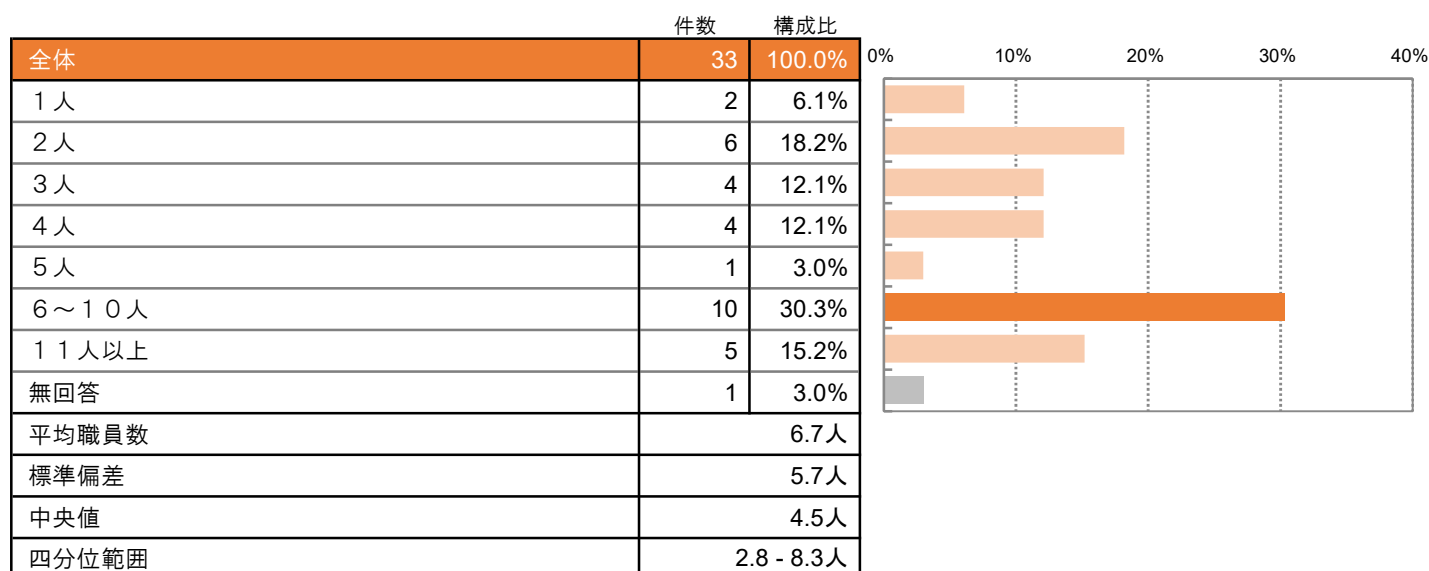
Q12. 派遣職員の選定にあたって考慮した点について



派遣職員の選定にあたって考慮された項目を「考慮した」「やや考慮した」を選択した割合でみると、「⑥ 職種」、「⑩ 派遣にあたっての本人の意思・希望」ともに同率の32件(97.0%)と最も高く、続いて「⑨ 支援活動に関する本人の能力・適性」31件(93.9%)の順となっている。

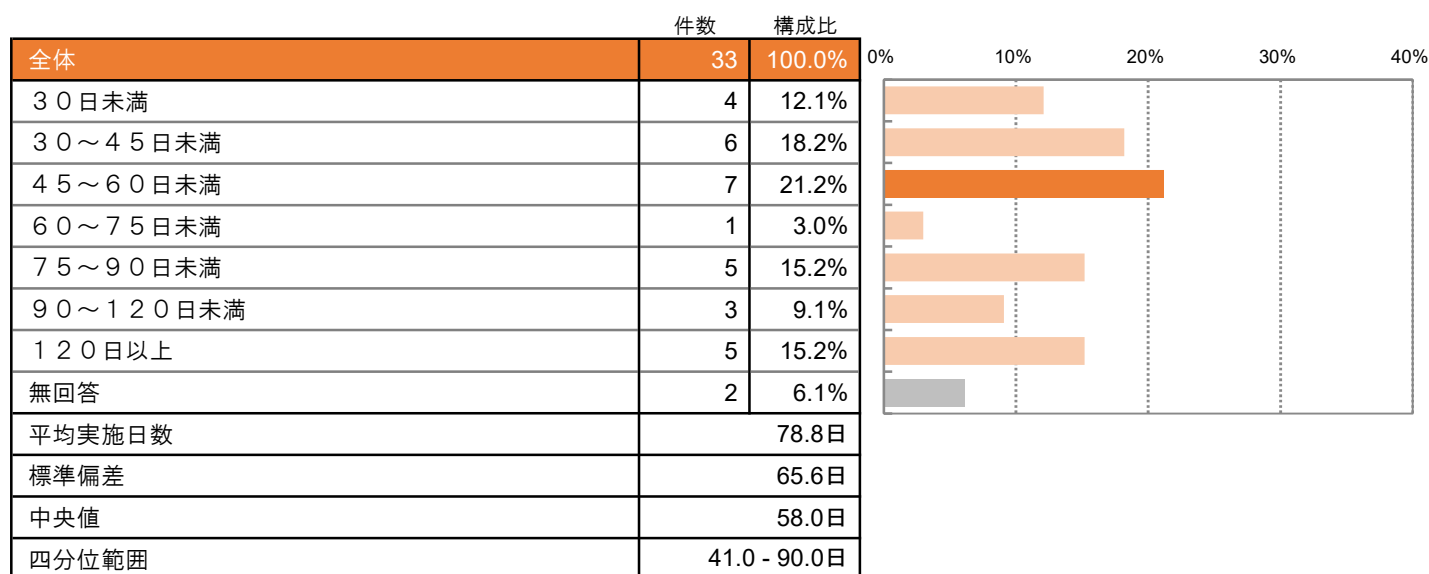
Q13. 派遣元自治体として、DHEATの派遣調整・活動支援に従事した職員

①職員の人数(実人数)



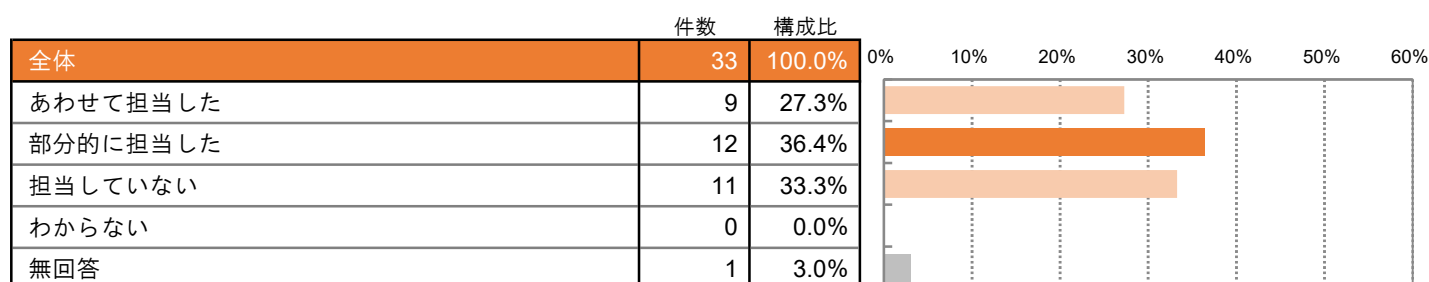
「6～10人」10件(30.3%)が最も多く、続いて「2人」6件(18.2%)、「11人以上」5件(15.2%)の順となっている。また平均職員数は(6.7人)、標準偏差は(5.7人)となっている。

②DHEAT関連の業務の実施期間



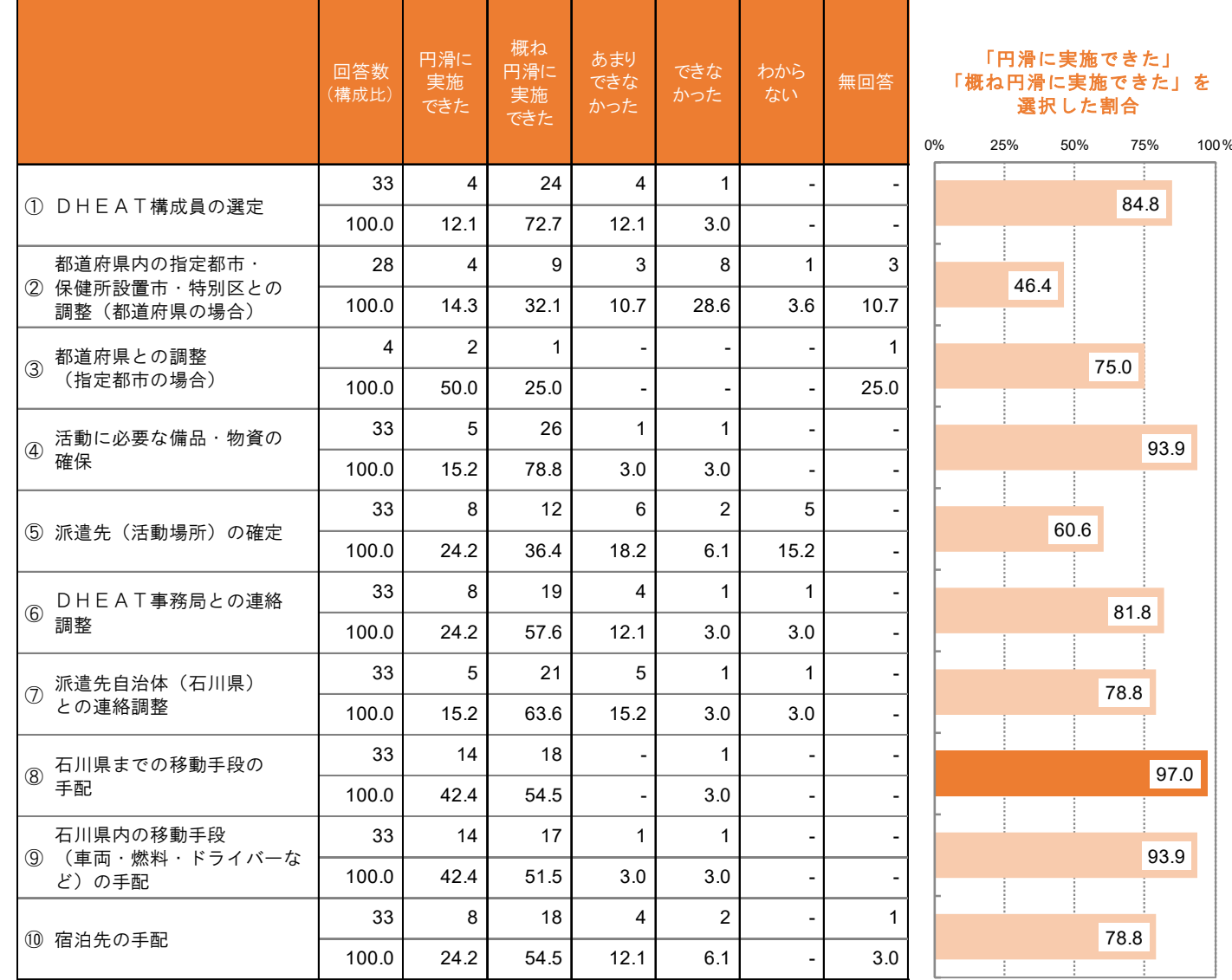
「45～60日未満」7件(21.2%)が最も多く、続いて「30～45日未満」6件(18.2%)、「75～90日未満」5件(15.2%)、「120日以上」5件(15.2%)の順となっている。また平均実施日数は(78.8日)、標準偏差は(65.6日)となっている。

④保健師等チームなど他のチームの派遣調整・活動支援について



「部分的に担当した」12件(36.4%)が最も多く、続いて「担当していない」11件(33.3%)、「あわせて担当した」9件(27.3%)の順となっている。

Q14. DHEAT派遣に関する業務の実施状況について



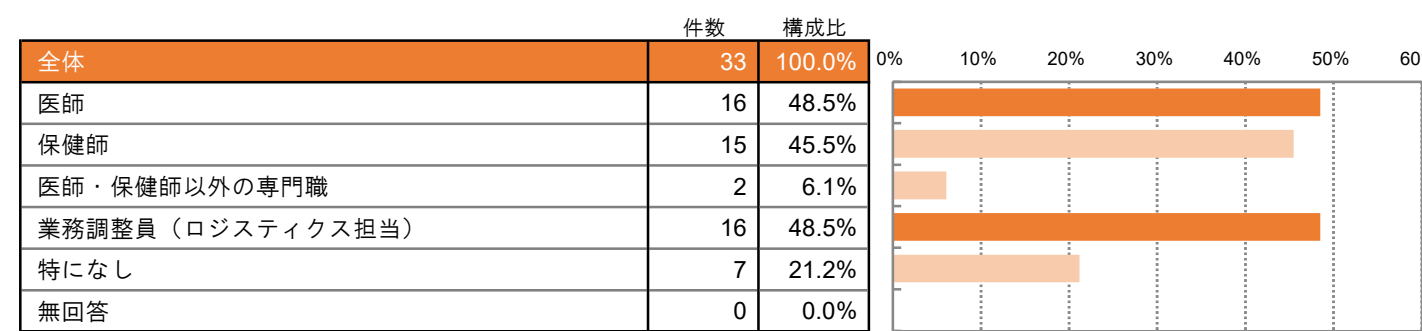
※【集計条件:②】「自治体が都道府県」の〔28件〕を対象に集計

※【集計条件:③】「自治体が指定都市」の〔4件〕を対象に集計

DHEAT派遣に関する業務の実施状況を「円滑に実施できた」「概ね円滑に実施できた」を選択した割合でみると、指定都市のみ4件が回答する「③都道府県との調整」が最も高い3件(75.0%)となっている。都道府県のみ28件が回答する「②都道府県内の指定都市・保健所設置市・特別区との調整」は13件(46.4%)となっており、評価にやや違いが見られた。

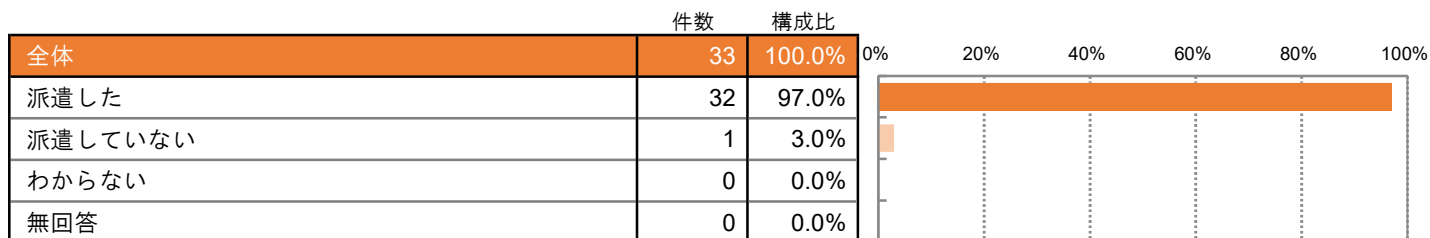
またこちらの項目を除いた中では「⑧石川県までの移動手段の手配」32件(97.0%)が最も多く、続いて「④活動に必要な備品・物資の確保」、「⑨石川県内の移動手段(車両・燃料・ドライバーなど)の手配」ともに同率の31件(93.9%)の順となっている。

Q15. DHEAT構成員の選定において、選定が困難だった職種があれば教えてください〔複数回答〕



「医師」と「業務調整員(ロジスティクス担当)」が同数の16件(48.5%)と最も多く、続いて、「保健師」15件(45.5%)の順となっている。

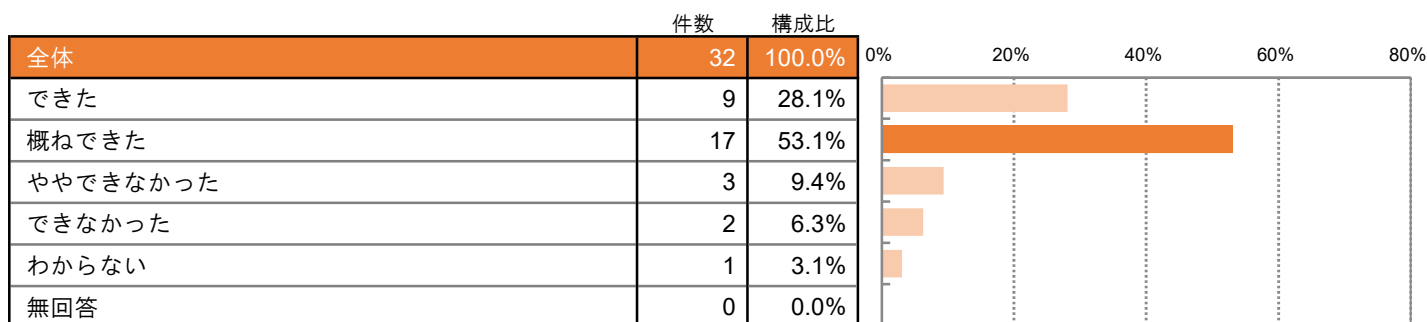
Q16. 貴自治体では保健師等チームを派遣しましたか



「派遣した」32件(97.0%)が最も多く、続いて「派遣していない」1件(3.0%)の順となっている。

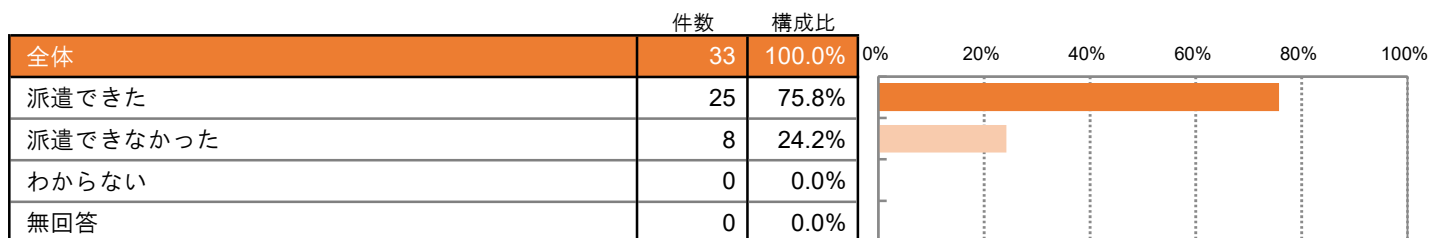
Q17. DHEATの構成員として保健師を派遣する場合の調整は円滑に実施できましたか

【集計条件】Q16. 貴自治体では保健師等チームを派遣しましたか…派遣した



「概ねできた」17件(53.1%)が最も多く、続いて「できた」9件(28.1%)、「ややできなかった」3件(9.4%)の順となっている。

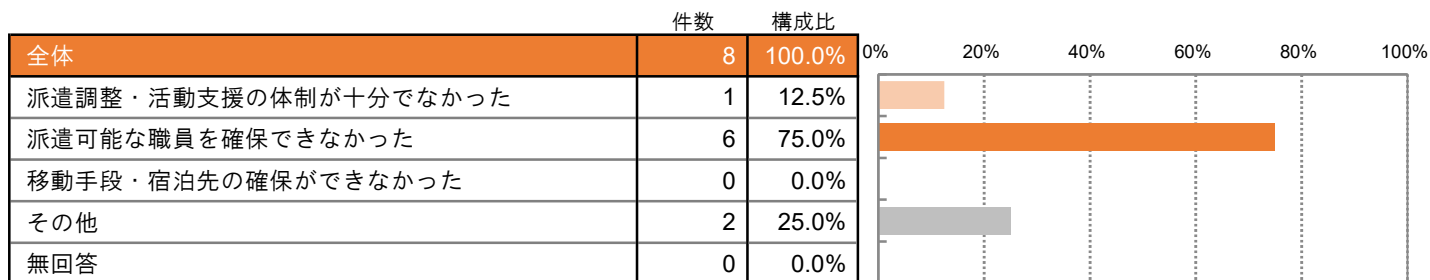
Q18. 貴自治体では、必要とされる期間を通じてDHEATを派遣できましたか



「派遣できた」25件(75.8%)が最も多く、続いて「派遣できなかった」8件(24.2%)の順となっている。

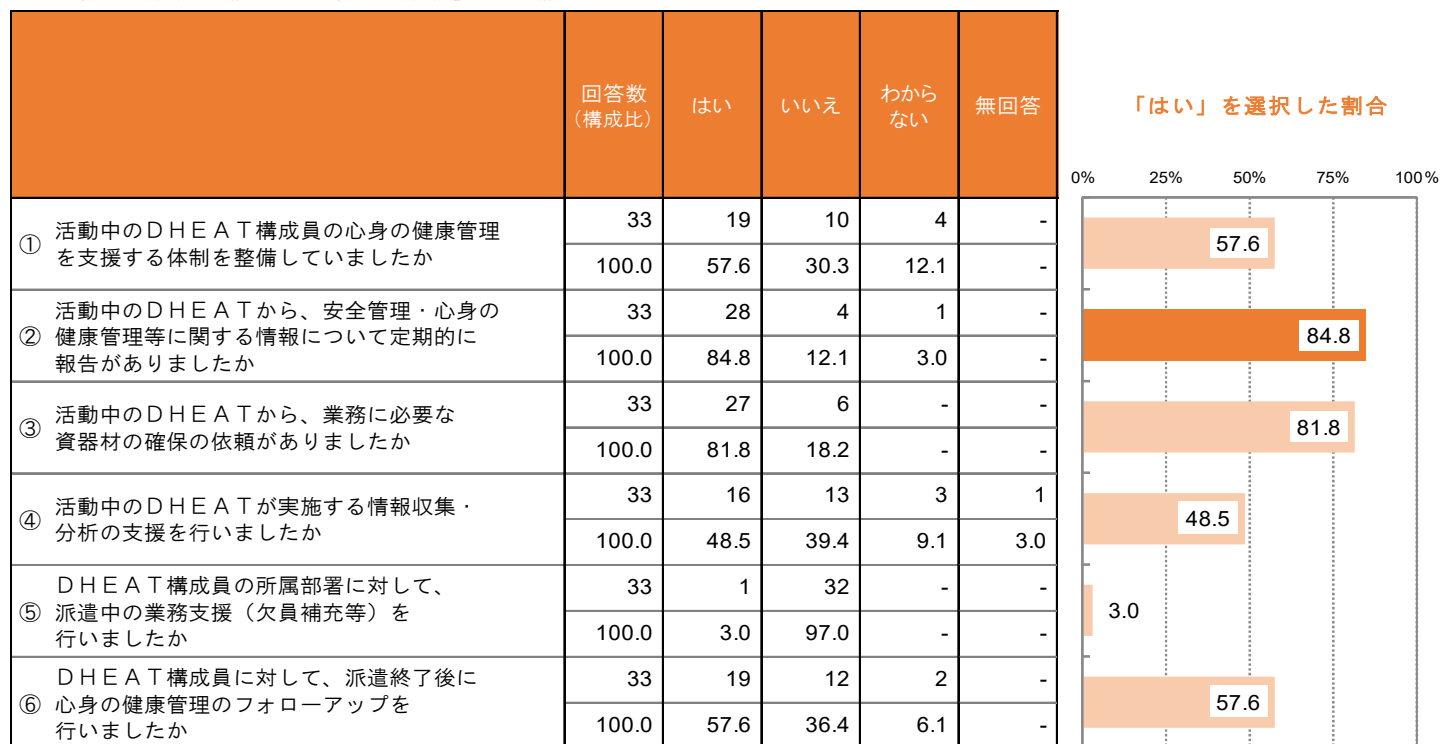
Q19. DHEATを派遣できなかった理由を教えてください〔複数回答〕

【集計条件】Q18. 貴自治体では、必要とされる期間を通じてDHEATを派遣できましたか…派遣できなかった



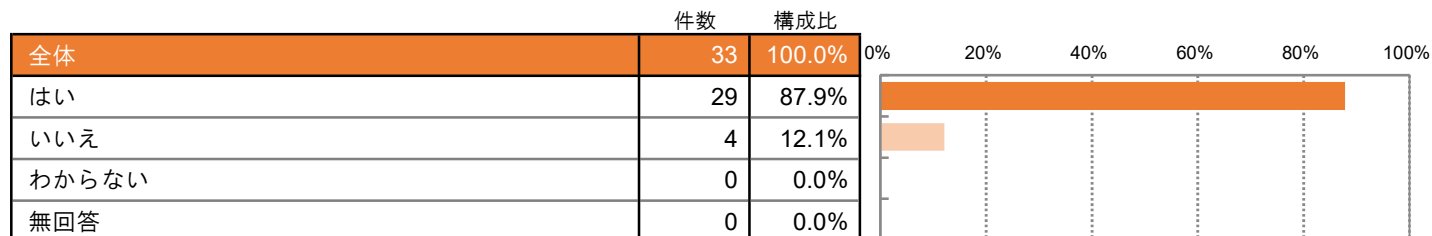
「派遣可能な職員を確保できなかった」6件(75.0%)が最も多く、続いて「派遣調整・活動支援の体制が十分でなかった」1件(12.5%)の順となっている。

Q20. 派遣活動支援および派遣活動後の支援について



派遣活動支援および派遣活動後の支援を「はい」と選択した割合でみると、「②活動中のDHEATから、安全管理・心身の健康管理等に関する情報について定期的に報告がありましたか」28件(84.8%)と最も多く、続いて「③活動中のDHEATから、業務に必要な資器材の確保の依頼がありましたか」27件(81.8%)の順となっている。

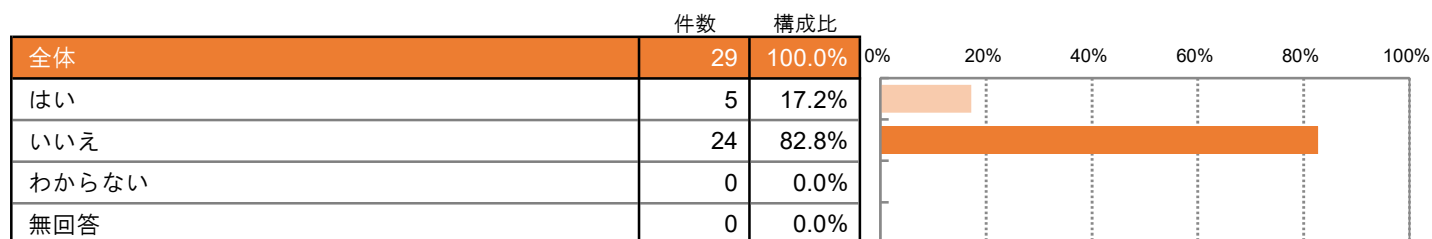
Q21. 派遣元自治体として、DHEAT活動の振り返りを行いましたか



「はい」29件(87.9%)が最も多く、続いて「いいえ」4件(12.1%)の順となっている。

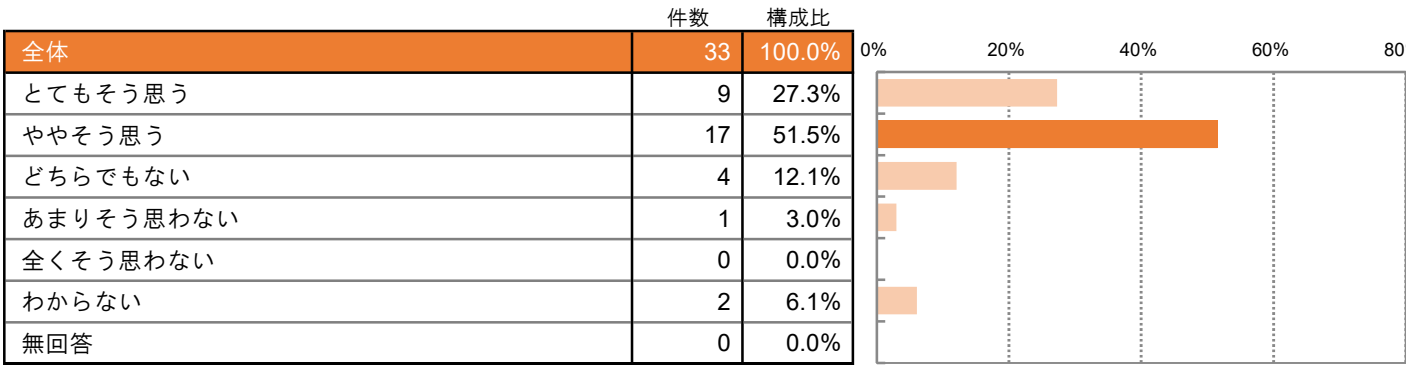
Q22. DHEAT活動の振り返りを通じて、今後の都道府県または指定都市のDHEAT活動の改善計画などを作成しましたか

【集計条件】Q21. 派遣元自治体として、DHEAT活動の振り返りを行いましたか…はい



「いいえ」24件(82.8%)が最も多く、続いて「はい」5件(17.2%)の順となっている。

Q24. 貴自治体職員が参加したDHEATに関する研修・訓練は、今回の支援活動において有用でしたか



「やや思う」17件(51.5%)が最も多く、続いて「とても思う」9件(27.3%)、「どちらでもない」4件(12.1%)の順となっている。

**令和6年能登半島地震における
災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)活動の実態調査**

集計結果報告書

DHEAT班長

厚生労働科学研究補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業
「健康危機発生時における保健所設置自治体や保健所の組織体制並びに
人材育成等の強化、及びブロックごとのDHEAT体制強化のための研究」班

目次

Q1	回答自治体	1
Q2	能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要	1
	①DHEATとしての派遣回数	
	②派遣期間（移動日を含む）	
	③現地活動期間	
	④派遣先（主な活動場所）	
	⑤宿泊先の自治体名	
	⑤宿泊先の施設種別	
	⑥支援先での実質活動時間・移動時間・宿泊先等での活動時間	
Q3	あなたが派遣された経緯	4
Q4	今回の派遣についてのあなたの意思	4
Q5	派遣決定から出発までの日数	5
Q6	派遣決定から出発までの日数は派遣の準備をする上で十分でしたか	5
Q7	派遣にあたって職場は協力的でしたか	5
Q8	派遣にあたって同居のご家族は協力的でしたか	6
Q9	班の構成員は派遣前から互いに面識がありましたか	6
Q10	派遣前に班のミーティング（簡単な顔合わせなども含む）を行いましたか	6
Q11	DHEATの活動目的について	7
Q12	支援対象組織（県・市町・保健所・1.5次避難所等）の 保健医療福祉活動に関する指揮命令系統はわかりやすかったですか	7
Q13	DHEATとしてどのような形態で活動しましたか	7
Q14	DHEATとして班の構成員の活動内容を明確に決めていましたか	8
Q15	班の構成員の活動内容を把握できていましたか	8
Q16	あなたの班で従事した支援活動	9
Q17	班の構成員間の情報共有はどのような方法で行いましたか	10
Q18	日々の活動の開始・終了時に班としてミーティングを行いましたか	10
Q19	班のチームワークはいかがでしたか	10
Q21	支援対象組織や支援チームとの情報共有状況	11
Q22	支援対象組織や支援チームとの間での状況認識や活動方針の共有状況	12
Q23	他の支援チームと資料など情報共有するために ファイル共有システム（Google Driveなど）を使用しましたか	13
Q24	DHEAT連絡会議は有効に機能していましたか	13
Q25	班のリーダーとしての安全・健康に関する管理の実施状況	13
Q26	活動期間中の身体面および精神面の健康状態	14
Q27	活動期間中のけが、または心身の不調が生じた構成員の有無	14
Q28	活動期間中に心身の健康状態等を相談できる体制は整っていましたか	14

目次

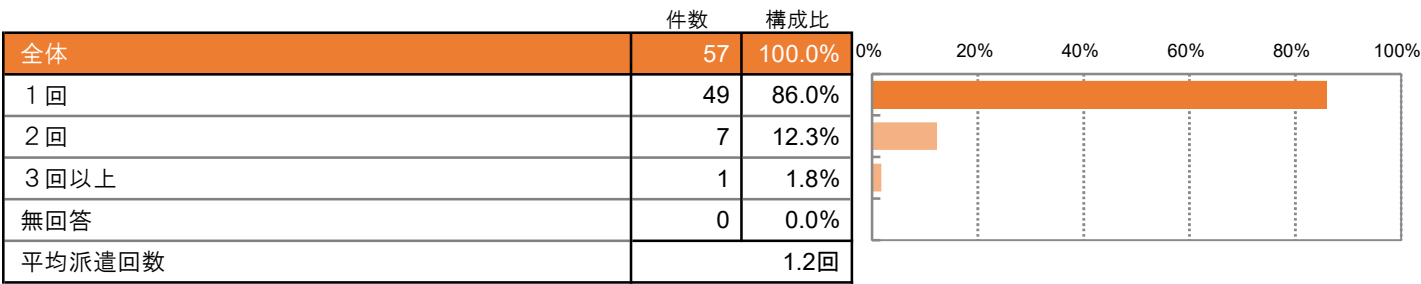
Q30 情報システムの使用状況および使用感等	15
①使用状況	
②使用感	
Q31 D H E A T 活動における情報システムの有用性	16
Q32 活動に必要な事項についての確保状況	16
Q33 活動期間中に派遣元自治体から受けた支援内容	17
Q36 D H E A T 活動日報を作成しましたか	17
Q37 D H E A T 活動日報の報告先	17
Q39 D H E A T 活動日報以外の活動記録 （情報分析、課題、方針などを記録したもの）を作成しましたか	18
Q41 今回の活動開始にあたり先発の班等から引き継ぎを受けましたか	18
Q42 引き継ぎ内容は有用でしたか	18
Q43 今回の活動終了にあたり後発の班等に引き継ぎを行いましたか	18
Q44 活動期間は適切でしたか	19
Q45 班の構成員の人数は適切でしたか	19
Q46 班の構成員の職種等の構成は適切でしたか	19
Q47 班として活動目標を達成できましたか （活動目標が設定されていない場合：被災地の保健医療福祉活動に貢献できましたか）	20
Q48 班としての支援活動は、防ぎえた死と二次健康被害の最小化に貢献したと思いますか	20
Q49 班としての支援活動は、被災地の保健医療福祉の復旧に貢献したと思いますか	20
Q50 班としての業務遂行状況	21
Q51 今回の D H E A T の派遣は、あなた自身の健康危機管理に関する能力の向上に寄与しましたか	21
Q52 今回の D H E A T の派遣は、あなたの自治体の健康危機管理体制の強化に寄与しましたか	21
Q53 班として活動の振り返りを行いましたか	22
Q54 今回の活動を通じてあなたの自治体の D H E A T 活動の見直しが行われましたか	22
Q56 今回の D H E A T の派遣をふりかえった時の研修等の有用性	22
Q57 今回の活動を踏まえて、今後 D H E A T の研修・訓練で特に重視すべき項目	23
Q59 今後 D H E A T の派遣要請があった場合に、派遣されることを希望しますか	23
Q61 年齢層（今回の派遣の出発日時点）	24
Q62 性別	24
Q63 職種	24
Q64 職位	25
Q65 研修受講歴	25
Q66 災害支援経験（令和6年能登半島地震より前の支援経験）	25
Q67 災害受援経験	25

Q1. 回答自治体

回答件数	57 件	(参考) DHEAT派遣班数：105班
自治体数	29 自治体(78.4%)	(参考) DHEAT派遣自治体数：37自治体
	その他・無回答：3件	

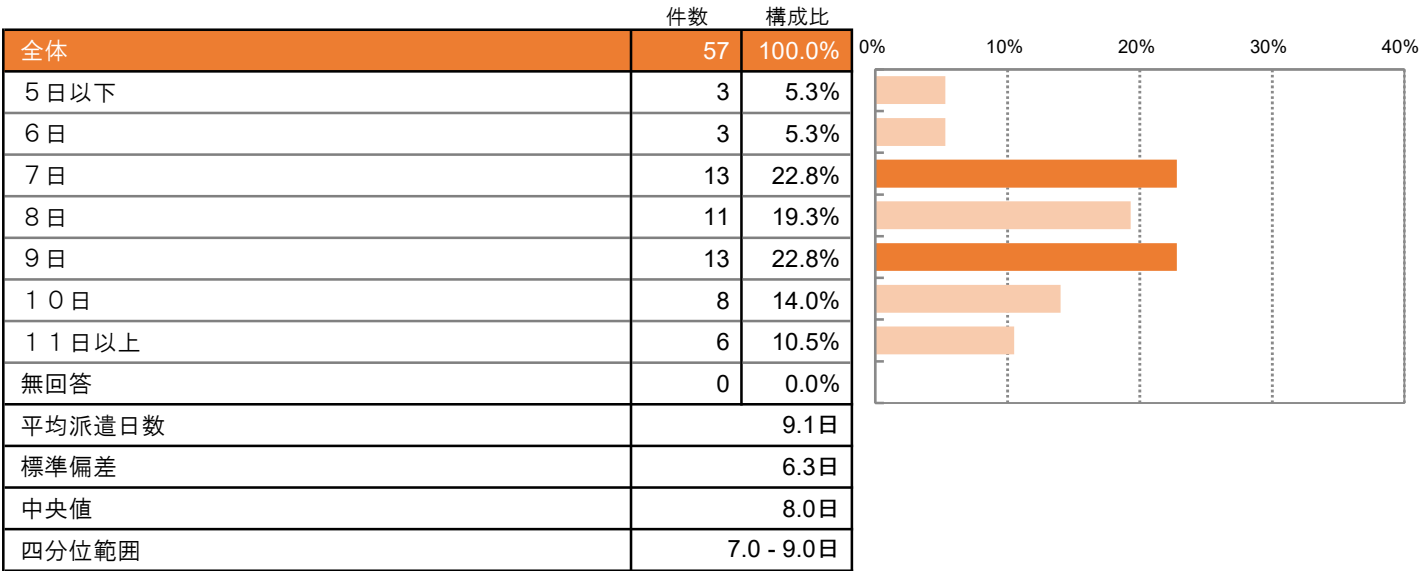
Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

①DHEATとしての派遣回数



「1 回」49件(86.0%)が最も多く、続いて「2 回」7件(12.3%)、「3 回以上」1件(1.8%)の順となっている。また平均派遣回数は、(1.2回)となっている。

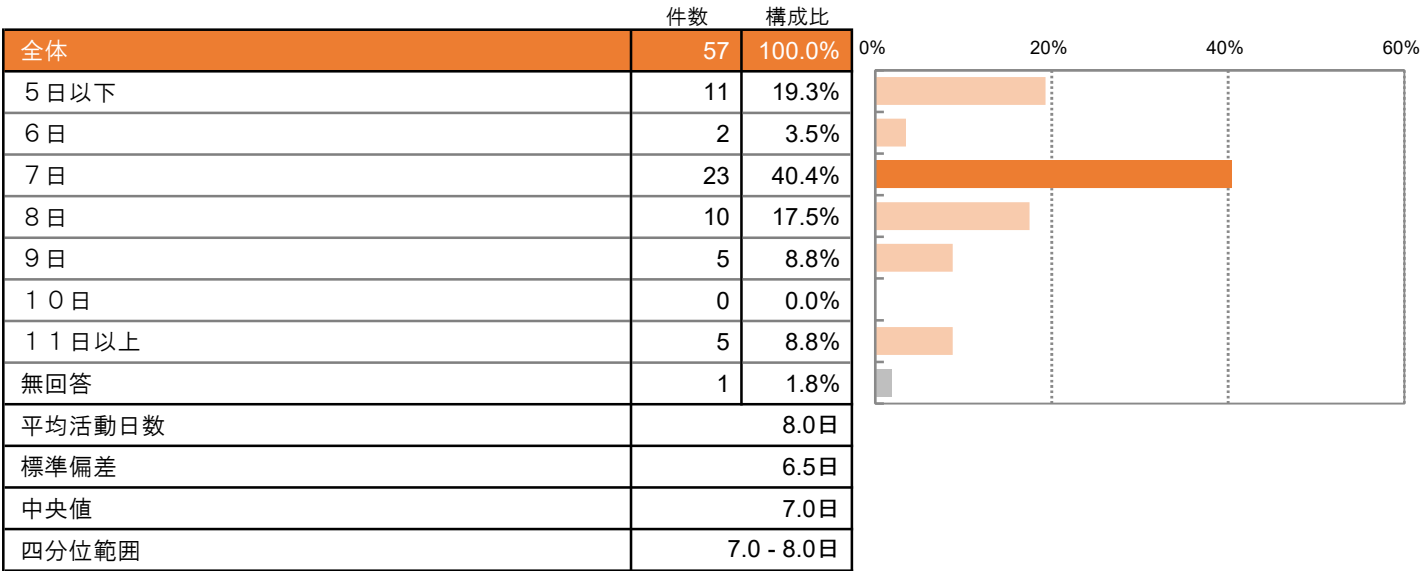
②派遣期間(移動日を含む)



「7 日」と「9 日」が同数で13件(22.8%)と最も多く、続いて「8 日」11件(19.3%)の順となっている。また平均派遣日数は(9.1日)、標準偏差は(6.3日)となっている。

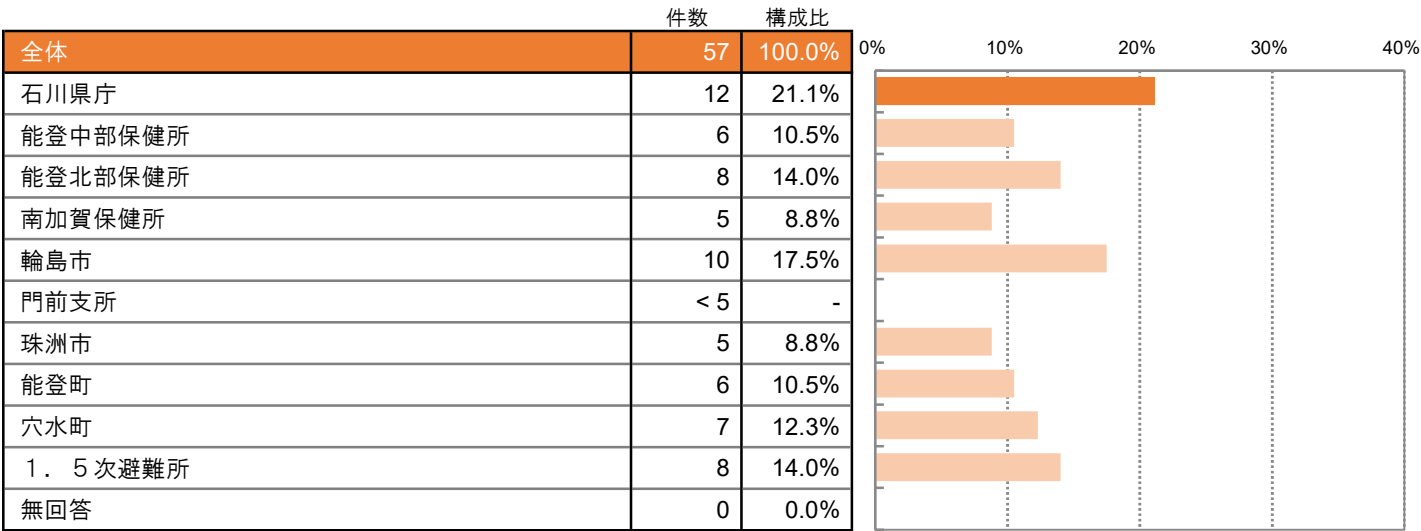
Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

③現地活動期間



「7 日」23件(40.4%)が最も多く、続いて「5 日以下」11件(19.3%)、「8 日」10件(17.5%)の順となっている。また平均活動日数は(8.0日)、標準偏差は(6.5日)となっている。

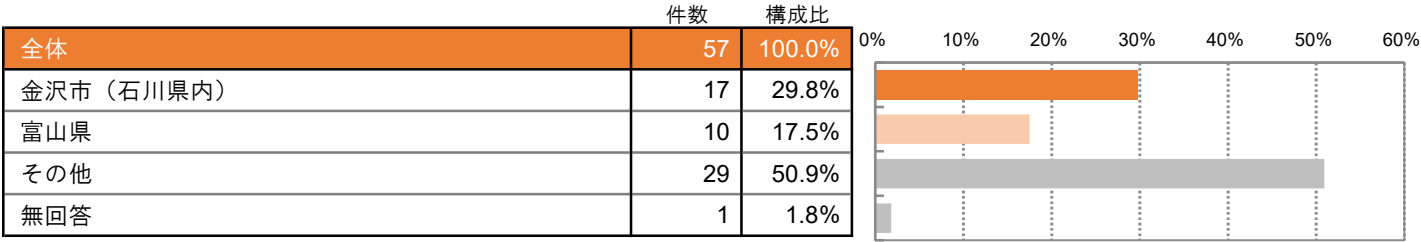
④派遣先(主な活動場所)[複数回答]



「石川県庁」12件(21.1%)が最も多く、続いて「輪島市」10件(17.5%)、「能登北部保健所」8件(14.0%)、「1. 5 次避難所」8件(14.0%)の順となっている。

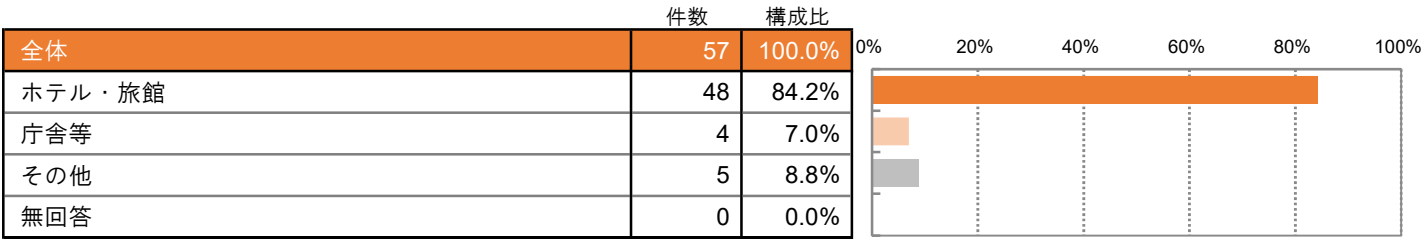
Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

⑤宿泊先の自治体名



「金沢市（石川県内）」17件(29.8%)が最も多く、続いて「富山県」10件(17.5%)の順となっている。

⑤宿泊先の施設種別



「ホテル・旅館」48件(84.2%)が最も多く、続いて「庁舎等」4件(7.0%)の順となっている。

Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

⑥支援先での実質活動時間・移動時間・宿泊先等での活動時間 [平均時間(標準偏差)]

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	各活動の 合計 平均時間
1 支援先での実質活動時間 （移動時間除く）	5.85 (4.37)	10.25 (2.54)	10.90 (2.11)	10.93 (2.30)	10.65 (2.43)	10.41 (2.60)	8.68 (3.66)	67.67
2 移動時間	5.37 (3.01)	2.60 (2.27)	1.90 (1.98)	2.05 (2.02)	2.06 (2.07)	2.26 (2.24)	3.33 (3.30)	19.57
3 宿泊先等での活動時間 （移動時間を除く）	0.64 (0.71)	1.12 (2.16)	1.25 (2.64)	1.30 (2.77)	1.29 (2.82)	1.52 (3.09)	0.86 (2.48)	7.98
合計平均時間	11.86	13.97	14.05	14.28	14.00	14.19	12.87	95.22

※有効回答を母数として集計表を作成

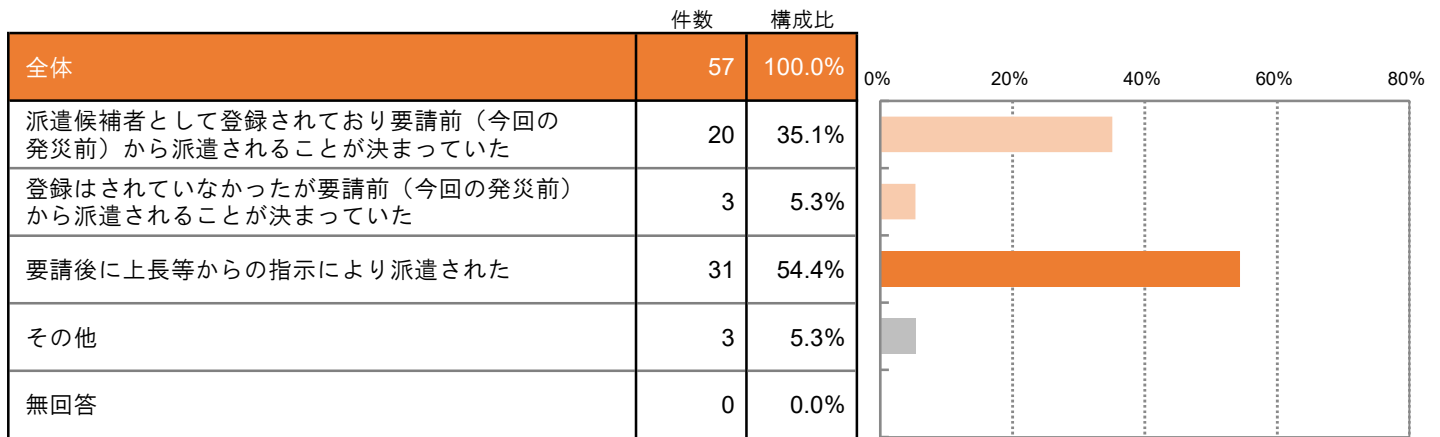
各活動の平均時間の合計をみると、「1 支援先での実質活動時間」（67.67時間）、「2 移動時間」（19.57時間）、「3 宿泊先等での活動時間」（7.98時間）となっており、一回の支援活動での合計時間は（95.22時間）となっている。

[中央値(四分位範囲)]

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
1 支援先での実質活動時間 （移動時間除く）	5.00 (2.00 - 8.88)	11.00 (8.00 - 12.00)	11.00 (9.00 - 12.00)	11.00 (9.00 - 12.00)	11.00 (8.75 - 12.00)	11.00 (9.00 - 12.00)	9.50 (5.00 - 12.00)
2 移動時間	5.00 (3.00 - 8.00)	2.00 (1.00 - 4.10)	1.00 (0.50 - 3.00)	1.00 (0.50 - 3.00)	1.00 (0.50 - 2.88)	1.00 (0.50 - 4.00)	2.00 (1.00 - 5.00)
3 宿泊先等での活動時間 （移動時間を除く）	0.50 (0.00 - 1.00)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.00 (0.00 - 1.00)

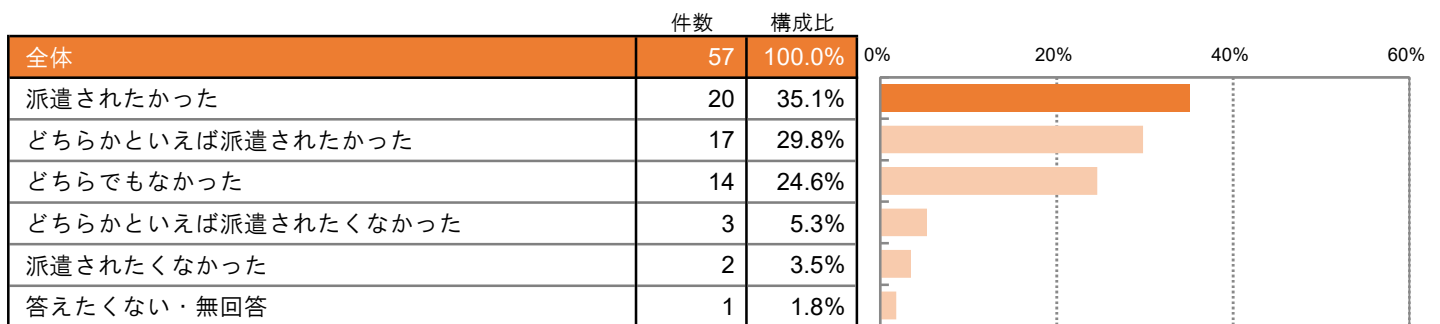
※有効回答を母数として集計表を作成

Q3. あなたが派遣された経緯



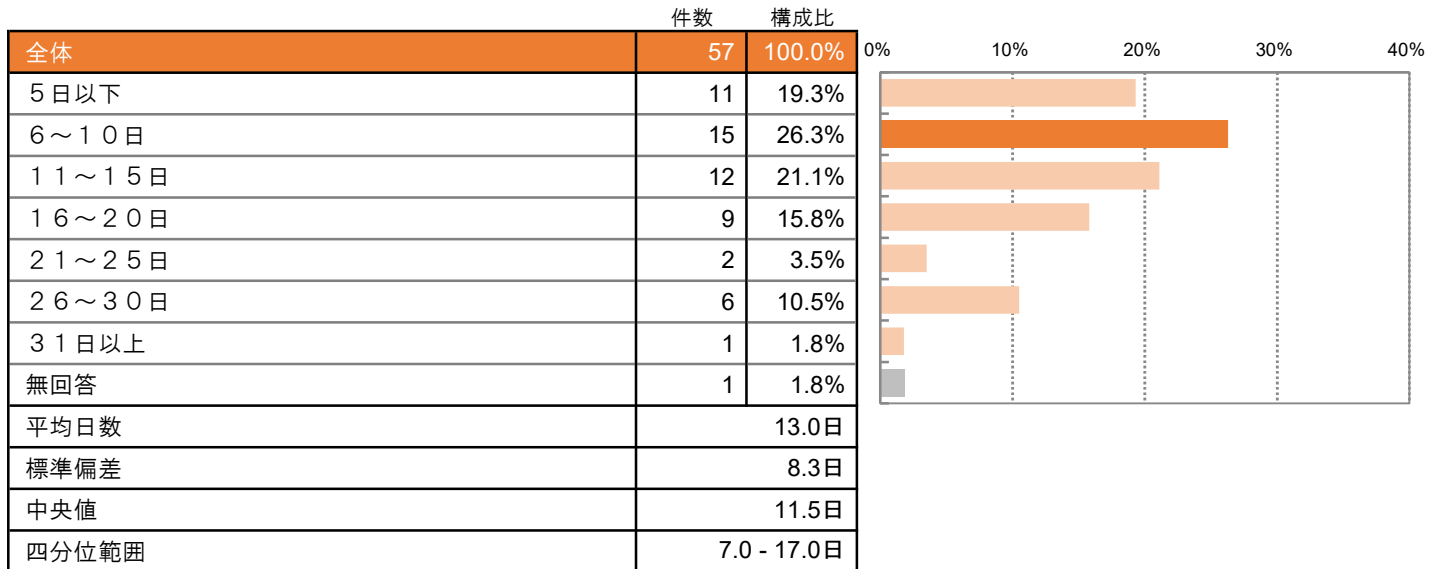
「要請後に上長等からの指示により派遣された」31件(54.4%)が最も多く、続いて「派遣候補者として登録されており要請前から決まっていた」20件(35.1%)、「登録はされていなかったが要請前から決まっていた」3件(5.3%)の順となっている。

Q4. 今回の派遣についてのあなたの意思



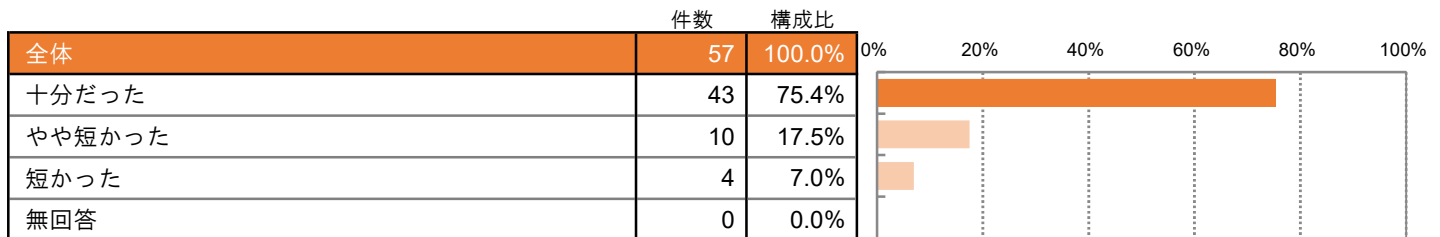
「派遣されたかった」20件(35.1%)が最も多く、続いて「どちらかといえば派遣されたかった」17件(29.8%)、「どちらでもなかった」14件(24.6%)の順となっている。

Q5. 派遣決定から出発までの日数



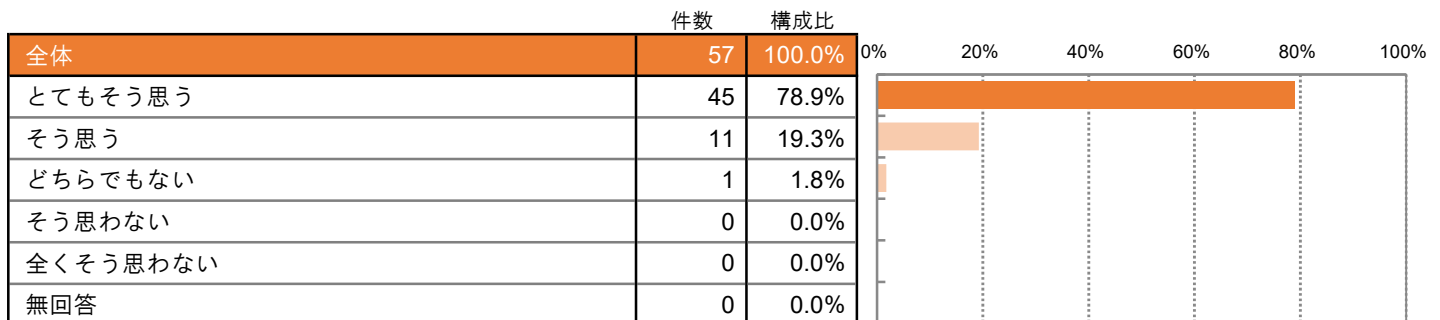
「6～10日」15件(26.3%)が最も多く、続いて「11～15日」12件(21.1%)、「5日以下」11件(19.3%)の順となっている。また平均日数は(13.0日)、標準偏差は(8.3日)となっている。

Q6. 派遣決定から出発までの日数は派遣の準備をする上で十分でしたか



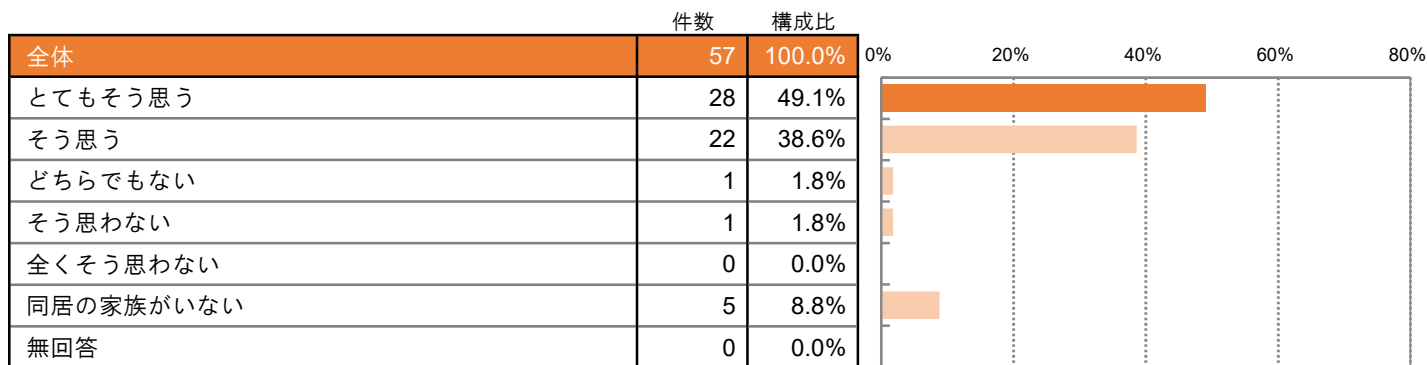
「十分だった」43件(75.4%)が最も多く、続いて「やや短かった」10件(17.5%)、「短かった」4件(7.0%)の順となっている。

Q7. 派遣にあたって職場は協力的でしたか



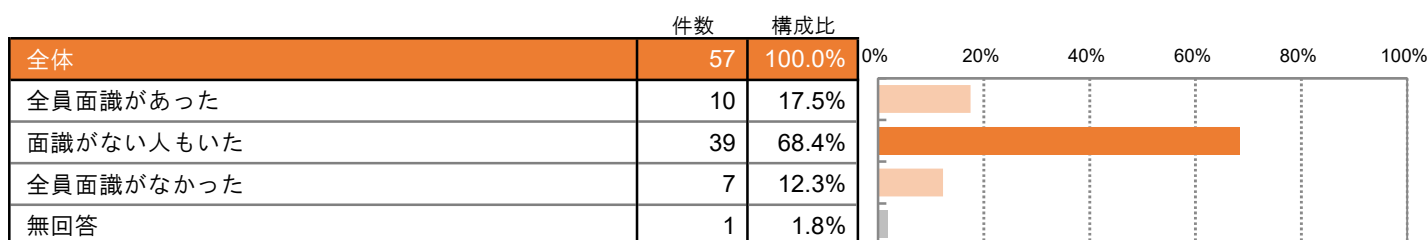
「とてもそう思う」45件(78.9%)が最も多く、続いて「そう思う」11件(19.3%)、「どちらでもない」1件(1.8%)の順となっている。

Q8. 派遣にあたって同居のご家族は協力的でしたか



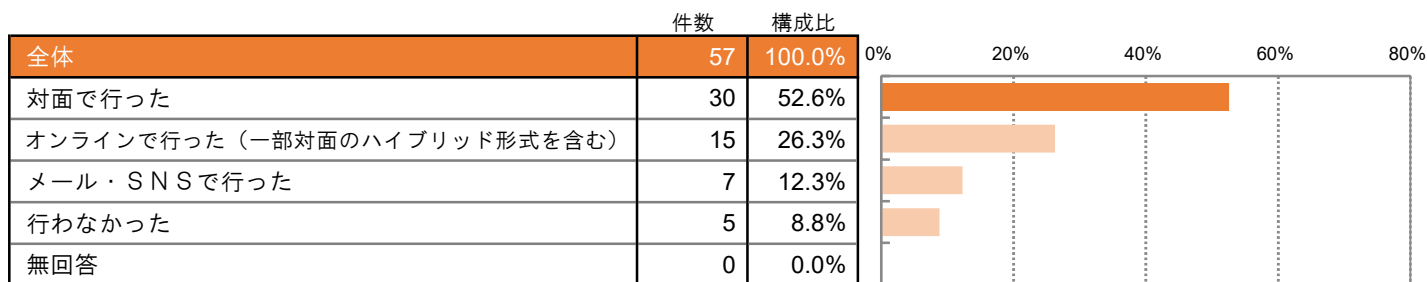
「とてもそう思う」28件(49.1%)が最も多く、続いて「そう思う」22件(38.6%)、「同居の家族がいない」5件(8.8%)の順となっている。

Q9. 班の構成員は派遣前から互いに面識がありましたか



「面識がない人もいた」39件(68.4%)が最も多く、続いて「全員面識があった」10件(17.5%)、「全員面識がなかった」7件(12.3%)の順となっている。

Q10. 派遣前に班のミーティング(簡単な顔合わせなども含む)を行いましたか



「対面で行った」30件(52.6%)が最も多く、続いて「オンラインで行った(一部対面のハイブリッド形式を含む)」15件(26.3%)、「メール・SNSで行った」7件(12.3%)の順となっている。

Q11. DHEATの活動目的について

	回答数 (構成比)	はい	いいえ	わからない	無回答	「はい」を選択した割合
① 支援対象組織(県・市町・保健所・1.5次避難所等)では、保健医療福祉活動の目的が明確に示されていましたか	57 100.0	35 61.4	14 24.6	8 14.0	-	61.4
② DHEATとしての支援活動の目的(当該派遣期間だけでなくDHEAT活動全体を通じて目指すべき目的)は明確に示されていましたか	57 100.0	35 61.4	14 24.6	8 14.0	-	61.4
③ 当該活動期間におけるDHEATとしての支援活動の目標を構成員に対して具体的に示しましたか	57 100.0	44 77.2	6 10.5	7 12.3	-	77.2

DHEATの活動目的を「はい」を選択した割合でみると、「③当該活動期間におけるDHEATとしての支援活動の目標を構成員に対して具体的に示しましたか」44件(77.2%)と最も高く、続いて「①支援対象組織では、保健医療福祉活動の目的が明確に示されていましたか」と「②DHEATとしての支援活動の目的は明確に示されていましたか」が同率で49件(61.4%)の順となっている。

Q12. 支援対象組織(県・市町・保健所・1.5次避難所等)の保健医療福祉活動に関する指揮命令系統はわかりやすかったですか

	件数	構成比	
全体	57	100.0%	0%
とてもそう思う	9	15.8%	20%
そう思う	12	21.1%	40%
どちらでもない	11	19.3%	60%
そう思わない	20	35.1%	
全くそう思わない	5	8.8%	
無回答	0	0.0%	

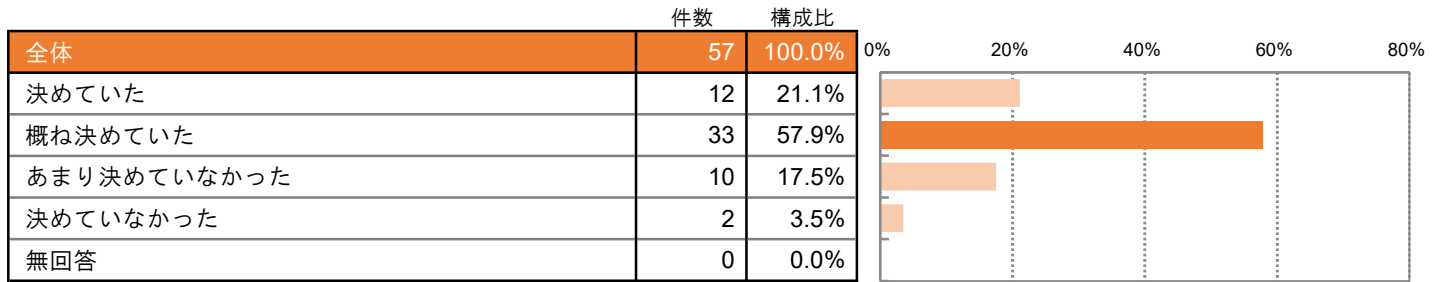
「そう思わない」20件(35.1%)が最も多く、続いて「そう思う」12件(21.1%)、「どちらでもない」11件(19.3%)の順となっている。

Q13. DHEATとしてどのような形態で活動しましたか

	件数	構成比	
全体	57	100.0%	0%
班単位で活動した	10	17.5%	20%
班単位を基本としつつ個別に活動することもあった	28	49.1%	40%
個別に活動した(溶け込み型)	11	19.3%	60%
その他	8	14.0%	80%
無回答	0	0.0%	

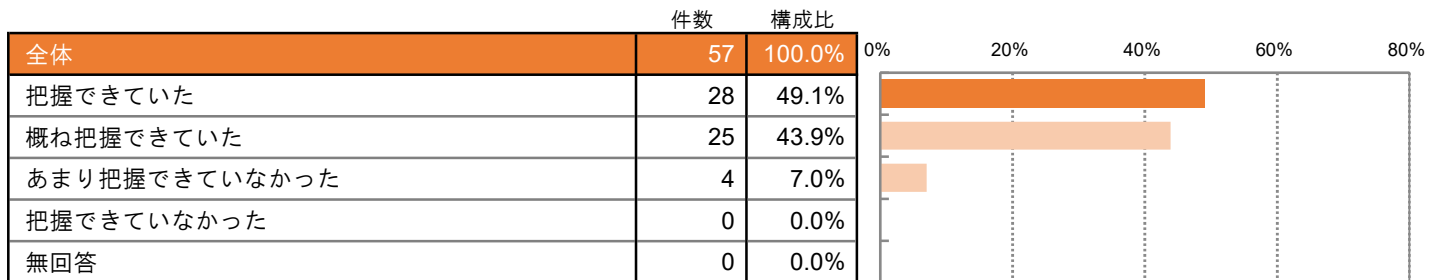
「班単位を基本としつつ個別に活動することもあった」28件(49.1%)が最も多く、続いて「個別に活動した(溶け込み型)」11件(19.3%)、「班単位で活動した」10件(17.5%)の順となっている。

Q14. DHEATとして班の構成員の活動内容を明確に決めていましたか



「概ね決めていた」33件(57.9%)が最も多く、続いて「決めていた」12件(21.1%)、「あまり決めていなかった」10件(17.5%)の順となっている。

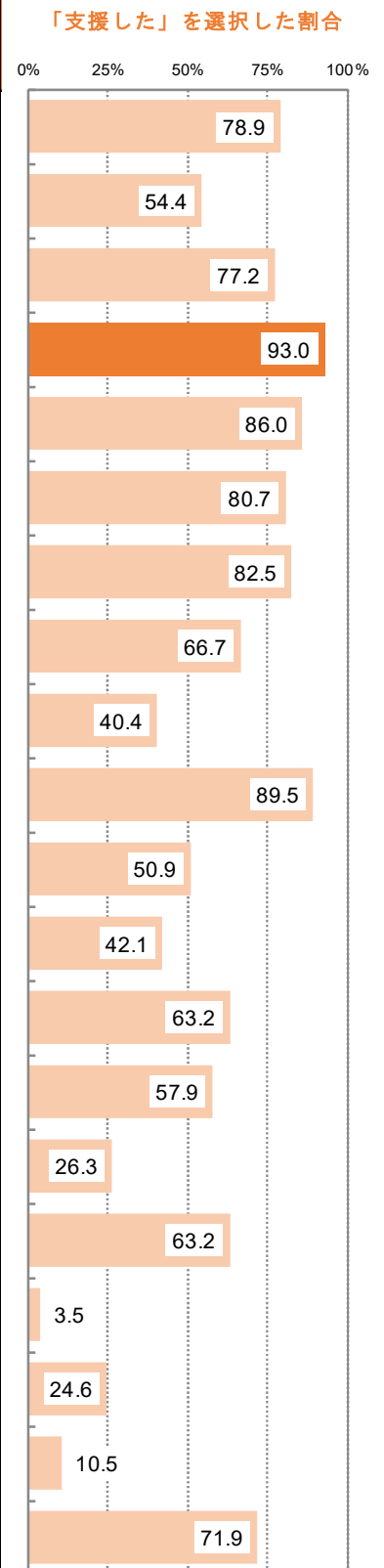
Q15. 班の構成員の活動内容を把握できていましたか



「把握できていた」28件(49.1%)が最も多く、続いて「概ね把握できていた」25件(43.9%)、「あまり把握できていなかった」4件(7.0%)の順となっている。

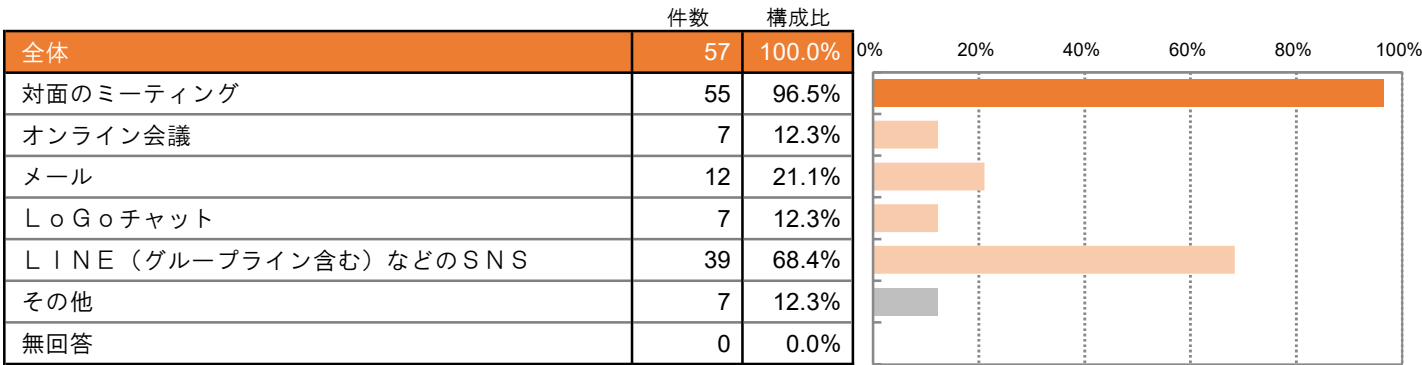
Q16. あなたの班で従事した支援活動

	回答数 (構成比)	支援した	支援しなかった			無回答
			必要性は あった	必要性は なかった	必要性は 不明	
① 調整本部等の設置・運営	57 100.0	45 78.9	- -	9 15.8	3 5.3	- -
② 指揮調整体制の構築	57 100.0	31 54.4	3 5.3	17 29.8	6 10.5	- -
③ 被災情報等の収集・集計	57 100.0	44 77.2	2 3.5	6 10.5	5 8.8	- -
④ 状況の分析・評価	57 100.0	53 93.0	1 1.8	2 3.5	1 1.8	- -
⑤ 対策の企画立案	57 100.0	49 86.0	4 7.0	1 1.8	3 5.3	- -
⑥ 会議運営 (会議スケジュールの設定を含む)	57 100.0	46 80.7	- -	9 15.8	2 3.5	- -
⑦ 会議資料の作成	57 100.0	47 82.5	2 3.5	5 8.8	3 5.3	- -
⑧ 会議議事録の作成	57 100.0	38 66.7	3 5.3	12 21.1	4 7.0	- -
⑨ 広報・コミュニケーション活動	57 100.0	23 40.4	2 3.5	16 28.1	16 28.1	- -
⑩ 渉外(リエゾン)活動 (関係機関との連絡窓口)	57 100.0	51 89.5	- -	2 3.5	4 7.0	- -
⑪ ロードマップの作成	57 100.0	29 50.9	7 12.3	12 21.1	9 15.8	- -
⑫ 対応従事者の健康管理	57 100.0	24 42.1	7 12.3	11 19.3	15 26.3	- -
⑬ 保健師等チームの受援調整	57 100.0	36 63.2	3 5.3	8 14.0	10 17.5	- -
⑭ その他支援チームの受援調整	57 100.0	33 57.9	2 3.5	14 24.6	8 14.0	- -
⑮ 物資調達	57 100.0	15 26.3	5 8.8	24 42.1	13 22.8	- -
⑯ 情報システムへの入力	57 100.0	36 63.2	3 5.3	10 17.5	8 14.0	- -
⑰ 求償等費用に関する業務	57 100.0	2 3.5	3 5.3	27 47.4	25 43.9	- -
⑱ 大規模広域避難所 (1. 5次避難所等)の運営	57 100.0	14 24.6	3 5.3	29 50.9	10 17.5	1 1.8
⑲ その他避難所の運営	57 100.0	6 10.5	2 3.5	33 57.9	16 28.1	- -
⑳ 感染症対策(避難所等の防疫など)	57 100.0	41 71.9	2 3.5	11 19.3	3 5.3	- -



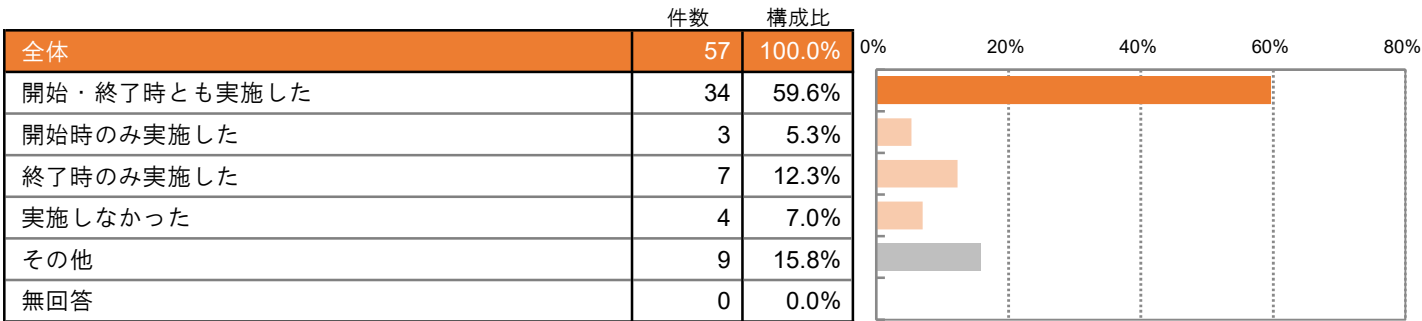
班で従事した支援活動を「支援した」を選択した割合でみると、「④状況の分析・評価」53件(93.0%)と最も高く、続いて「⑩渉外(リエゾン)活動(関係機関との連絡窓口)」51件(89.5%)、「⑤対策の企画立案」49件(86.0%)の順となっている。

Q17. 班の構成員間の情報共有はどのような方法で行いましたか〔複数回答〕



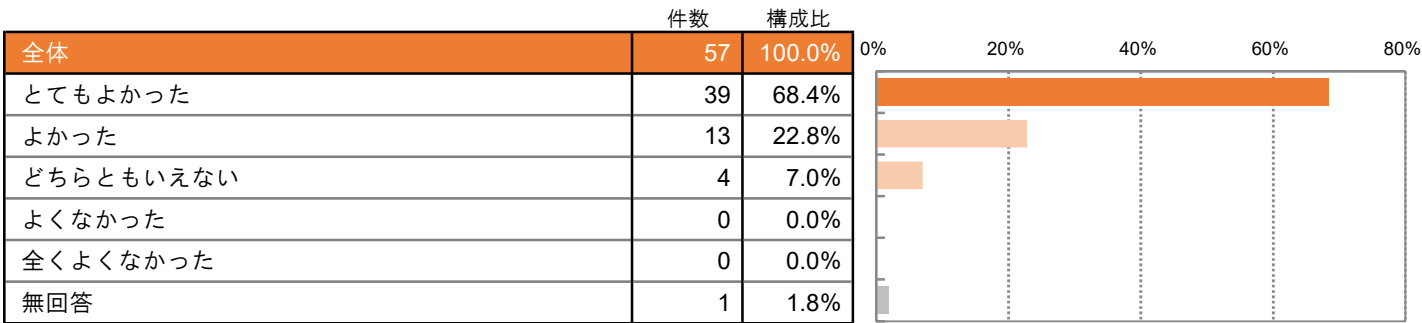
「対面のミーティング」55件(96.5%)が最も多く、続いて「ＬＩＮＥ（グループライン含む）などのＳＮＳ」39件(68.4%)、「メール」12件(21.1%)の順となっている。

Q18. 日々の活動の開始・終了時に班としてミーティングを行いましたか



「開始・終了時とも実施した」34件(59.6%)が最も多く、続いて「終了時のみ実施した」7件(12.3%)、「実施しなかった」4件(7.0%)の順となっている。

Q19. 班のチームワークはいかがでしたか



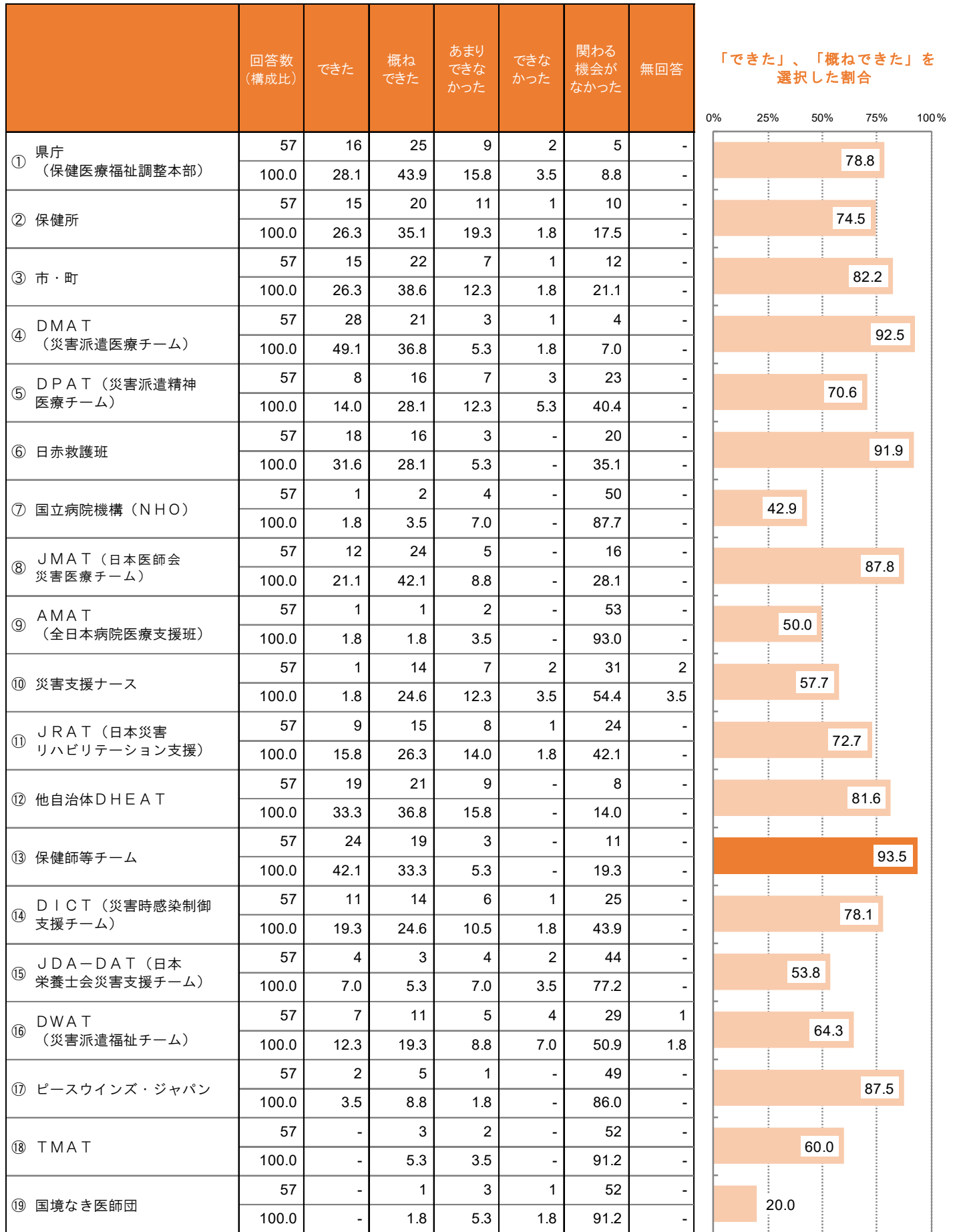
「とてもよかった」39件(68.4%)が最も多く、続いて「よかった」13件(22.8%)、「どちらともいえない」4件(7.0%)の順となっている。

Q21. 支援対象組織や支援チームとの情報共有状況



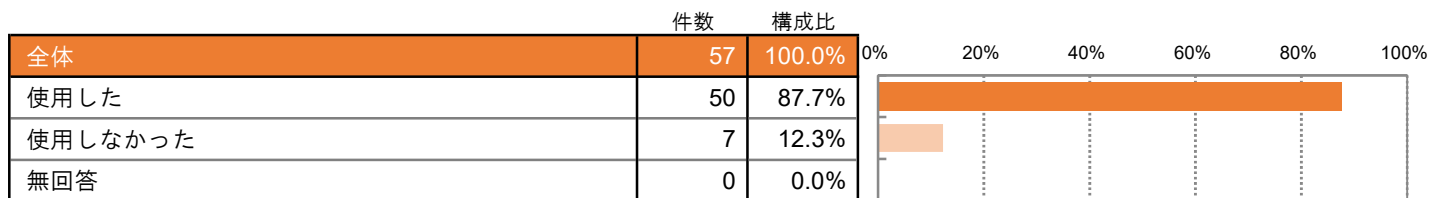
支援対象組織や支援チームとの情報共有状況を「できた」、「概ねできた」を選択した割合でみると、「⑬保健師等チーム」43件(95.6%)と最も高く、続いて「④D M A T (災害派遣医療チーム)」49件(92.5%)、「⑫他自治体D H E A T」43件(89.6%)の順となっている。

Q22. 支援対象組織や支援チームとの間での状況認識や活動方針の共有状況



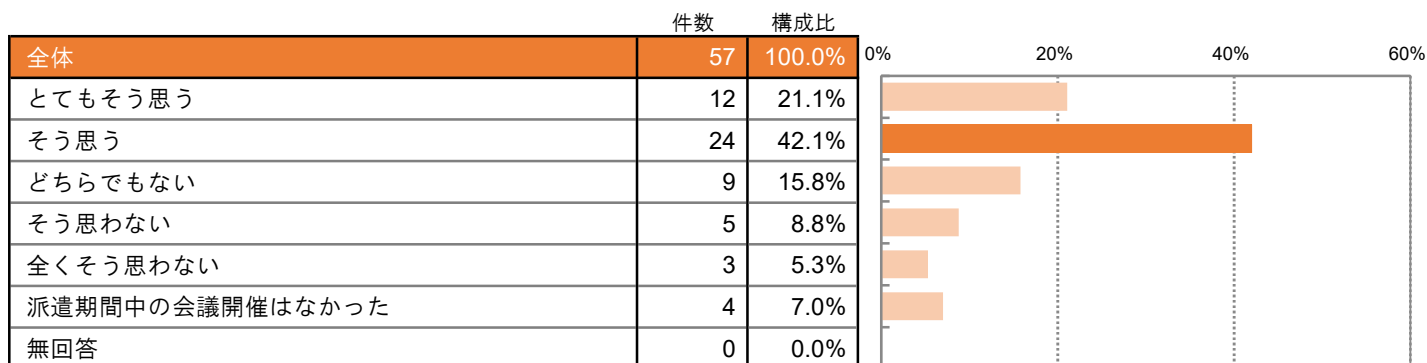
支援対象組織や支援チームとの間での状況認識や活動方針の共有状況を「できた」、「概ねできた」を選択した割合でみると、「⑬保健師等チーム」43件(93.5%)と最も高く、続いて「④D M A T (災害派遣医療チーム)」49件(92.5%)、「⑥日赤救護班」34件(91.9%)の順となっている。

Q23. 他の支援チームと資料など情報共有するためにファイル共有システムを使用しましたか



「使用した」50件(87.7%)が最も多く、続いて「使用しなかった」7件(12.3%)の順となっている。

Q24. DHEAT連絡会議は有効に機能していましたか



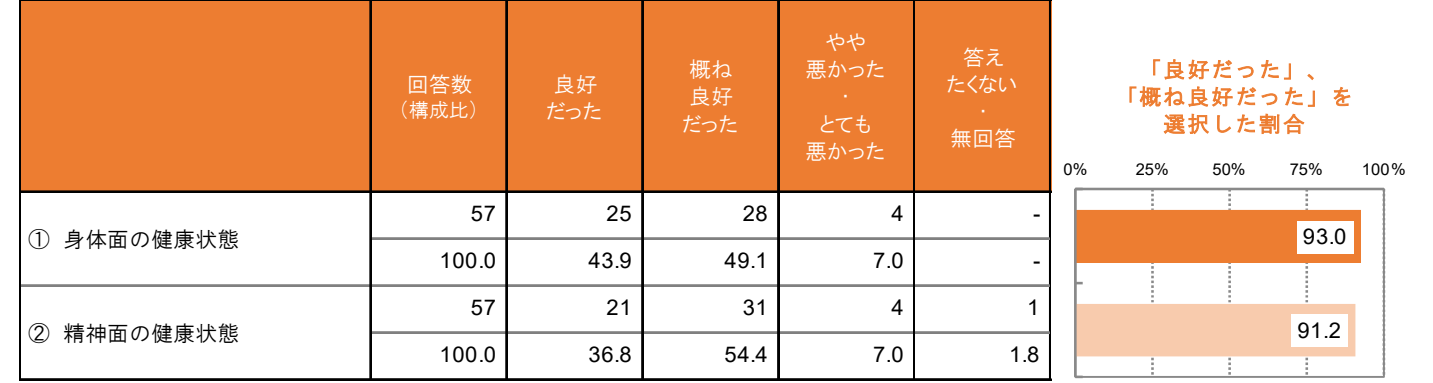
「そう思う」24件(42.1%)が最も多く、続いて「とてもそう思う」12件(21.1%)、「どちらでもない」9件(15.8%)の順となっている。

Q25. 班のリーダーとしての安全・健康に関する管理の実施状況



班のリーダーとしての安全・健康に関する管理の実施状況を「できた」、「概ねできた」を選択した割合でみると、「③活動装備の確保」が57件(100.0%)と全ての班で確保ができているとの回答を得ている。また他の項目についても実施できたとの意見を8割以上得ており、安全・健康に関する管理が概ね実施できていたことがわかった。

Q26. 活動期間中の身体面および精神面の健康状態



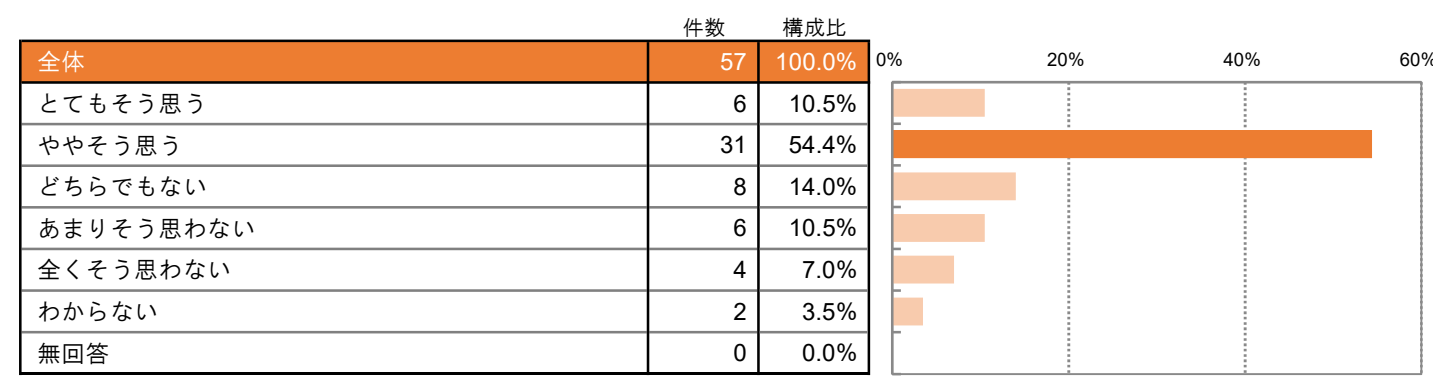
活動期間中の身体面および精神面の健康状態を「良好だった」、「概ね良好だった」を選択した割合でみると、「①身体面の健康状態」53件(93.0%)、「②精神面の健康状態」52件(91.2%)と共に高い回答を得ている。

Q27. 活動期間中のけが、または心身の不調が生じた構成員の有無



活動期間中のけが、または心身の不調が生じた構成員の有無を「いた」を選択した割合でみると、「①けがをした構成員」0件(0.0%)となっているが、「②けが以外の心身の不調が生じた構成員」6件(10.5%)と回答を得ており、けがはないが心身に不調を感じた構成員が1割ほどいたことがわかる。

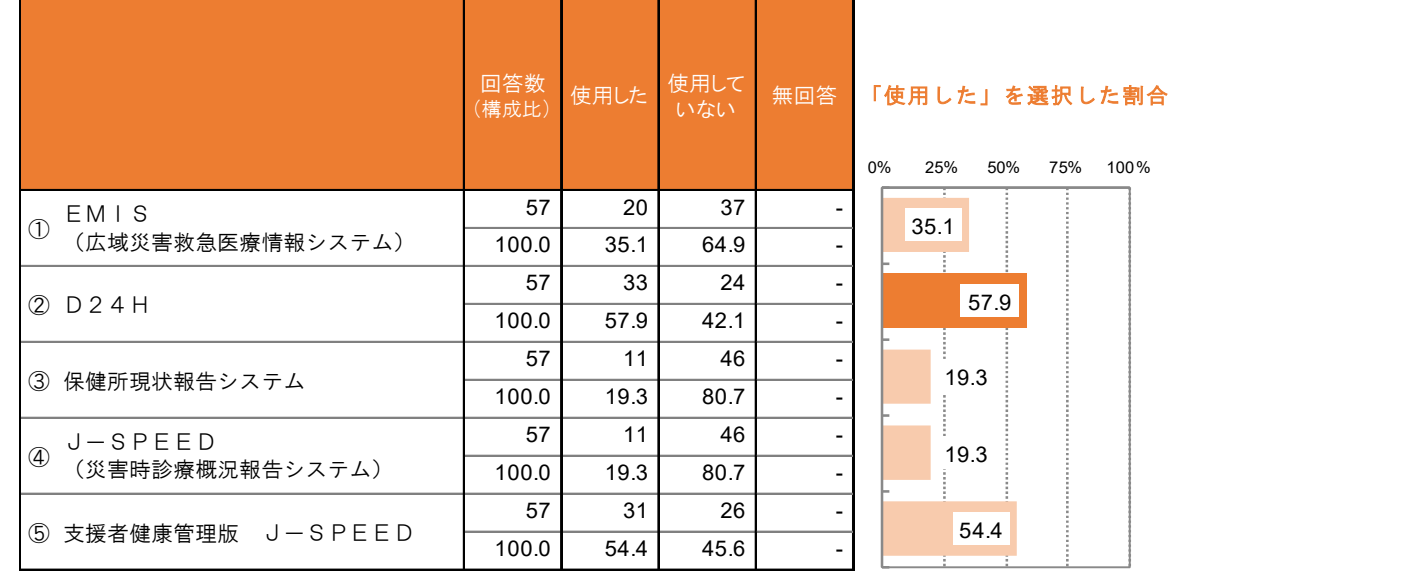
Q28. 活動期間中に心身の健康状態等を相談できる体制は整っていましたか



「ややそう思う」31件(54.4%)が最も多く、続いて「どちらでもない」8件(14.0%)、「とてもそう思う」と「あまりそう思わない」が同数の6件(10.5%)の順となっている。

Q30. 情報システムの使用状況および使用感等

①使用状況



情報システムの使用状況を「使用した」を選択した割合でみると、「②D 2 4 H」33件(57.9%)と最も高く、続いて「⑤支援者健康管理版 J－S P E E D」31件(54.4%)の順となっている。

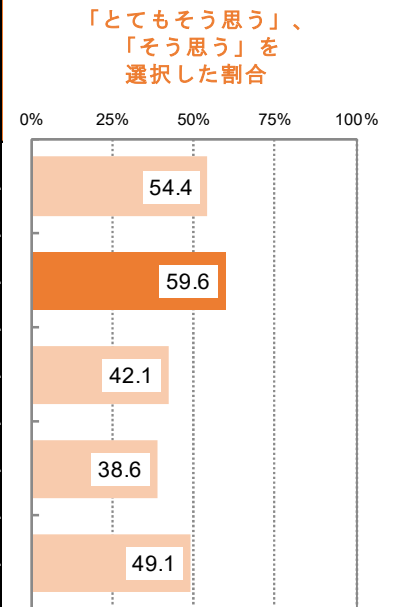
②使用感



情報システムの使用感を「使いこなせた」、「概ね使いこなせた」を選択した割合でみると、「③保健所現状報告システム」と「④J－S P E E D（災害時診療概況報告システム）」が同率で9件(81.8%)となっており、続いて「⑤支援者健康管理版 J－S P E E D」24件(77.4%)の順となっている。

Q31. DHEAT活動においての情報システムの有用性

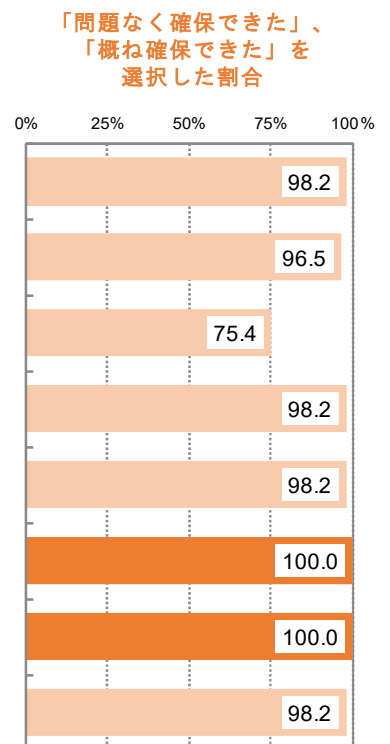
	回答数 (構成比)	とても そう思う	そう思う	どちら でもない	そう 思わない	全くそう 思わない	わから ない	無回答
① E M I S (広域 災害救急医療情報 システム)	57 100.0	12 21.1	19 33.3	6 10.5	- -	- -	19 33.3	1 1.8
② D 2 4 H	57 100.0	14 24.6	20 35.1	6 10.5	3 5.3	- -	14 24.6	- -
③ 保健所現状報告 システム	57 100.0	6 10.5	18 31.6	6 10.5	2 3.5	- -	25 43.9	- -
④ J-SPEED (災害時診療概況 報告システム)	57 100.0	11 19.3	11 19.3	10 17.5	- -	- -	25 43.9	- -
⑤ 支援者健康管理版 J-SPEED	57 100.0	11 19.3	17 29.8	9 15.8	5 8.8	- -	15 26.3	- -



DHEAT活動においての情報システムの有用性を「とてもそう思う」、「そう思う」を選択した割合でみると、「②D24H」34件(59.6%)と最も高く、続いて「①E M I S (広域災害救急医療情報システム)」31件(54.4%)、「⑤支援者健康管理版 J-SPEED」28件(49.1%)の順となっている。

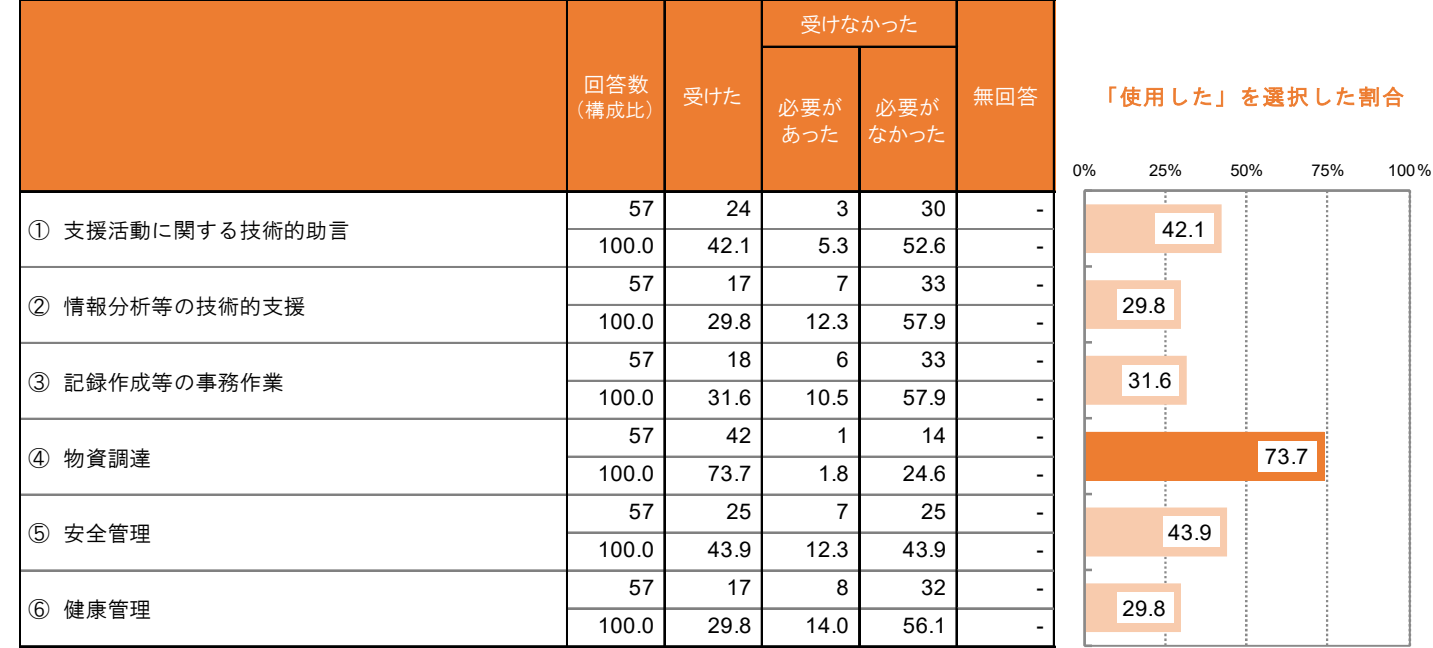
Q32. 活動に必要な事項についての確保状況

	回答数 (構成比)	問題なく 確保 できた	概ね 確保 できた	確保が 困難で あった	確保が 極めて 困難で あった	無回答
① 石川県までの移動手段	57 100.0	45 78.9	11 19.3	- -	1 1.8	- -
② 石川県内での移動手段	57 100.0	37 64.9	18 31.6	2 3.5	- -	- -
③ 宿泊先	57 100.0	36 63.2	7 12.3	10 17.5	4 7.0	- -
④ 活動期間中の通信手段	57 100.0	34 59.6	22 38.6	1 1.8	- -	- -
⑤ 活動期間中の資機材 (PC・事務用品等)	57 100.0	25 43.9	31 54.4	1 1.8	- -	- -
⑥ 活動期間中の電源	57 100.0	44 77.2	13 22.8	- -	- -	- -
⑦ 服装等の装備	57 100.0	41 71.9	16 28.1	- -	- -	- -
⑧ 活動期間中の食事	57 100.0	31 54.4	25 43.9	1 1.8	- -	- -



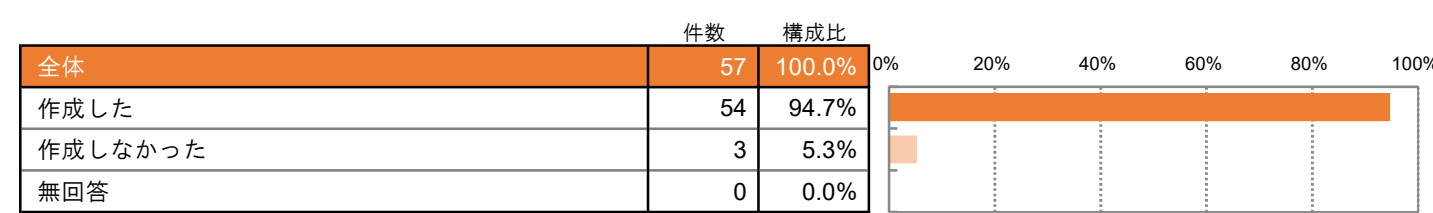
活動に必要な事項についての確保状況を「問題なく確保できた」、「概ね確保できた」を選択した割合でみると、「⑥活動期間中の電源」と「⑦服装等の装備」が同率の57件(100.0%)と全ての班で確保ができているとの回答を得た。また他の項目についても確保できたとの意見を7割以上得ており、活動に必要な事項については概ね確保されていたことがわかった。

Q33. 活動期間中に派遣元自治体から受けた支援内容



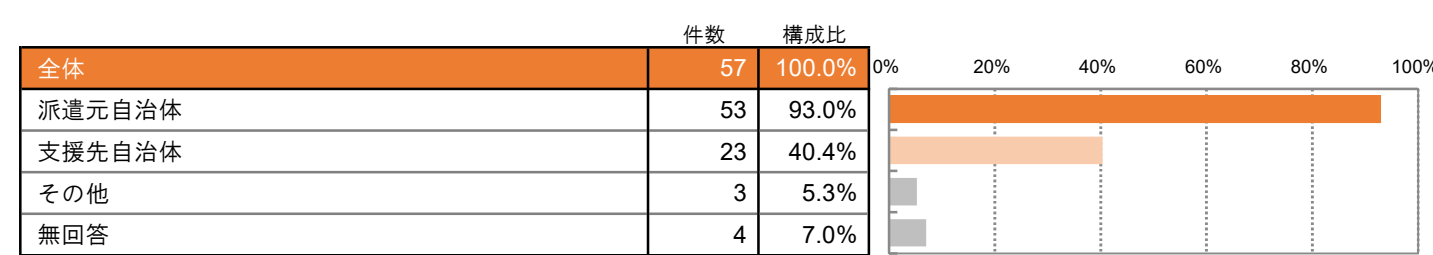
活動期間中に派遣元自治体から受けた支援内容を「受けた」を選択した割合でみると、「④物資調達」42件(73.7%)と最も高く、続いて「⑤安全管理」25件(43.9%)、「①支援活動に関する技術的助言」24件(42.1%)の順となっている。

Q36. DHEAT活動日報を作成しましたか



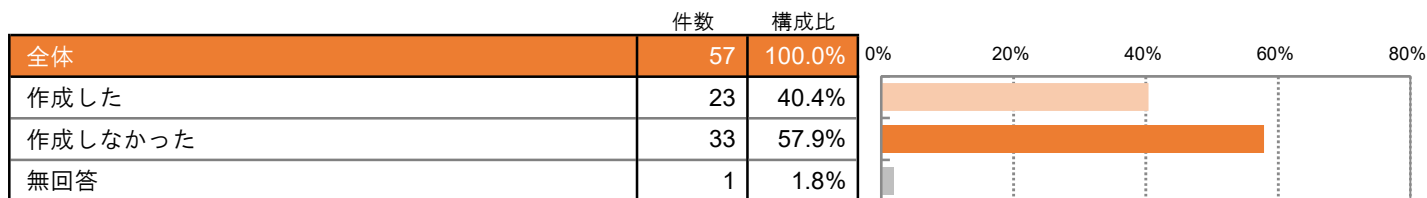
「作成した」54件(94.7%)が最も多く、続いて「作成しなかった」3件(5.3%)の順となっている。

Q37. DHEAT活動日報の報告先〔複数回答〕



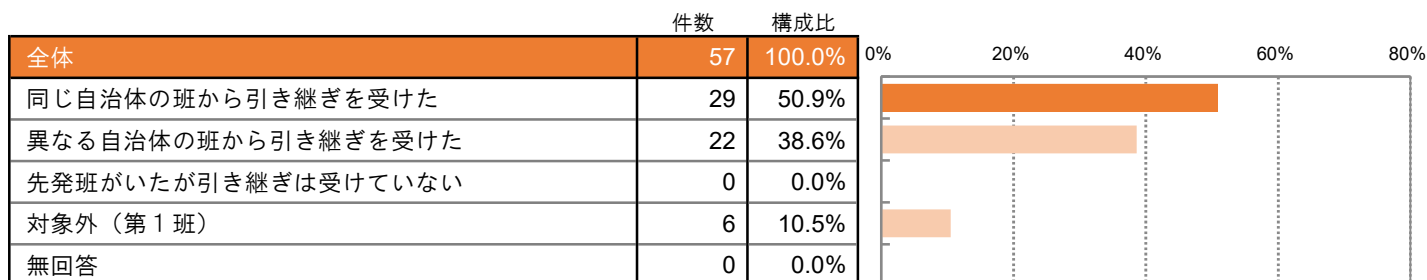
「派遣元自治体」53件(93.0%)が最も多く、続いて「支援先自治体」23件(40.4%)の順となっている。

Q39. DHEAT活動日報以外の活動記録(情報分析、課題、方針などを記録したもの)を作成しましたか



「作成しなかった」33件(57.9%)が最も多く、続いて「作成した」23件(40.4%)の順となっている。

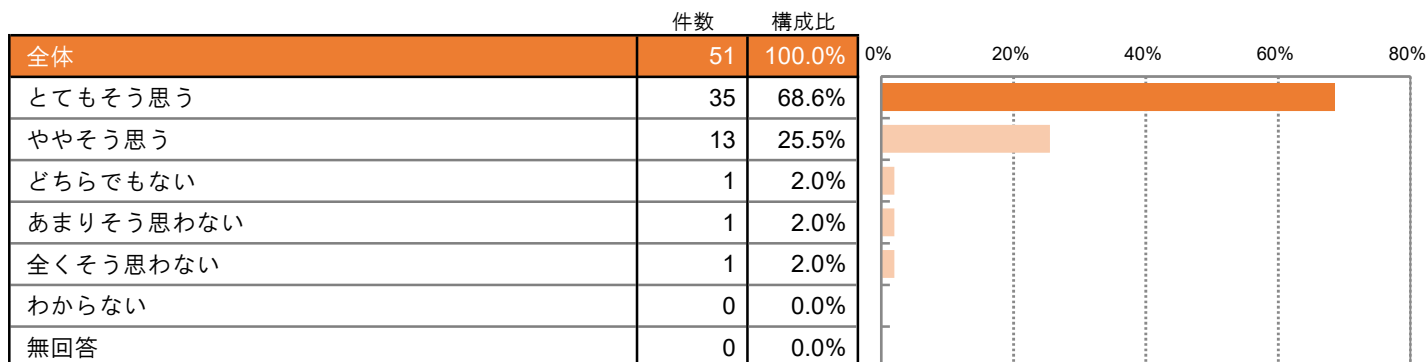
Q41. 今回の活動開始にあたり先発の班等から引き継ぎを受けましたか



「同じ自治体の班から引き継ぎを受けた」29件(50.9%)が最も多く、続いて「異なる自治体の班から引き継ぎを受けた」22件(38.6%)、「対象外(第1班)」6件(10.5%)の順となっている。

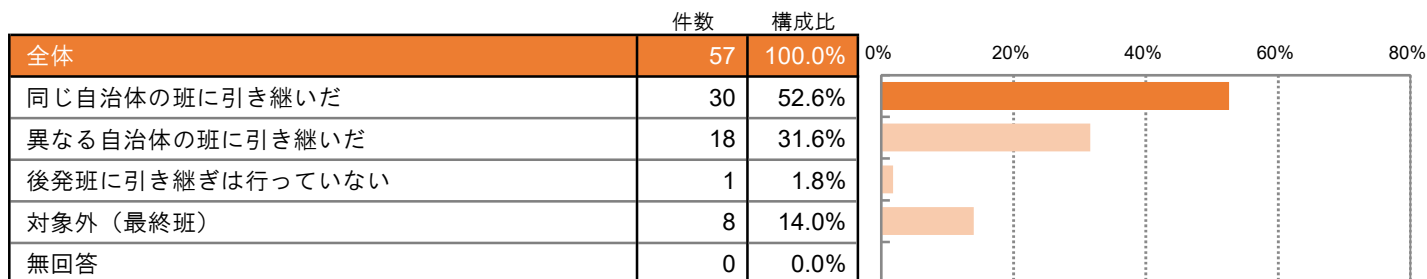
Q42. 引き継ぎ内容は有用でしたか

【集計条件】Q41. 今回の活動開始にあたり先発の班等から引き継ぎを受けましたか?…引き継ぎを受けた



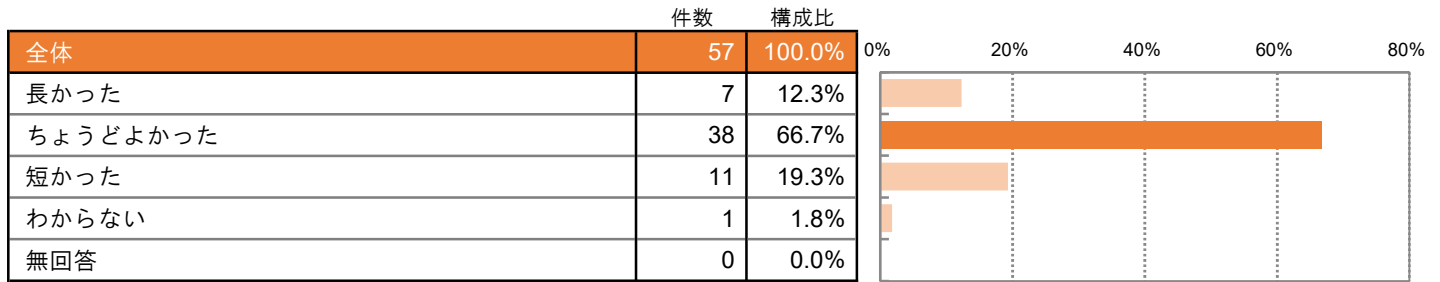
「とてもそう思う」35件(68.6%)が最も多く、続いて「ややそう思う」13件(25.5%)、「どちらでもない」1件(2.0%)、「あまりそう思わない」1件(2.0%)、「全くそう思わない」1件(2.0%)の順となっている。

Q43. 今回の活動終了にあたり後発の班等に引き継ぎを行いましたか



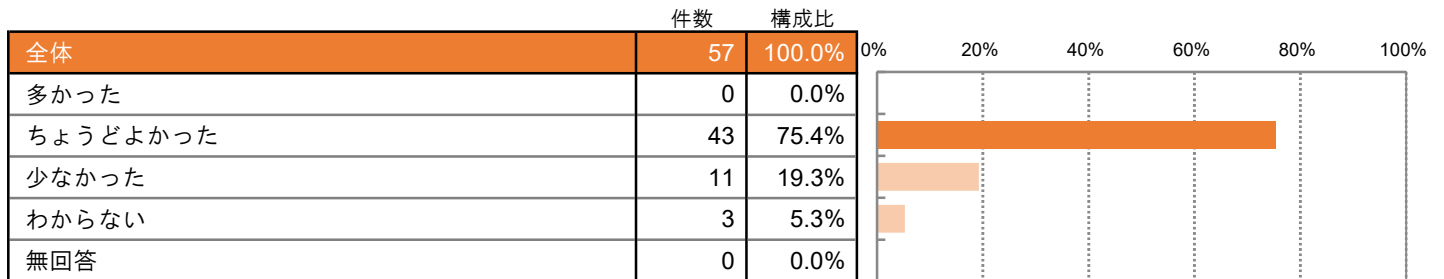
「同じ自治体の班に引き継いだ」30件(52.6%)が最も多く、続いて「異なる自治体の班に引き継いだ」18件(31.6%)、「対象外(最終班)」8件(14.0%)の順となっている。

Q44. 活動期間は適切でしたか



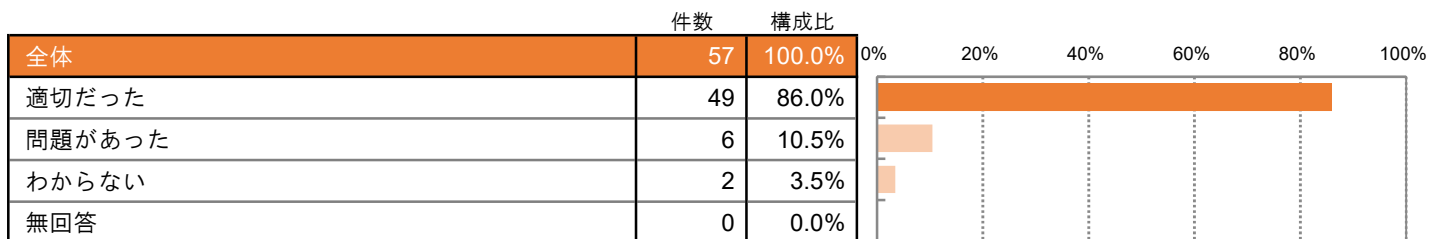
「ちょうどよかった」38件(66.7%)が最も多く、続いて「短かった」11件(19.3%)、「長かった」7件(12.3%)の順となっている。

Q45. 班の構成員の人数は適切でしたか



「ちょうどよかった」43件(75.4%)が最も多く、続いて「少なかった」11件(19.3%)、「わからない」3件(5.3%)の順となっている。

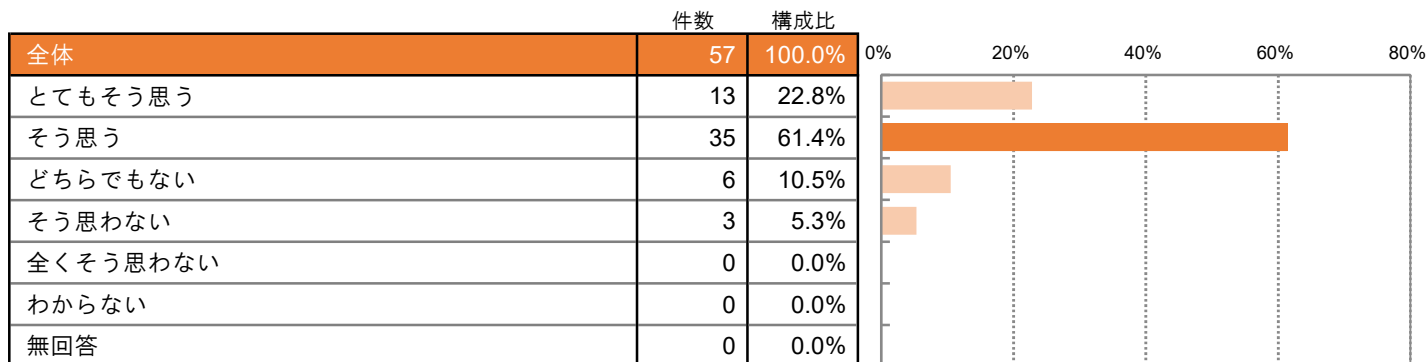
Q46. 班の構成員の職種等の構成は適切でしたか



「適切だった」49件(86.0%)が最も多く、続いて「問題があった」6件(10.5%)、「わからない」2件(3.5%)の順となっている。

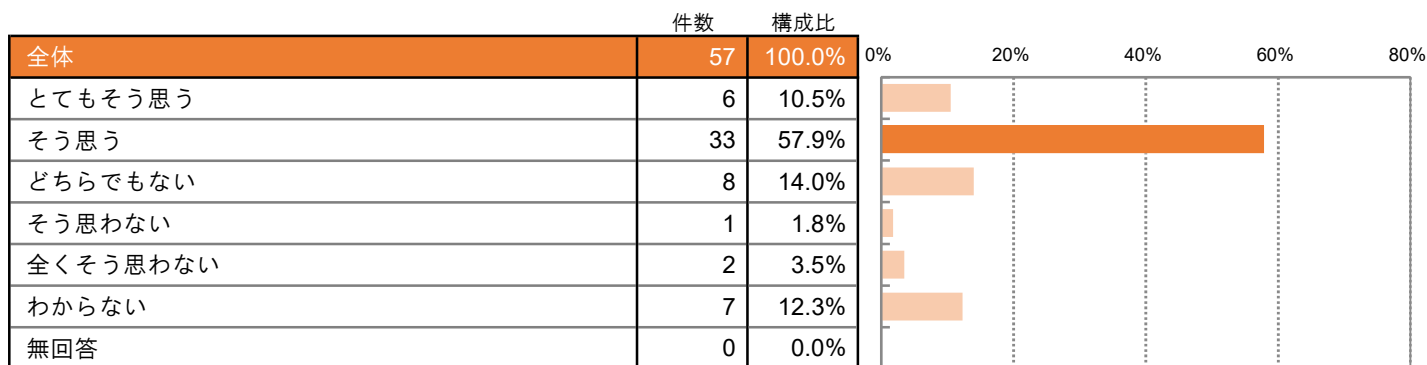
Q47. 班として活動目標を達成できましたか

(活動目標が設定されていない場合:被災地の保健医療福祉活動に貢献できましたか)



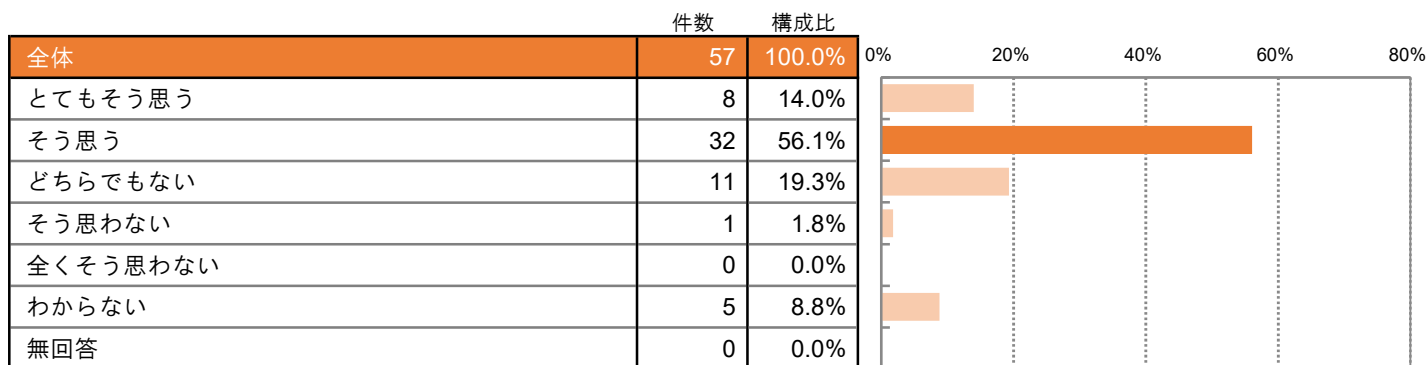
「そう思う」35件(61.4%)が最も多く、続いて「とても思う」13件(22.8%)、「どちらでもない」6件(10.5%)の順となっている。

Q48. 班としての支援活動は、防ぎえた死と二次健康被害の最小化に貢献したと思いますか



「そう思う」33件(57.9%)が最も多く、続いて「どちらでもない」8件(14.0%)、「わからない」7件(12.3%)の順となっている。

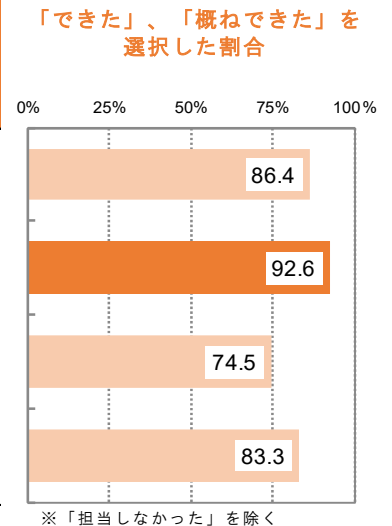
Q49. 班としての支援活動は、被災地の保健医療福祉の復旧に貢献したと思いますか



「そう思う」32件(56.1%)が最も多く、続いて「どちらでもない」11件(19.3%)、「とても思う」8件(14.0%)の順となっている。

Q50. 班としての業務遂行状況

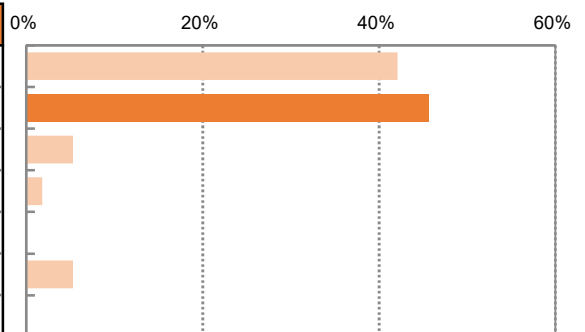
	回答数 (構成比)	できた	概ね できた	あまり できなかった	できなかった	担当しな かった	無回答
① 支援対象組織における 指揮調整体制の構築	57	16	22	4	2	13	-
	100.0	28.1	38.6	7.0	3.5	22.8	-
② 情報収集・分析	57	12	38	3	1	3	-
	100.0	21.1	66.7	5.3	1.8	5.3	-
③ 対策の企画立案	57	14	27	12	2	2	-
	100.0	24.6	47.4	21.1	3.5	3.5	-
④ 支援チームの派遣調整	57	13	22	6	1	15	-
	100.0	22.8	38.6	10.5	1.8	26.3	-



班としての業務遂行状況を「できた」、「概ねできた」を選択した割合でみると、「②情報収集・分析」50件(92.6%)と最も高く、続いて「③対策の企画立案」38件(86.4%)の順となっている。

Q51. 今回のDHEATの派遣は、あなた自身の健康危機管理に関する能力の向上に寄与しましたか

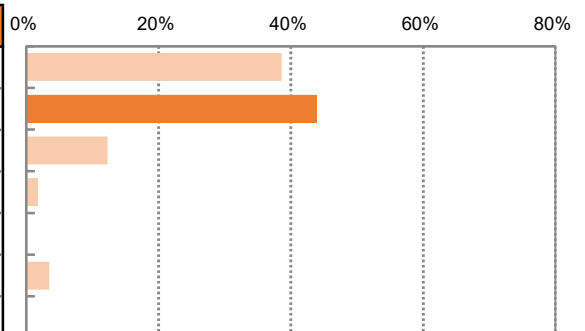
	件数	構成比
全体	57	100.0%
とてもそう思う	24	42.1%
そう思う	26	45.6%
どちらでもない	3	5.3%
そう思わない	1	1.8%
全くそう思わない	0	0.0%
わからない	3	5.3%
無回答	0	0.0%



「そう思う」26件(45.6%)が最も多く、続いて「とてもそう思う」24件(42.1%)、「どちらでもない」と「わからない」が同数の3件(5.3%)の順となっている。

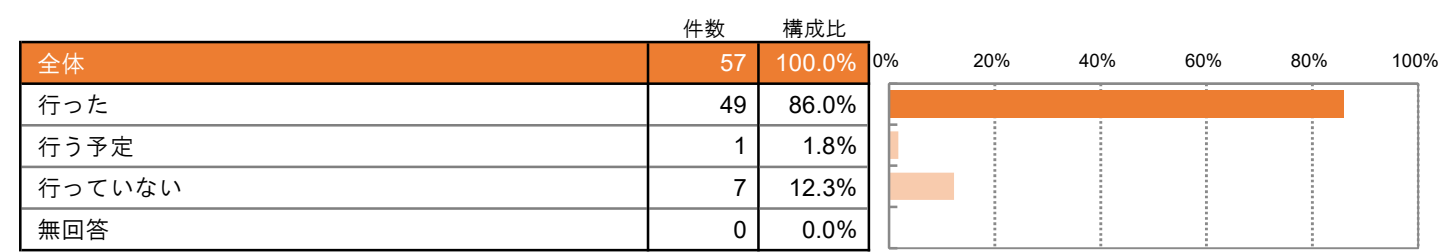
Q52. 今回のDHEATの派遣は、あなたの自治体の健康危機管理体制の強化に寄与しましたか

	件数	構成比
全体	57	100.0%
とてもそう思う	22	38.6%
そう思う	25	43.9%
どちらでもない	7	12.3%
そう思わない	1	1.8%
全くそう思わない	0	0.0%
わからない	2	3.5%
無回答	0	0.0%



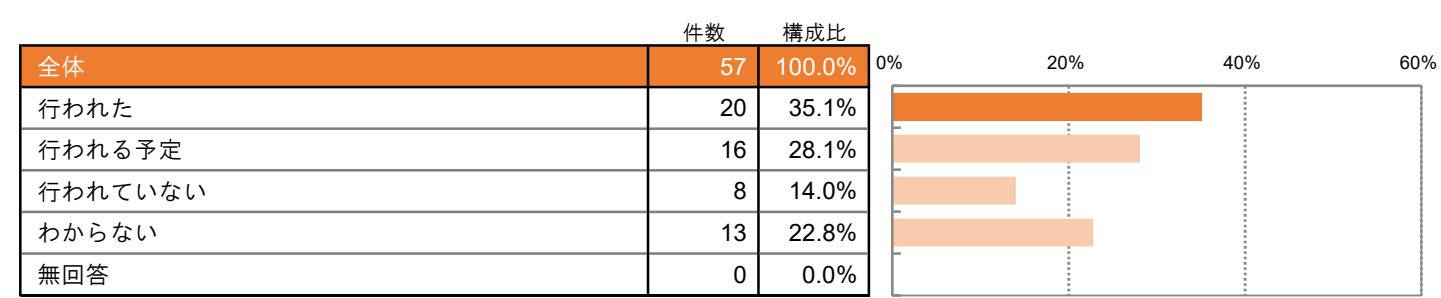
「そう思う」25件(43.9%)が最も多く、続いて「とてもそう思う」22件(38.6%)、「どちらでもない」7件(12.3%)の順となっている。

Q53. 班として活動の振り返りを行いましたか



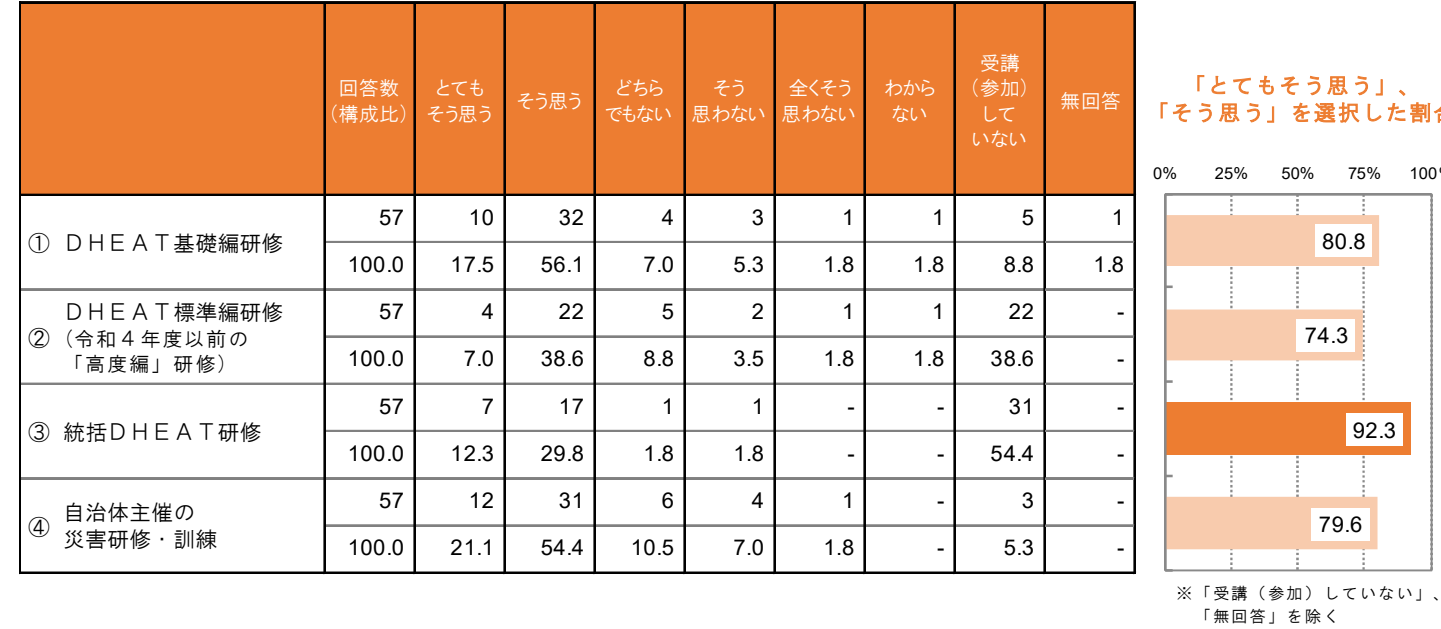
「行った」49件(86.0%)が最も多く、続いて「行っていない」7件(12.3%)、「行う予定」1件(1.8%)の順となっている。

Q54. 今回の活動を通じてあなたの自治体のDHEAT活動の見直しが行われましたか



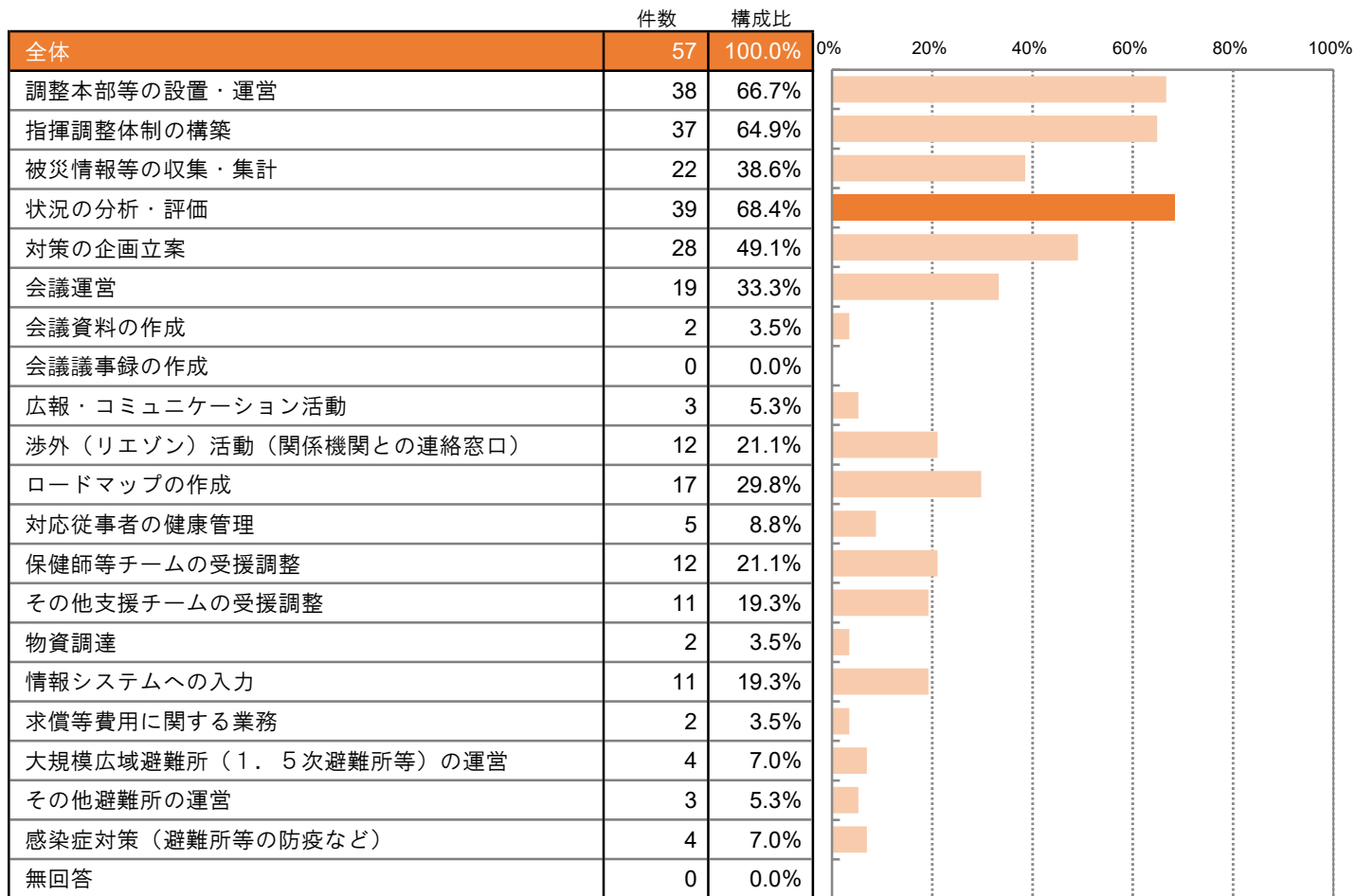
「行われた」20件(35.1%)が最も多く、続いて「行われる予定」16件(28.1%)、「わからない」13件(22.8%)の順となっている。

Q56. 今回のDHEATの派遣をふりかえった時の研修等の有用性



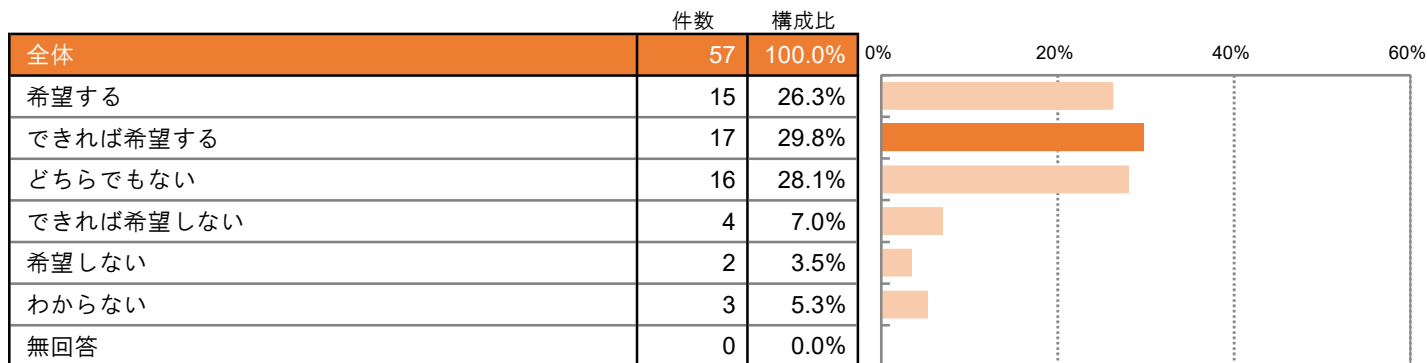
今回のD H E A Tの派遣をふりかえった時の研修等の有用性を「とてもそう思う」、「そう思う」を選択した割合でみると、「③統括D H E A T 研修」24件(92.3%)と最も高く、続いて「①D H E A T 基礎編研修」42件(80.8%)の順となっている。

Q57. 今回の活動を踏まえて、今後DHEATの研修・訓練で特に重視すべき項目〔5つまで選択〕



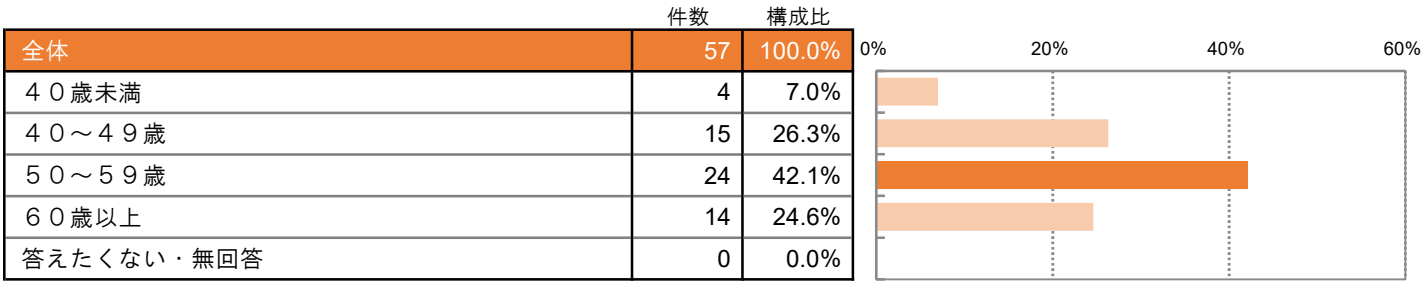
「状況の分析・評価」39件(68.4%)が最も多く、続いて「調整本部等の設置・運営」38件(66.7%)、「指揮調整体制の構築」37件(64.9%)の順となっている。

Q59. 今後DHEATの派遣要請があった場合に、派遣されることを希望しますか



「できれば希望する」17件(29.8%)が最も多く、続いて「どちらでもない」16件(28.1%)、「希望する」15件(26.3%)の順となっている。

派遣時点のあなたの状況について
Q61. 年齢層(今回の派遣の出発日時点)



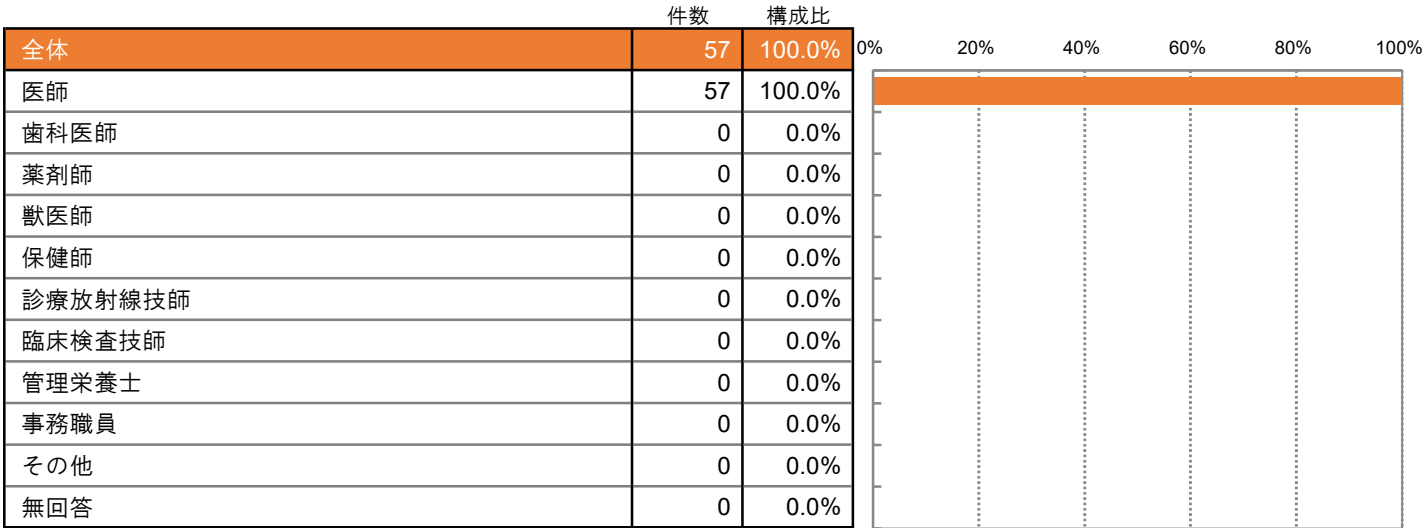
「50～59歳」24件(42.1%)が最も多く、続いて「40～49歳」15件(26.3%)、「60歳以上」14件(24.6%)の順となっている。

Q62. 性別



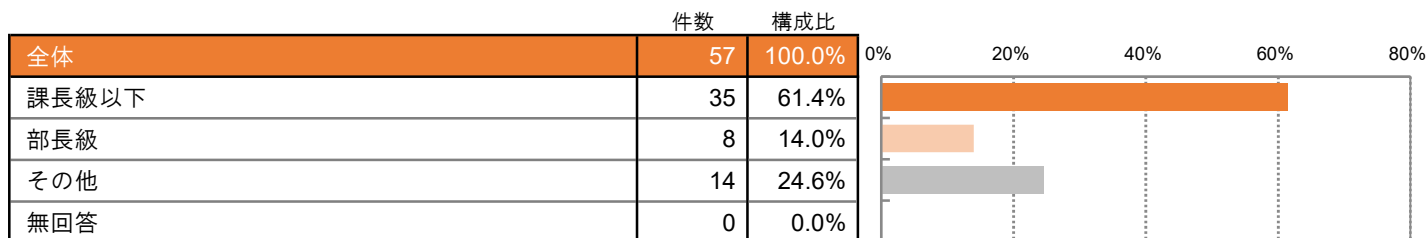
「男性」39件(68.4%)が最も多く、続いて「女性」18件(31.6%)の順となっている。

Q63. 職種



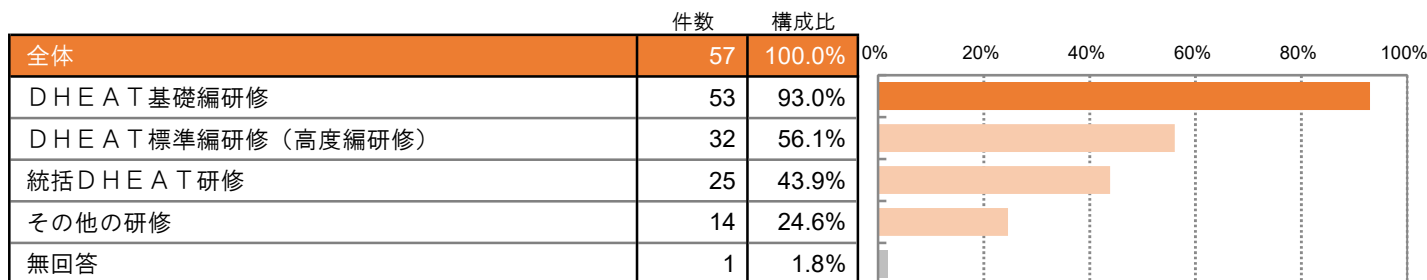
(57件)の全ての回答が「医師」となっている。

Q64. 職位



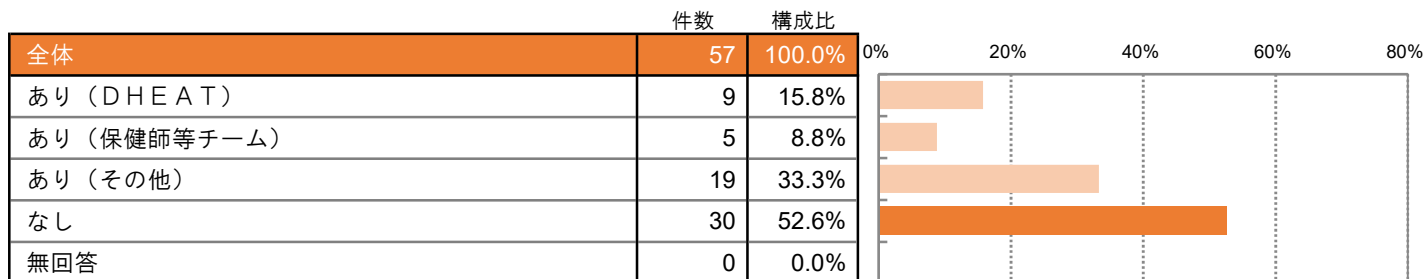
「課長級」35件(61.4%)が最も多く、続いて「部長級」8件(14.0%)の順となっている。

Q65. 研修受講歴〔複数回答〕



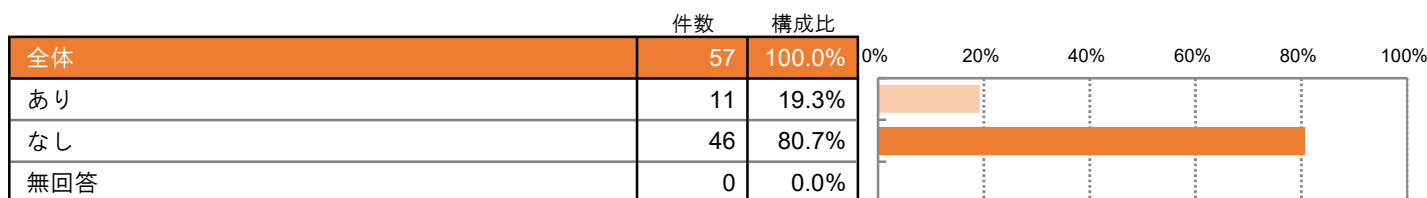
「D H E A T 基礎編研修」53件(93.0%)が最も多く、続いて「D H E A T 標準編研修（高度編研修）」32件(56.1%)、「統括D H E A T 研修」25件(43.9%)の順となっている。

Q66. 災害支援経験(令和6年能登半島地震より前の支援経験)〔複数回答〕



「なし」30件(52.6%)が最も多く、続いて「あり（その他）」19件(33.3%)、「あり（D H E A T）」9件(15.8%)の順となっている。

Q67. 災害受援経験



「なし」46件(80.7%)が最も多く、続いて「あり」11件(19.3%)の順となっている。

令和6年能登半島地震における 災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)活動の実態調査

集計結果報告書

DHEAT構成員

厚生労働科学研究補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業
「健康危機発生時における保健所設置自治体や保健所の組織体制並びに
人材育成等の強化、及びブロックごとのDHEAT体制強化のための研究」班

目次

Q1	回答自治体	1
Q2	能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要	1
	①DHEATとしての派遣回数	
	②派遣期間（移動日を含む）	
	③現地活動期間	
	④派遣先（主な活動場所）	
	⑤宿泊先の自治体名	
	⑤宿泊先の施設種別	
	⑥支援先での実質活動時間・移動時間・宿泊先等での活動時間	
Q3	あなたが派遣された経緯	4
Q4	今回の派遣についてのあなたの意思	5
Q5	派遣決定から出発までの日数	5
Q6	派遣決定から出発までの日数は派遣の準備をする上で十分でしたか	5
Q7	派遣にあたって職場は協力的でしたか	6
Q8	派遣にあたって同居のご家族は協力的でしたか	6
Q9	班の構成員は派遣前から互いに面識がありましたか	6
Q10	派遣前に班のミーティング（簡単な顔合わせなども含む）を行いましたか	7
Q11	DHEATの活動目的について	7
Q12	支援対象組織（県・市町・保健所・1.5次避難所等）の 保健医療福祉活動に関する指揮命令系統はわかりやすかったですか	7
Q13	DHEATとしてどのような形態で活動しましたか	8
Q14	DHEATとしてのあなたの活動内容を明確に決まっていたか	8
Q15	班の他の構成員の活動内容を把握できていましたか	8
Q16	あなたの班で従事した支援活動	9
Q17	班のチームワークはいかがでしたか	10
Q18	支援対象組織や支援チームとの情報共有状況	11
Q19	活動期間中の安全・健康に関する実施状況	12
Q20	活動期間中の身体面および精神面の健康状態	12
Q21	活動期間中に心身の健康状態等を相談できる体制は整っていましたか	12
Q22	情報システムの使用状況および使用感等	13
	①使用状況	
	②使用感	
Q23	DHEAT活動日報を作成しましたか	13

目次

Q24	D H E A T 活動日報の報告先	14
Q26	活動期間は適切でしたか	14
Q27	班の構成員の人数は適切でしたか	14
Q28	班の構成員の職種等の構成は適切でしたか	14
Q29	班として活動目標を達成できましたか (活動目標が設定されていない場合：被災地の保健医療福祉活動に貢献できましたか)	15
Q30	あなた自身はD H E A T 構成員として支援活動に貢献できましたか	15
Q31	あなた自身の業務遂行状況	15
Q32	今回のD H E A T の派遣は、あなた自身の健康危機管理に関する能力の向上に寄与しましたか	16
Q33	今回のD H E A T の派遣は、あなたの自治体の健康危機管理体制の強化に寄与しましたか	16
Q35	今回のD H E A T の派遣をふりかえった時の研修等の有用性	16
Q37	今後D H E A T の派遣要請があった場合に、派遣されることを希望しますか	17
Q39	年齢層（今回の派遣の出発日時点）	17
Q40	性別	17
Q41	職種	18
Q42	職位	18
Q43	研修受講歴	18
Q44	災害支援経験（令和6年能登半島地震より前の支援経験）	19
Q45	災害受援経験	19

Q1. 回答自治体

回答件数	160 件	(参考) DHEAT派遣班数：104班(県内DHEATを除く)
自治体数	33 自治体(89.2%)	(参考) DHEAT派遣自治体数：37自治体
	その他・無回答：10件	

Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

①DHEATとしての派遣回数

	件数	構成比	
全体	160	100.0%	0% 20% 40% 60% 80% 100%
1 回	156	97.5%	
2 回	4	2.5%	
3 回以上	0	0.0%	
無回答	0	0.0%	
平均派遣回数		1.0回	

「1 回」156件(97.5%)が最も多く、続いて「2 回」4件(2.5%)の順となっている。また平均派遣回数は、(1.0回)となっている。

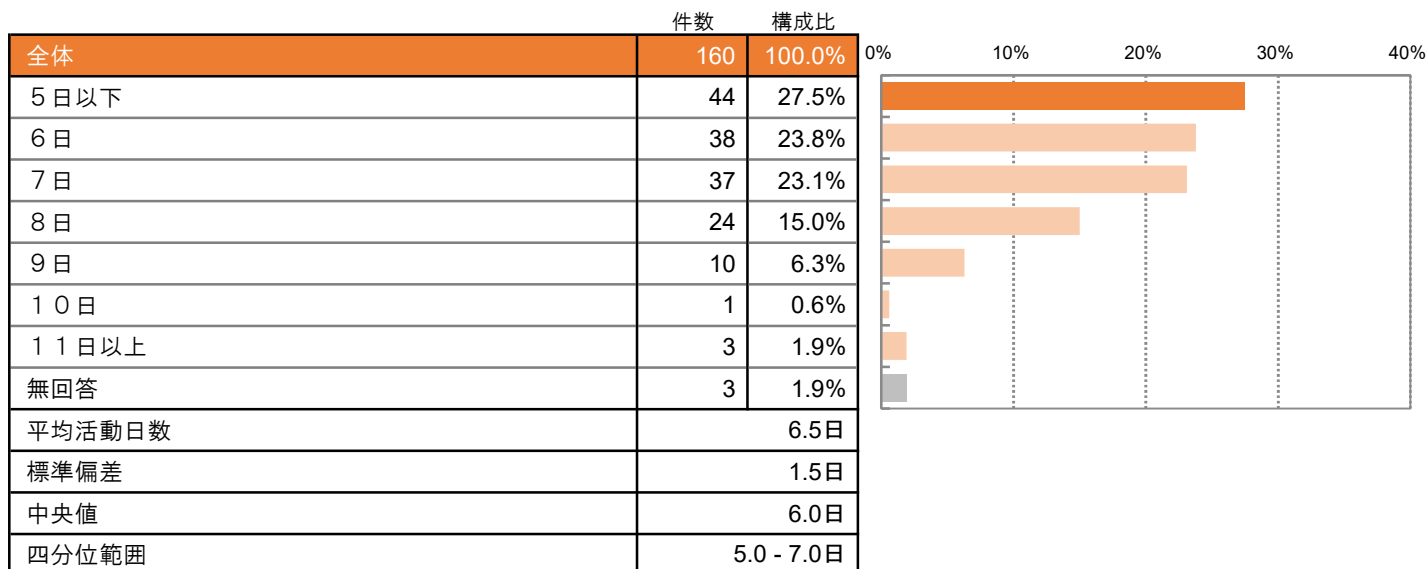
②派遣期間(移動日を含む)

	件数	構成比	
全体	160	100.0%	0% 10% 20% 30% 40%
5 日以下	20	12.5%	
6 日	20	12.5%	
7 日	28	17.5%	
8 日	36	22.5%	
9 日	33	20.6%	
10 日	14	8.8%	
11 日以上	9	5.6%	
無回答	0	0.0%	
平均派遣日数		7.8日	
標準偏差		1.9日	
中央値		8.0日	
四分位範囲		6.8 - 9.0日	

「8 日」36件(22.5%)が最も多く、続いて「9 日」33件(20.6%)、「7 日」28件(17.5%)の順となっている。また平均派遣日数は(7.8日)、標準偏差は(1.9日)となっている。

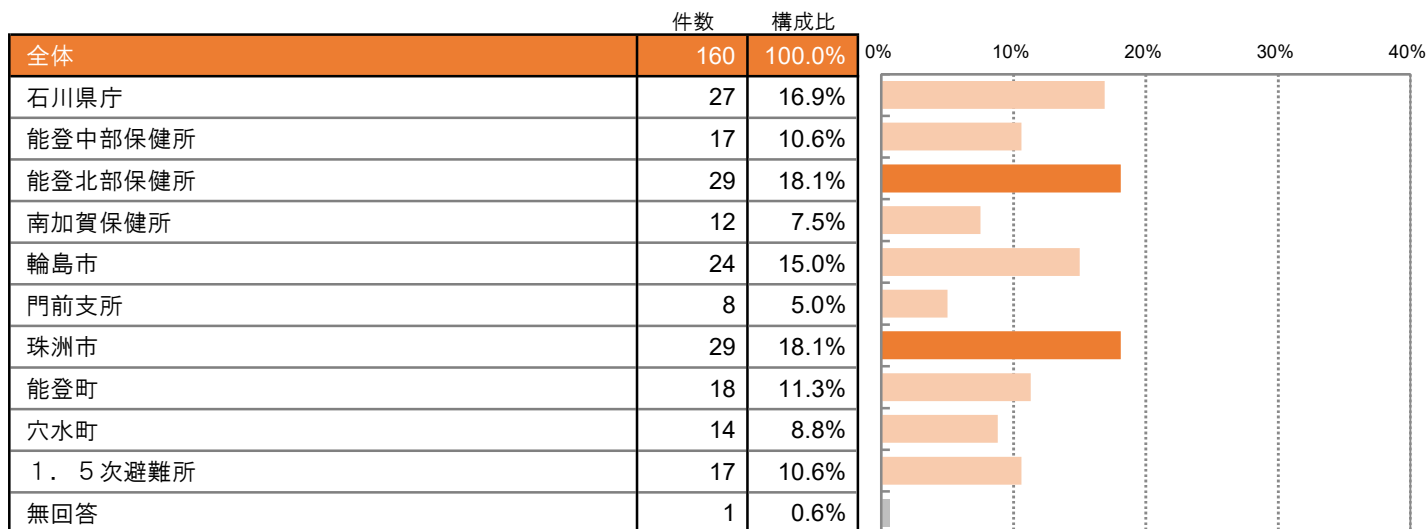
Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

③現地活動期間



「5 日以下」44件(27.5%)が最も多く、続いて「6 日」38件(23.8%)、「7 日」37件(23.1%)の順となっている。また平均活動日数は(6.5日)、標準偏差は(1.5日)となっている。

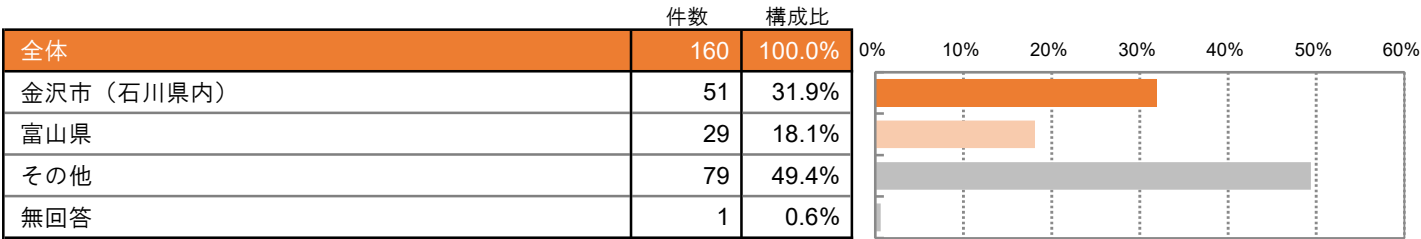
④派遣先(主な活動場所)[複数回答]



「能登北部保健所」と「珠洲市」が同数で29件(18.1%)と最も多く、続いて「石川県庁」27件(16.9%)の順となっている。

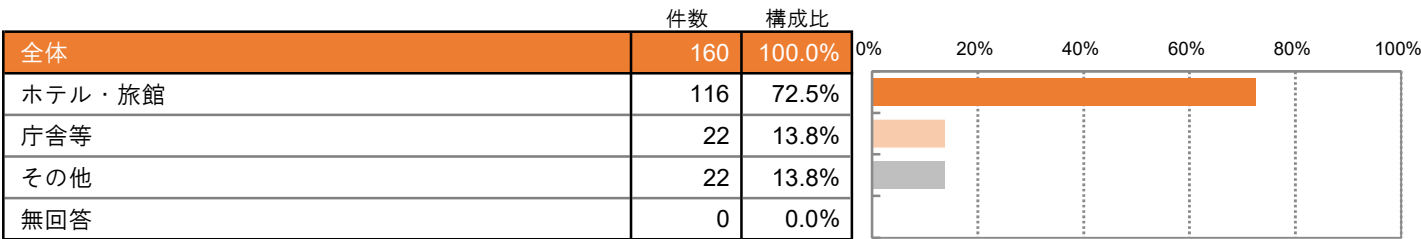
Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

⑤宿泊先の自治体名



「金沢市（石川県内）」51件(31.9%)が最も多く、続いて「富山県」29件(18.1%)の順となっている。

⑤宿泊先の施設種別



「ホテル・旅館」116件(72.5%)が最も多く、続いて「庁舎等」22件(13.8%)の順となっている。

Q2. 能登半島地震でのDHEATとしての派遣の概要

⑥支援先での実質活動時間・移動時間・宿泊先等での活動時間 〔平均時間(標準偏差)〕

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	各活動の 合計 平均時間
1 支援先での実質活動時間 (移動時間除く)	6.34 (4.17)	9.78 (2.79)	10.92 (2.25)	10.67 (2.51)	10.08 (2.77)	10.08 (8.40)	7.92 (3.76)	65.79
2 移動時間	4.76 (2.76)	2.74 (2.53)	1.70 (1.71)	1.82 (1.79)	2.29 (2.33)	2.62 (2.44)	3.24 (2.60)	19.17
3 宿泊先等での活動時間 (移動時間を除く)	0.69 (0.88)	0.72 (0.99)	0.77 (1.21)	0.94 (2.19)	0.75 (1.20)	0.85 (1.45)	0.73 (1.11)	5.45
合計平均時間	11.79	13.24	13.39	13.43	13.12	13.55	11.89	90.41

※有効回答を母数として集計表を作成

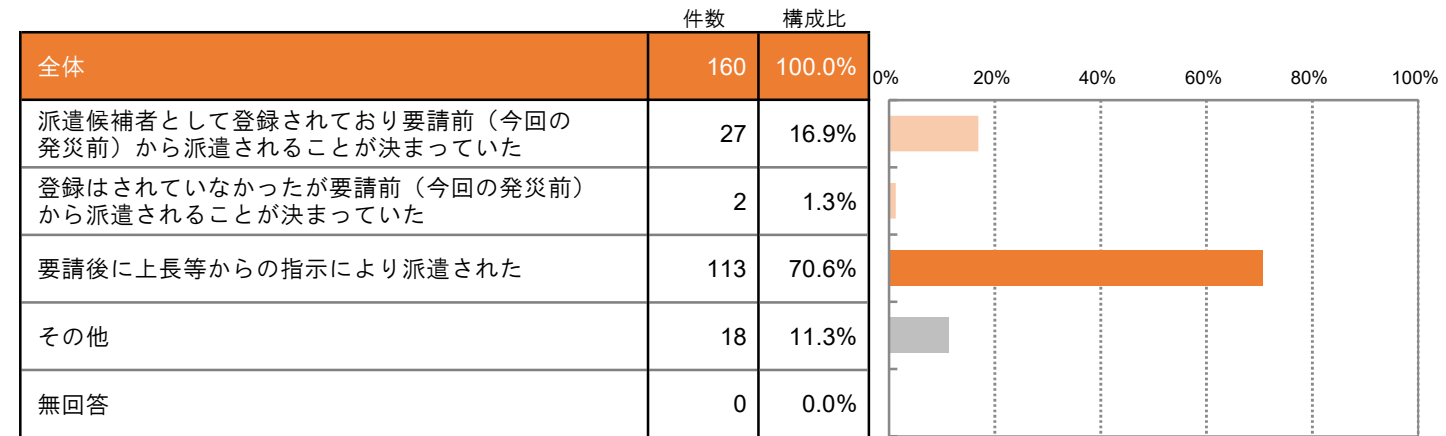
各活動の平均時間の合計をみると、「1 支援先での実質活動時間」(65.79時間)、「2 移動時間」(19.17時間)、「3 宿泊先等での活動時間」(5.45時間)となっており、一回の支援活動での合計時間は(90.41時間)となっている。

〔中央値(四分位範囲)〕

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
1 支援先での実質活動時間 (移動時間除く)	7.00 (3.00 - 9.88)	10.00 (8.00 - 12.00)	11.00 (9.50 - 12.00)	11.00 (9.00 - 12.00)	10.00 (8.00 - 12.00)	10.00 (7.00 - 12.00)	8.75 (5.00 - 11.00)
2 移動時間	4.50 (3.00 - 6.25)	2.00 (1.00 - 4.00)	1.00 (0.50 - 2.00)	1.00 (0.50 - 2.88)	1.00 (0.50 - 4.00)	2.00 (0.50 - 4.00)	3.00 (1.00 - 5.00)
3 宿泊先等での活動時間 (移動時間を除く)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.00 (0.00 - 1.00)	0.50 (0.00 - 1.00)	0.00 (0.00 - 1.00)	0.00 (0.00 - 1.00)	0.00 (0.00 - 1.00)

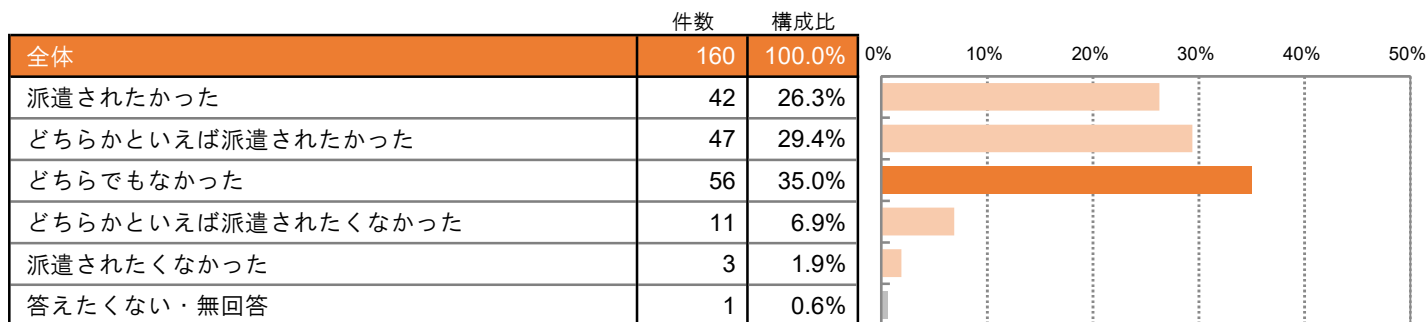
※有効回答を母数として集計表を作成

Q3. あなたが派遣された経緯



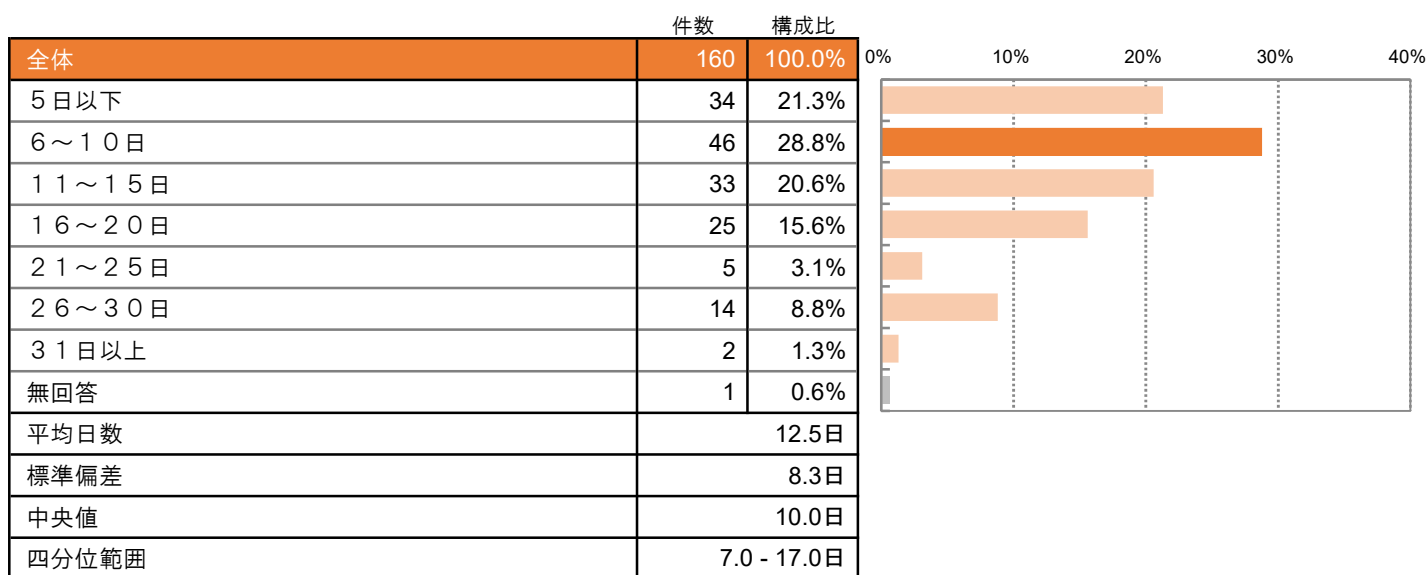
「要請後に上長等からの指示により派遣された」113件(70.6%)が最も多く、続いて「派遣候補者として登録されており要請前から決まっていた」27件(16.9%)、「登録はされていなかったが要請前から決まっていた」2件(1.3%)の順となっている。

Q4. 今回の派遣についてのあなたの意思



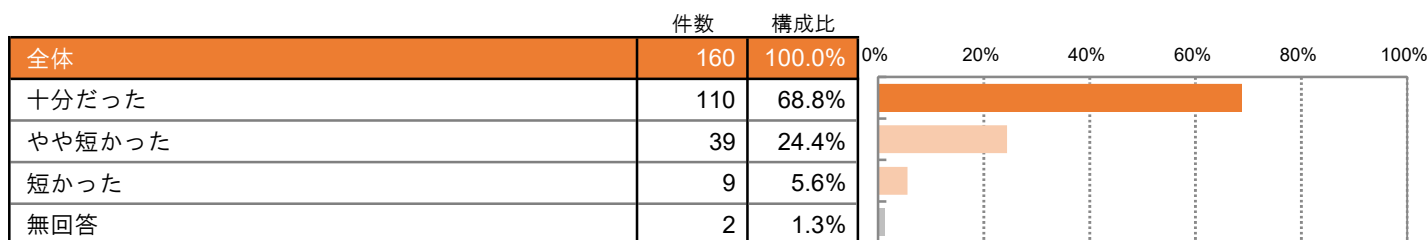
「どちらでもなかった」56件(35.0%)が最も多く、続いて「どちらかといえば派遣されたかった」47件(29.4%)、「派遣されたかった」42件(26.3%)の順となっている。

Q5. 派遣決定から出発までの日数



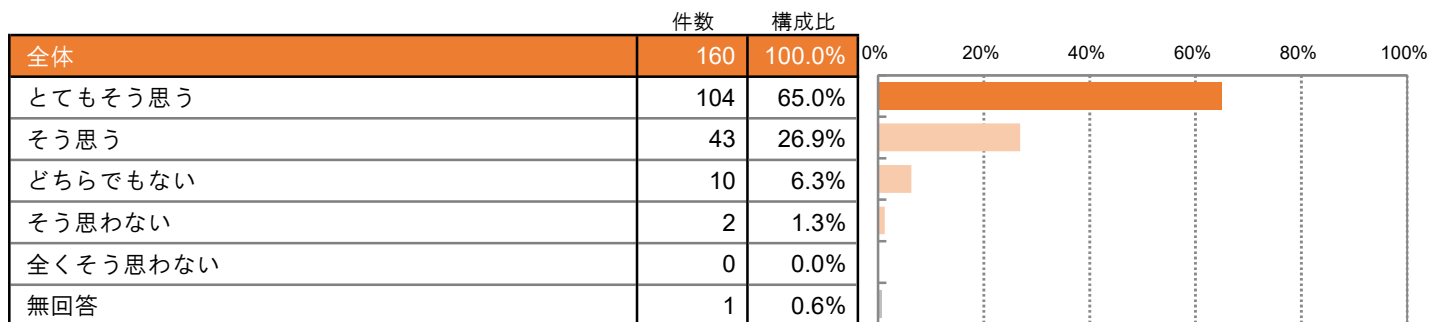
「6～10日」46件(28.8%)が最も多く、続いて「5日以下」34件(21.3%)、「11～15日」33件(20.6%)の順となっている。また平均日数は(12.5日)、標準偏差は(8.3日)となっている。

Q6. 派遣決定から出発までの日数は派遣の準備をする上で十分でしたか



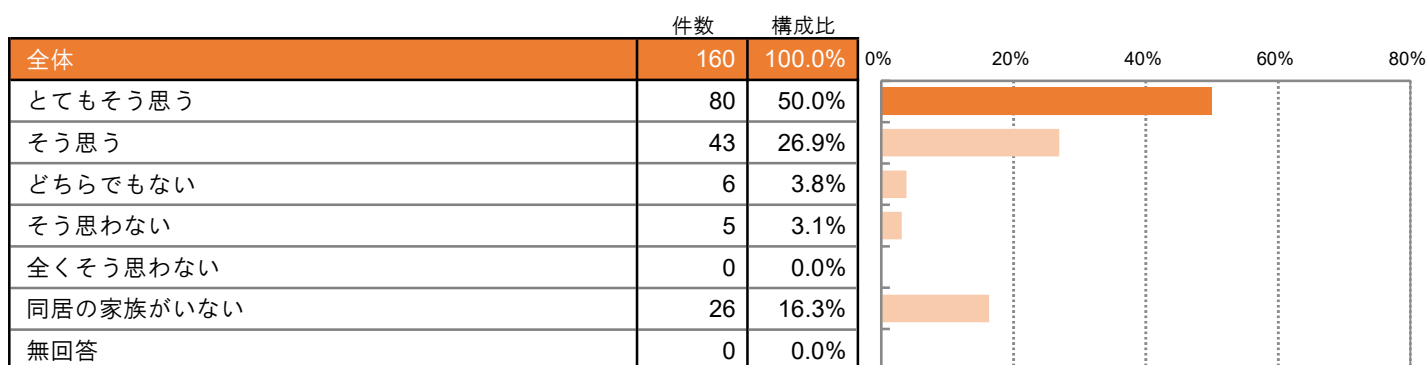
「十分だった」110件(68.8%)が最も多く、続いて「やや短かった」39件(24.4%)、「短かった」9件(5.6%)の順となっている。

Q7. 派遣にあたって職場は協力的でしたか



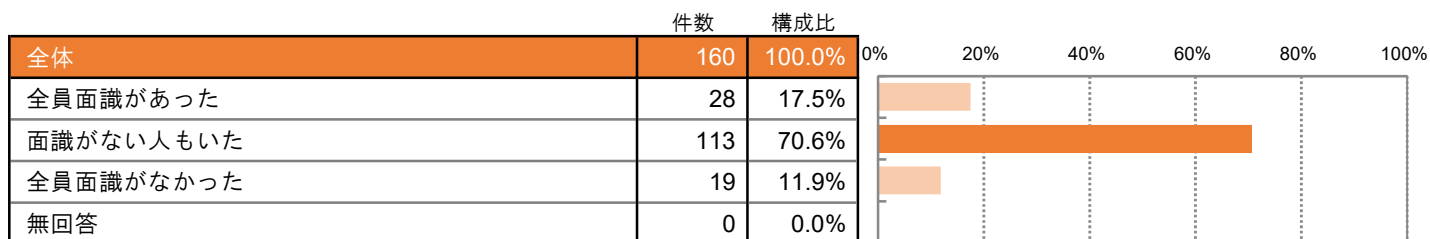
「とても思う」104件(65.0%)が最も多く、続いて「そう思う」43件(26.9%)、「どちらでもない」10件(6.3%)の順となっている。

Q8. 派遣にあたって同居のご家族は協力的でしたか



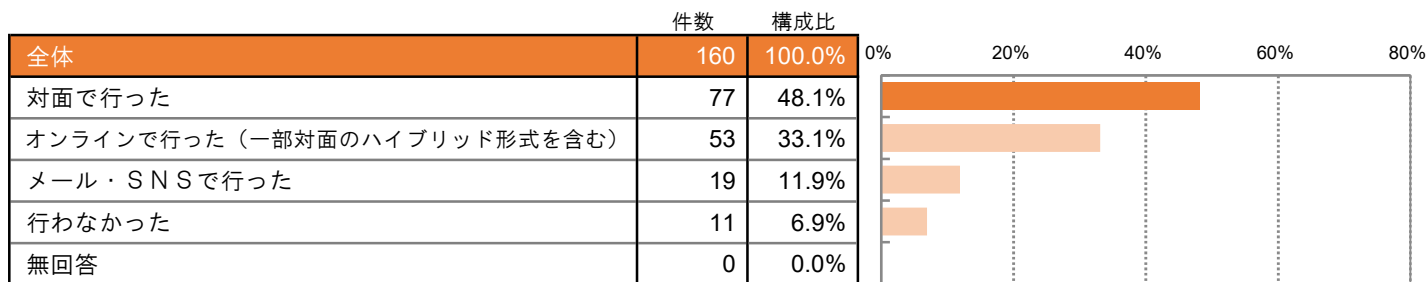
「とても思う」80件(50.0%)が最も多く、続いて「そう思う」43件(26.9%)、「同居の家族がいない」26件(16.3%)の順となっている。

Q9. 班の構成員は派遣前から互いに面識がありましたか



「面識がない人もいた」113件(70.6%)が最も多く、続いて「全員面識があった」28件(17.5%)、「全員面識がなかった」19件(11.9%)の順となっている。

Q10. 派遣前に班のミーティング(簡単な顔合わせなども含む)を行いましたか



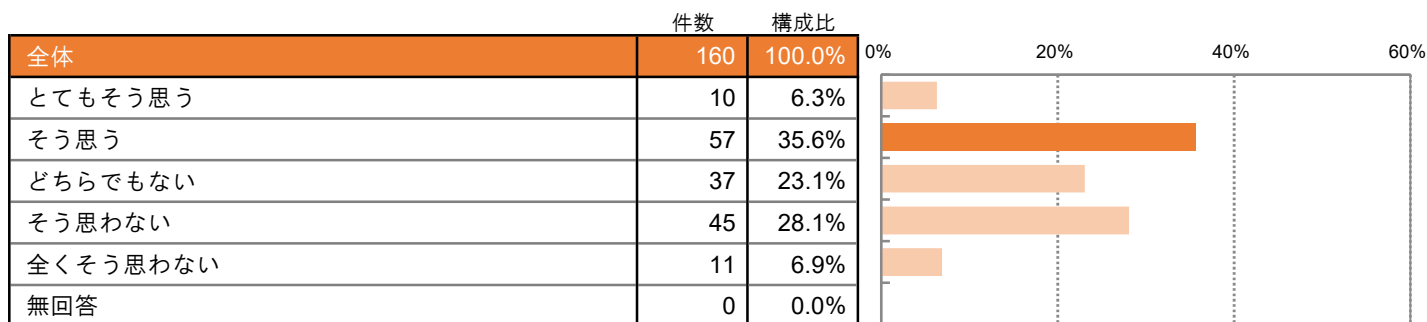
「対面で行った」77件(48.1%)が最も多く、続いて「オンラインで行った（一部対面のハイブリッド形式を含む）」53件(33.1%)、「メール・SNSで行った」19件(11.9%)の順となっている。

Q11. DHEATの活動目的について



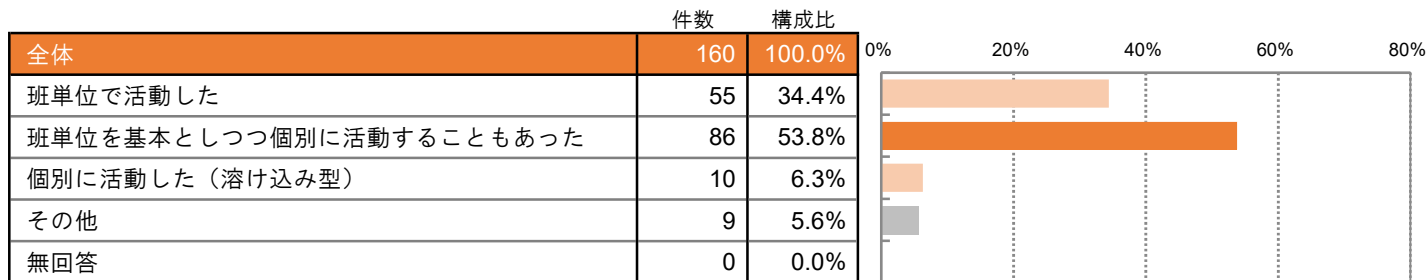
DHEATの活動目的を「はい」を選択した割合でみると、「①DHEATとしての支援活動の目的（当該派遣期間だけでなくDHEAT活動全体を通じて目指すべき目的）は明確に示されていましたか」117件(73.1%)が最も高く、続いて「②当該活動期間におけるDHEATとしての支援活動の目標は具体的に示されていましたか」99件(61.9%)の順となっている。

Q12. 支援対象組織(県・市町・保健所・1.5次避難所等)の保健医療福祉活動に関する指揮命令系統はわかりやすかったですか



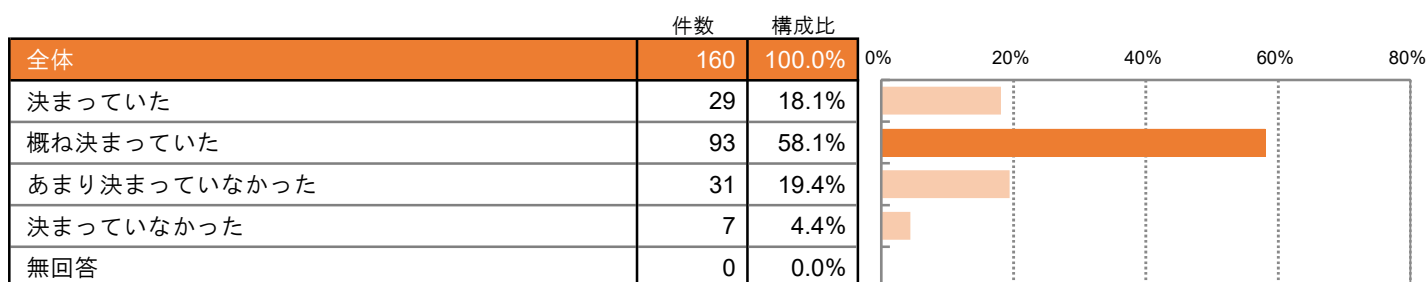
「そう思う」57件(35.6%)が最も多く、続いて「そう思わない」45件(28.1%)、「どちらでもない」37件(23.1%)の順となっている。

Q13. DHEATとしてどのような形態で活動しましたか



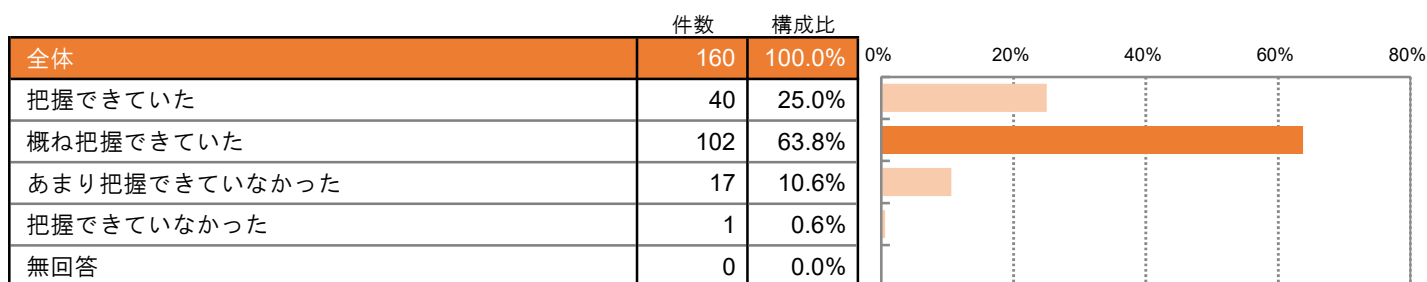
「班単位を基本としつつ個別に活動することもあった」86件(53.8%)が最も多く、続いて「班単位で活動した」55件(34.4%)、「個別に活動した（溶け込み型）」10件(6.3%)の順となっている。

Q14. DHEATとしてのあなたの活動内容を明確に決まっていたか



「概ね決まっていた」93件(58.1%)が最も多く、続いて「あまり決まっていなかった」31件(19.4%)、「決まっていた」29件(18.1%)の順となっている。

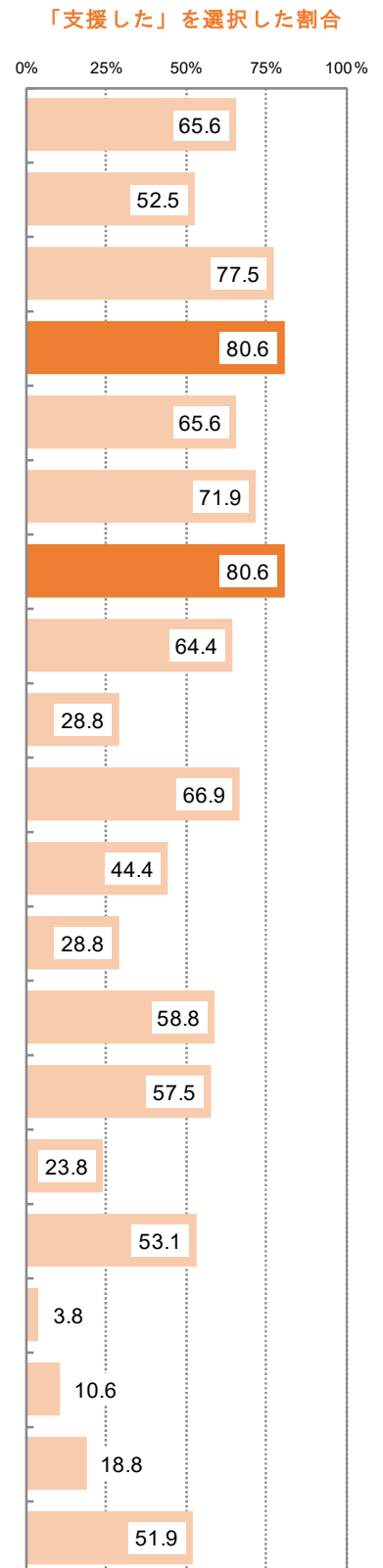
Q15. 班の他の構成員の活動内容を把握できていましたか



「概ね把握できていた」102件(63.8%)が最も多く、続いて「把握できていた」40件(25.0%)、「あまり把握できていなかった」17件(10.6%)の順となっている。

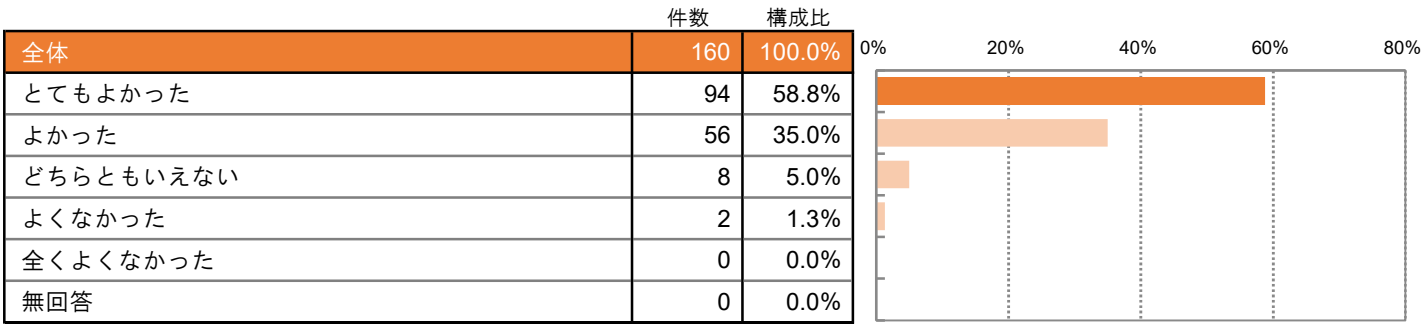
Q16. あなたの班で従事した支援活動

	回答数 (構成比)	支援した	支援しなかった			無回答
			必要性は あった	必要性は なかった	必要性は 不明	
① 調整本部等の設置・運営	160	105	2	35	14	4
	100.0	65.6	1.3	21.9	8.8	2.5
② 指揮調整体制の構築	160	84	6	46	19	5
	100.0	52.5	3.8	28.8	11.9	3.1
③ 被災情報等の収集・集計	160	124	7	19	8	2
	100.0	77.5	4.4	11.9	5.0	1.3
④ 状況の分析・評価	160	129	8	6	11	6
	100.0	80.6	5.0	3.8	6.9	3.8
⑤ 対策の企画立案	160	105	11	18	21	5
	100.0	65.6	6.9	11.3	13.1	3.1
⑥ 会議運営 (会議スケジュールの設定を含む)	160	115	1	29	12	3
	100.0	71.9	0.6	18.1	7.5	1.9
⑦ 会議資料の作成	160	129	4	18	6	3
	100.0	80.6	2.5	11.3	3.8	1.9
⑧ 会議議事録の作成	160	103	2	38	12	5
	100.0	64.4	1.3	23.8	7.5	3.1
⑨ 広報・コミュニケーション活動	160	46	17	40	53	4
	100.0	28.8	10.6	25.0	33.1	2.5
⑩ 渉外(リエゾン)活動 (関係機関との連絡窓口)	160	107	4	19	27	3
	100.0	66.9	2.5	11.9	16.9	1.9
⑪ ロードマップの作成	160	71	25	27	33	4
	100.0	44.4	15.6	16.9	20.6	2.5
⑫ 対応従事者の健康管理	160	46	33	35	43	3
	100.0	28.8	20.6	21.9	26.9	1.9
⑬ 保健師等チームの受援調整	160	94	6	35	21	4
	100.0	58.8	3.8	21.9	13.1	2.5
⑭ その他支援チームの受援調整	160	92	6	33	26	3
	100.0	57.5	3.8	20.6	16.3	1.9
⑮ 物資調達	160	38	8	64	45	5
	100.0	23.8	5.0	40.0	28.1	3.1
⑯ 情報システムへの入力	160	85	8	31	31	5
	100.0	53.1	5.0	19.4	19.4	3.1
⑰ 求償等費用に関する業務	160	6	6	81	62	5
	100.0	3.8	3.8	50.6	38.8	3.1
⑱ 大規模広域避難所 (1. 5次避難所等)の運営	160	17	7	83	48	5
	100.0	10.6	4.4	51.9	30.0	3.1
⑲ その他避難所の運営	160	30	9	67	50	4
	100.0	18.8	5.6	41.9	31.3	2.5
⑳ 感染症対策(避難所等の防疫など)	160	83	7	34	31	5
	100.0	51.9	4.4	21.3	19.4	3.1



班で従事した支援活動を「支援した」を選択した割合でみると、「④状況の分析・評価」と「⑦会議資料の作成」が同率の129件(80.6%)と最も高く、続いて「③被災情報等の収集・集計」124件(77.5%)の順となっている。

Q17. 班のチームワークはいかがでしたか



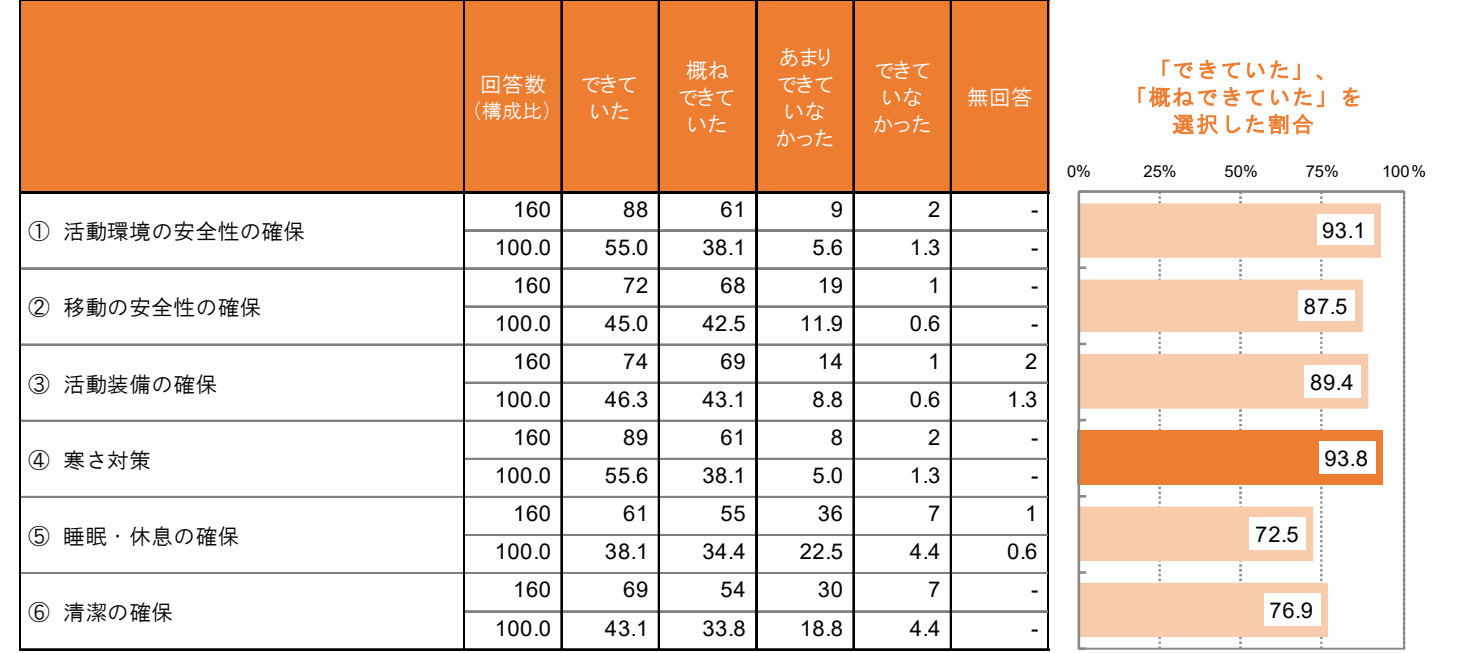
「とてもよかった」94件(58.8%)が最も多く、続いて「よかった」56件(35.0%)、「どちらともいえない」8件(5.0%)の順となっている。

Q18. 支援対象組織や支援チームとの情報共有状況



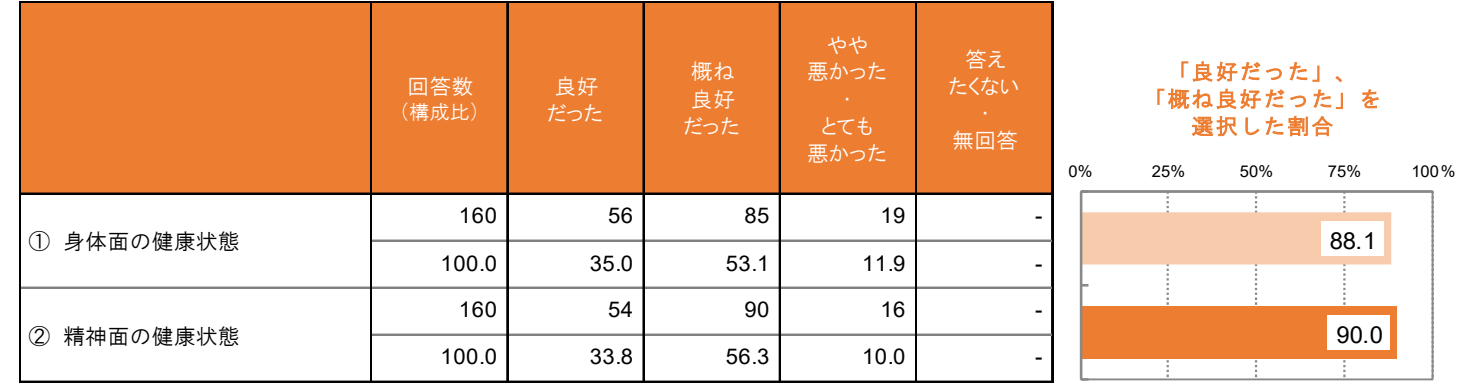
支援対象組織や支援チームとの情報共有状況を「できた」、「概ねできた」を選択した割合でみると、「⑬保健師等チーム」133件(90.5%)と最も高く、続いて「④D M A T (災害派遣医療チーム)」132件(90.4%)、「③市・町」120件(87.0%)の順となっている。

Q19. 活動期間中の安全・健康に関する実施状況



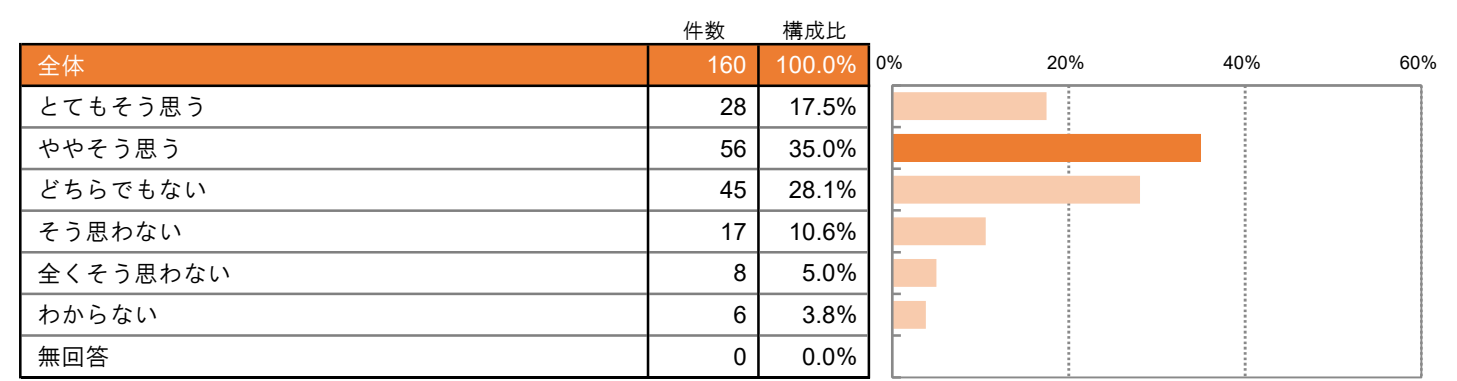
活動期間中の安全・健康に関する実施状況を「できていた」、「概ねできていた」を選択した割合でみると、「④寒さ対策」150件（93.8%）が最も多く、続いて「①活動環境の安全性の確保」149件（93.1%）と9割を超える回答を得ている。また他の項目についても、対策・確保が行われていたとの回答が7割を超えており、安全・健康に関する管理が概ね実施できていることがわかった。

Q20. 活動期間中の身体面および精神面の健康状態



活動期間中の身体面および精神面の健康状態を「良好だった」、「概ね良好だった」を選択した割合でみると、「②精神面の健康状態」144件（90.0%）と最も高く、続いて「①身体面の健康状態」141件（88.1%）と共に多くの回答を得ている。

Q21. 活動期間中に心身の健康状態等を相談できる体制は整っていましたか



「ややそう思う」56件（35.0%）が最も多く、続いて「どちらでもない」45件（28.1%）、「とてもそう思う」28件（17.5%）の順となっている。

Q22. 情報システムの使用状況および使用感等

①使用状況



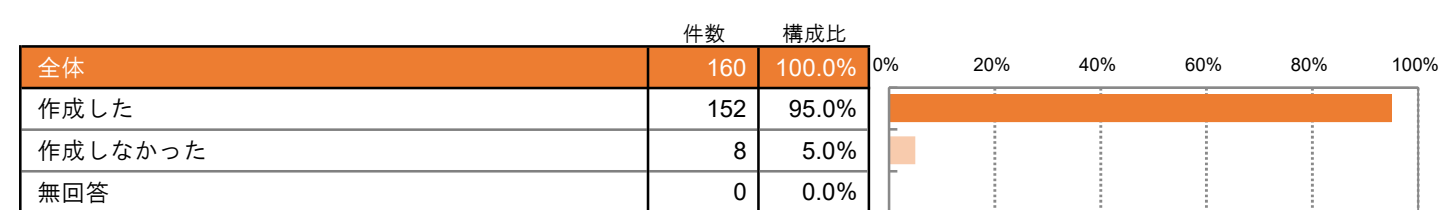
情報システムの使用状況を「使用した」を選択した割合でみると、「②D 2 4 H」61件(38.1%)と最も高く、続いて「⑤支援者健康管理版 J－S P E E D」40件(25.0%)の順となっている。

②使用感



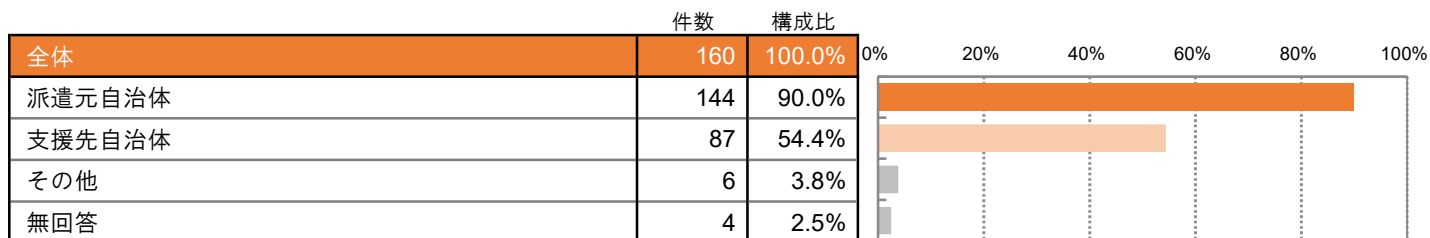
情報システムの使用感を「使いこなせた」、「概ね使いこなせた」を選択した割合でみると、「①E M I S (広域災害救急医療情報システム)」19件(67.9%)が最も高く、続いて「③保健所現状報告システム」7件(63.6%)の順となっている。

Q23. DHEAT活動日報を作成しましたか



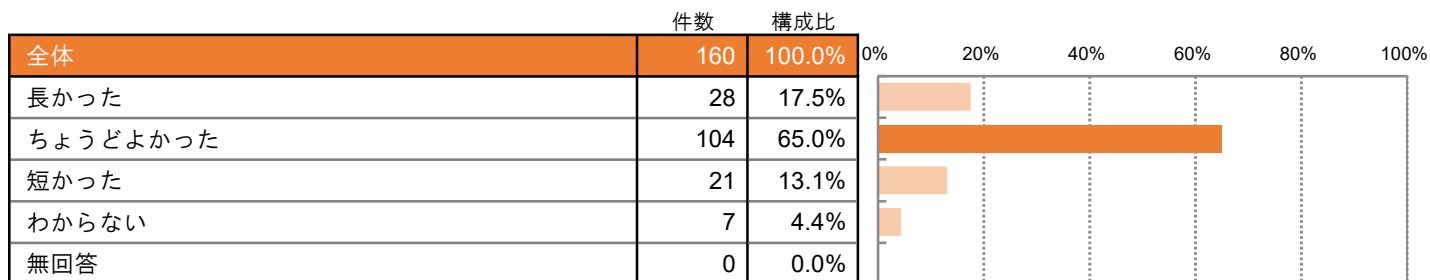
「作成した」152件(95.0%)が最も多く、続いて「作成しなかった」8件(5.0%)の順となっている。

Q24. DHEAT活動日報の報告先〔複数回答〕



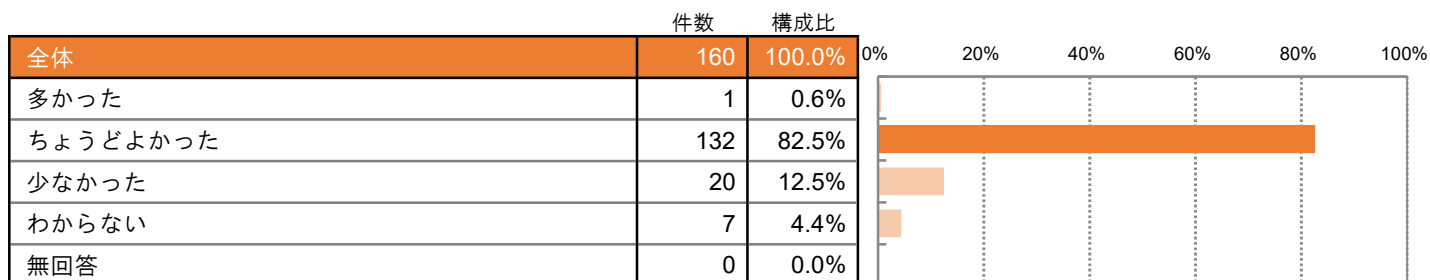
「派遣元自治体」144件(90.0%)が最も多く、続いて「支援先自治体」87件(54.4%)の順となっている。

Q26. 活動期間は適切でしたか



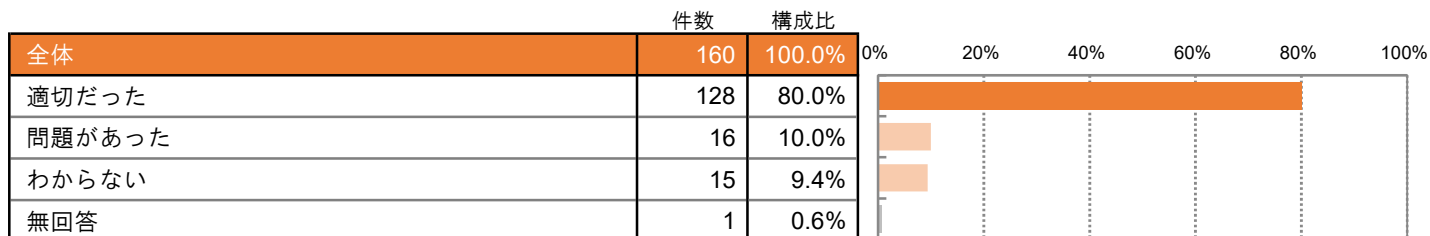
「ちょうどよかった」104件(65.0%)が最も多く、続いて「長かった」28件(17.5%)、「短かった」21件(13.1%)の順となっている。

Q27. 班の構成員の人数は適切でしたか



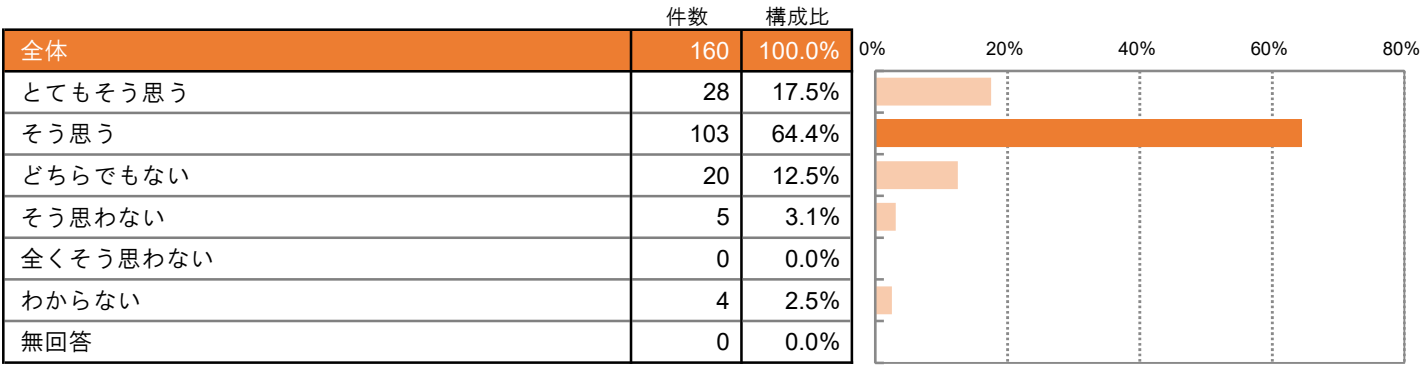
「ちょうどよかった」132件(82.5%)が最も多く、続いて「少なかった」20件(12.5%)、「わからない」7件(4.4%)の順となっている。

Q28. 班の構成員の職種等の構成は適切でしたか



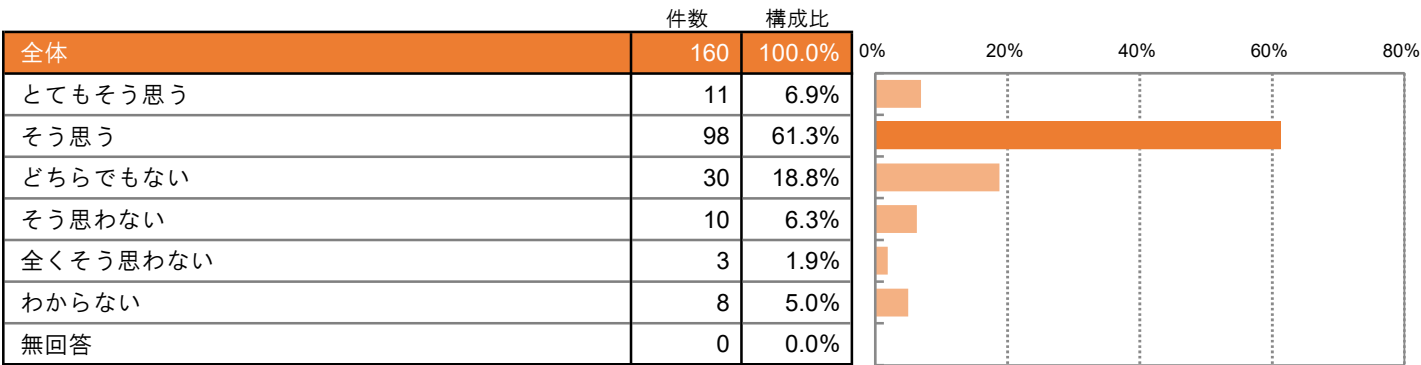
「適切だった」128件(80.0%)が最も多く、続いて「問題があった」16件(10.0%)、「わからない」15件(9.4%)の順となっている。

Q29. 班として活動目標を達成できましたか
(活動目標が設定されていない場合:被災地の保健医療福祉活動に貢献できましたか)



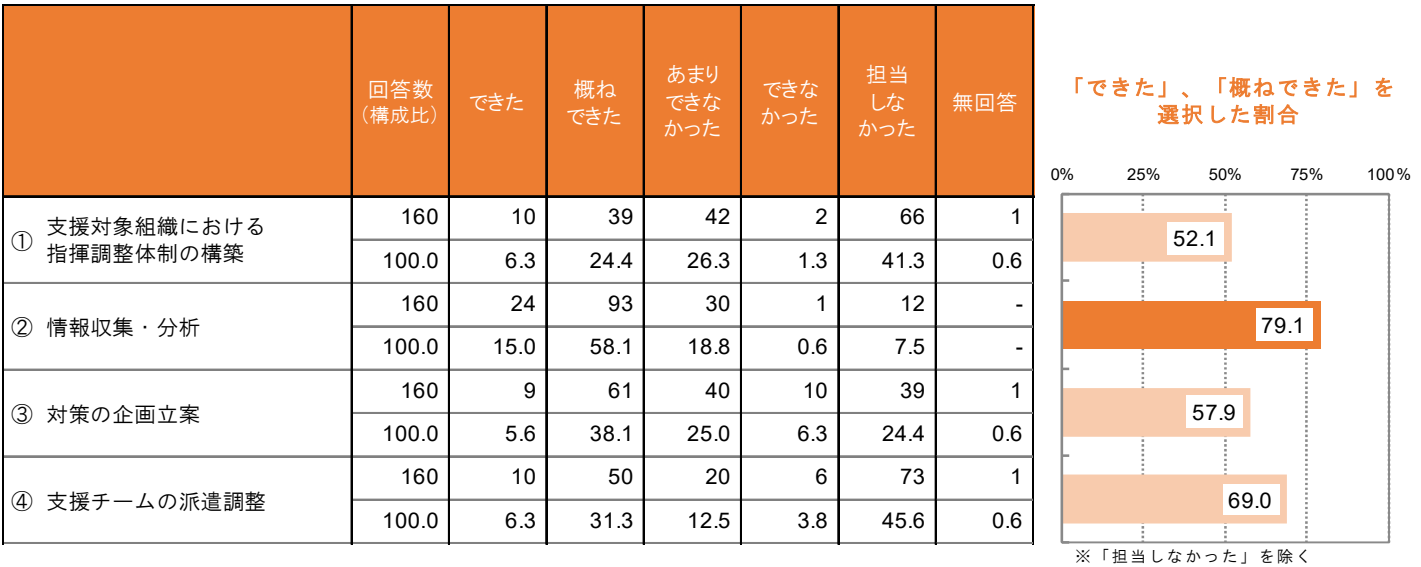
「思う」103件(64. 4%)が最も多く、続いて「とても思う」28件(17. 5%)、「どちらでもない」20件(12. 5%)の順となっている。

Q30. あなた自身はDHEAT構成員として支援活動に貢献できましたか



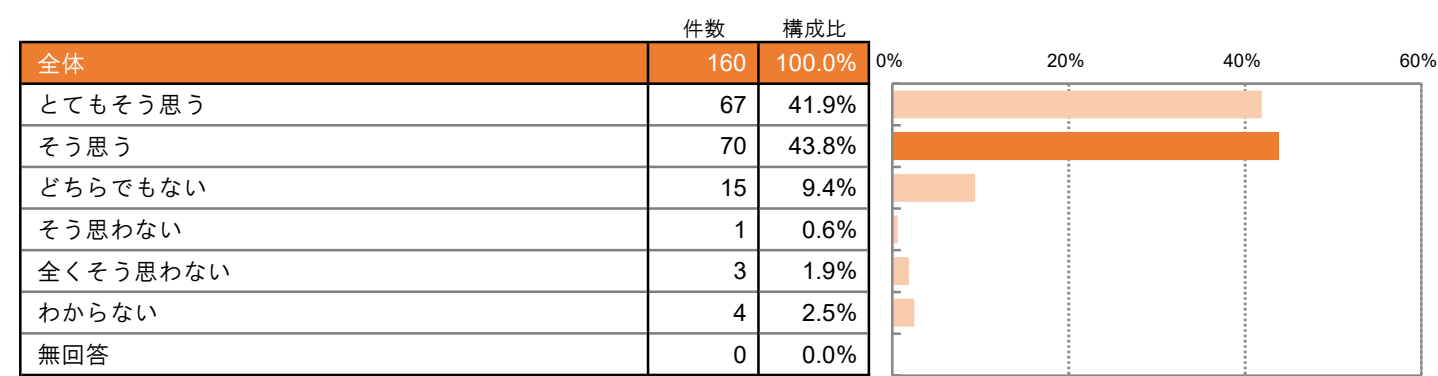
「思う」98件(61. 3%)が最も多く、続いて「どちらでもない」30件(18. 8%)、「とても思う」11件(6. 9%)の順となっている。

Q31. あなた自身の業務遂行状況



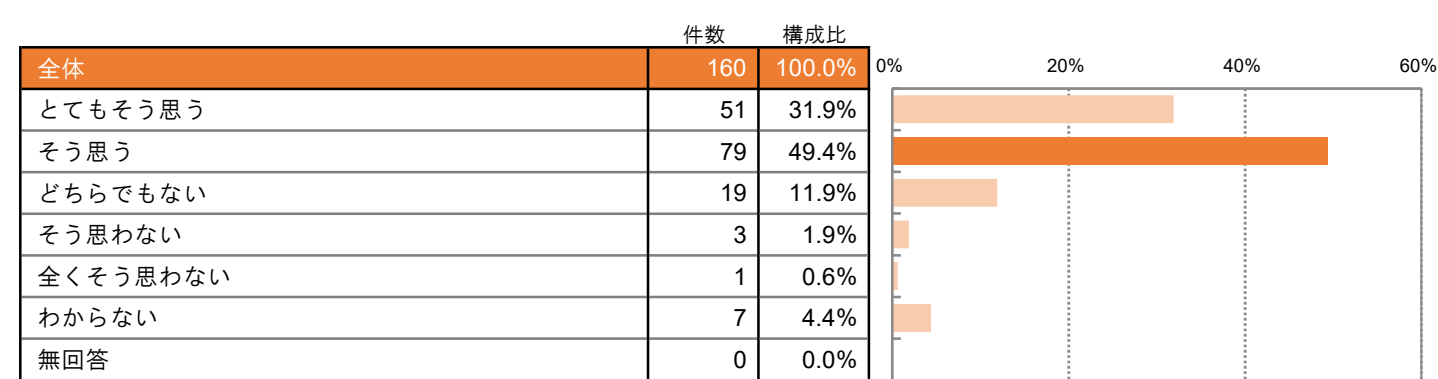
あなた自身の業務遂行状況を「できた」、「概ねできた」を選択した割合でみると、「②情報収集・分析」117件(79. 1%)と最も高く、続いて「④支援チームの派遣調整」60件(69. 0%)の順となっている。

Q32. 今回のDHEATの派遣は、あなた自身の健康危機管理に関する能力の向上に寄与しましたか



「そう思う」70件(43.8%)が最も多く、続いて「とてもそう思う」67件(41.9%)、「どちらでもない」15件(9.4%)の順となっている。

Q33. 今回のDHEATの派遣は、あなたの自治体の健康危機管理体制の強化に寄与しましたか



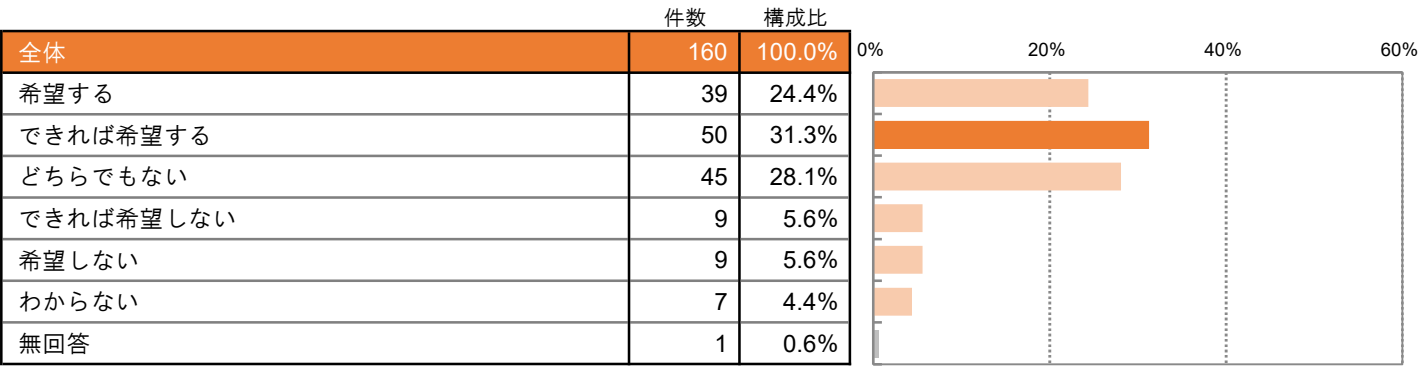
「そう思う」79件(49.4%)が最も多く、続いて「とてもそう思う」51件(31.9%)、「どちらでもない」19件(11.9%)の順となっている。

Q35. 今回のDHEATの派遣をふりかえった時の研修等の有用性



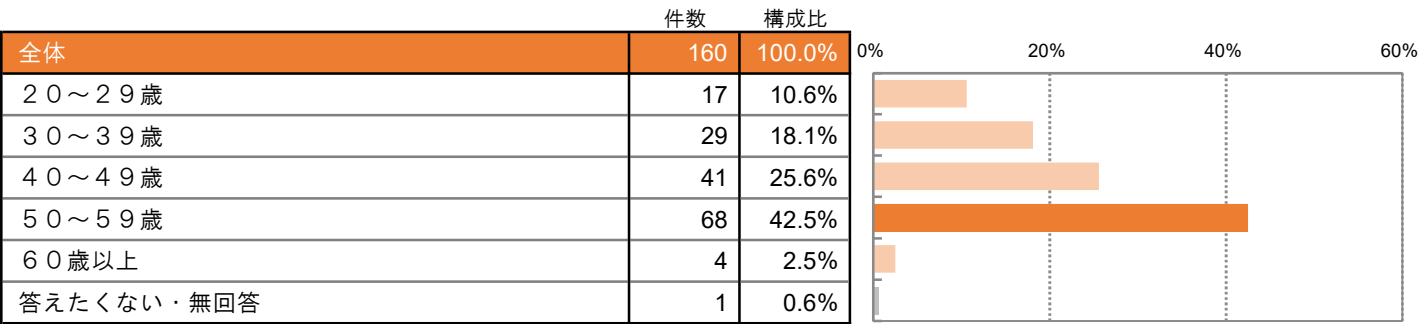
今回のD H E A T の派遣をふりかえった時の研修等の有用性を「できた」、「概ねできた」を選択した割合でみると、「④自治体主催の災害研修・訓練」76件(78.4%)と最も高く、続いて「①D H E A T 基礎編研修」71件(75.5%)の順となっている。

Q37. 今後DHEATの派遣要請があった場合に、派遣されることを希望しますか



「できれば希望する」50件(31.3%)が最も多く、続いて「どちらでもない」45件(28.1%)、「希望する」39件(24.4%)の順となっている。

Q39. 年齢層(今回の派遣の出発日時点)



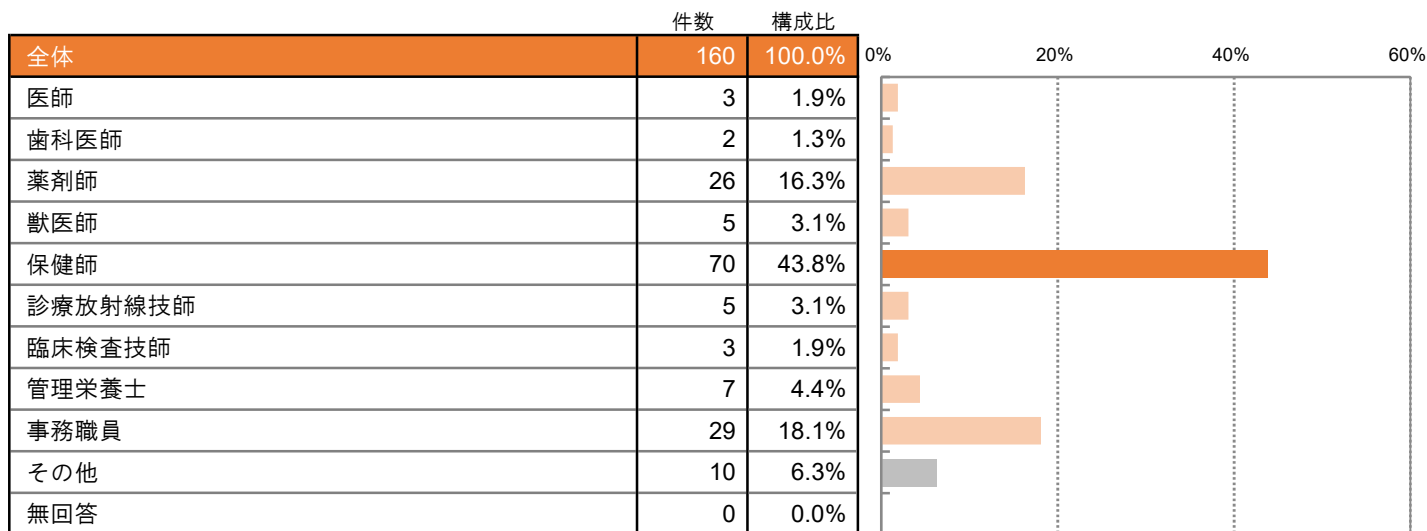
「50～59歳」68件(42.5%)が最も多く、続いて「40～49歳」41件(25.6%)、「30～39歳」29件(18.1%)の順となっている。

Q40. 性別



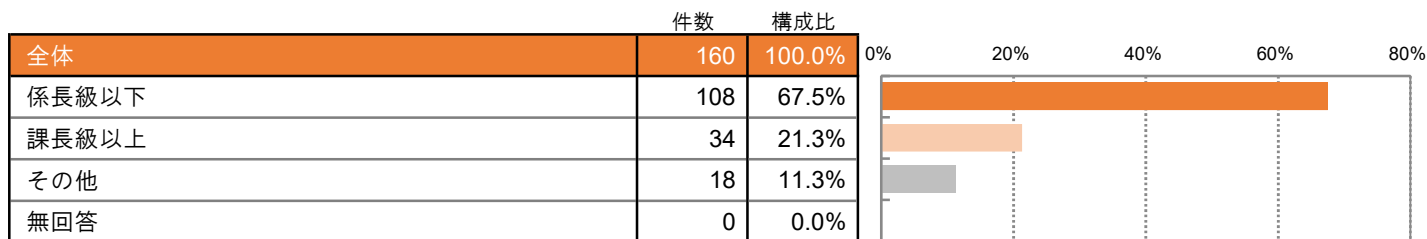
「女性」84件(52.5%)が最も多く、続いて「男性」74件(46.3%)、「答えたくない」1件(0.6%)の順となっている。

Q41. 職種



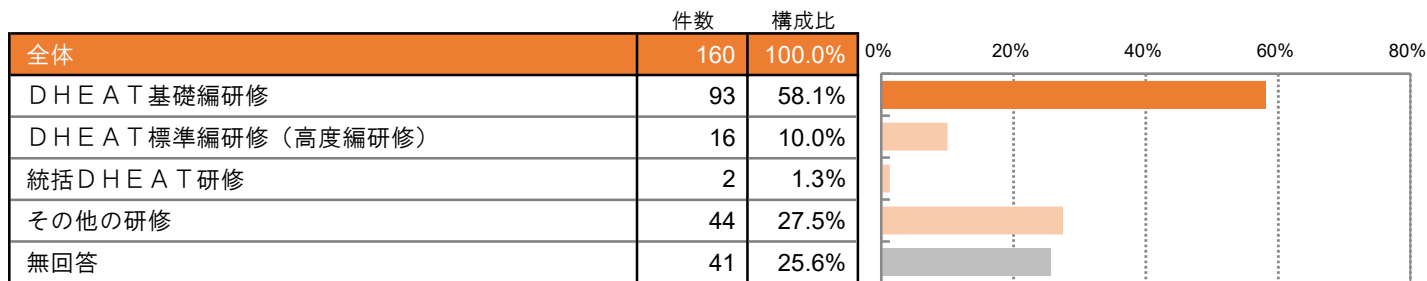
「保健師」70件(43.8%)が最も多く、続いて「事務職員」29件(18.1%)、「薬剤師」26件(16.3%)の順となっている。

Q42. 職位



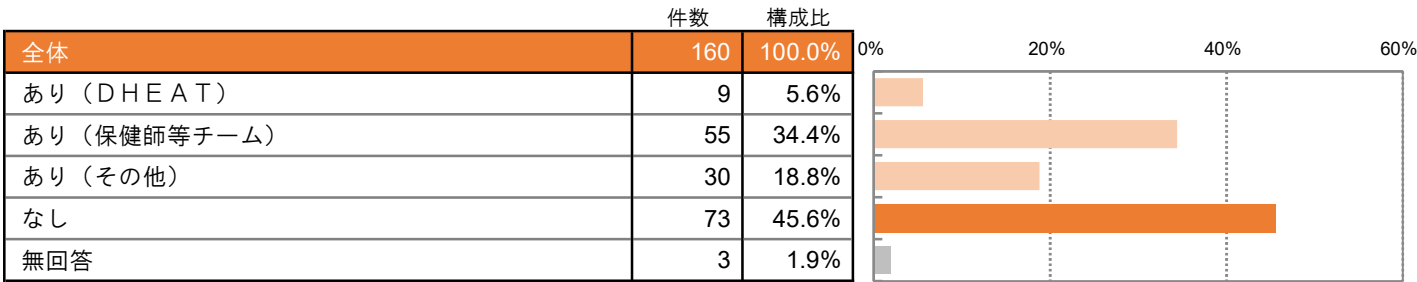
「係長級以下」108件(67.5%)が最も多く、続いて「課長級」31件(19.4%)、「部長級」3件(1.9%)の順となっている。

Q43. 研修受講歴〔複数回答〕



「D H E A T 基礎編研修」93件(58.1%)が最も多く、続いて「その他の研修」44件(27.5%)、「D H E A T 標準編研修（高度編研修）」16件(10.0%)の順となっている。

Q44. 災害支援経験(令和6年能登半島地震より前の支援経験)[複数回答]



「なし」73件(45.6%)が最も多く、続いて「あり（保健師等チーム）」55件(34.4%)、「あり（その他）」30件(18.8%)の順となっている。

Q45. 災害受援経験



「なし」124件(77.5%)が最も多く、続いて「あり」35件(21.9%)の順となっている。